

14.4

977

岩手県勢要覽
昭和八年版



* 0032093001 *

0032093-001

14.4-977

岩手県勢要覽

岩手県・編

岩手県

昭和8-9年版

昭和8-9

AFB

岩手縣勢要覽

昭和八年版

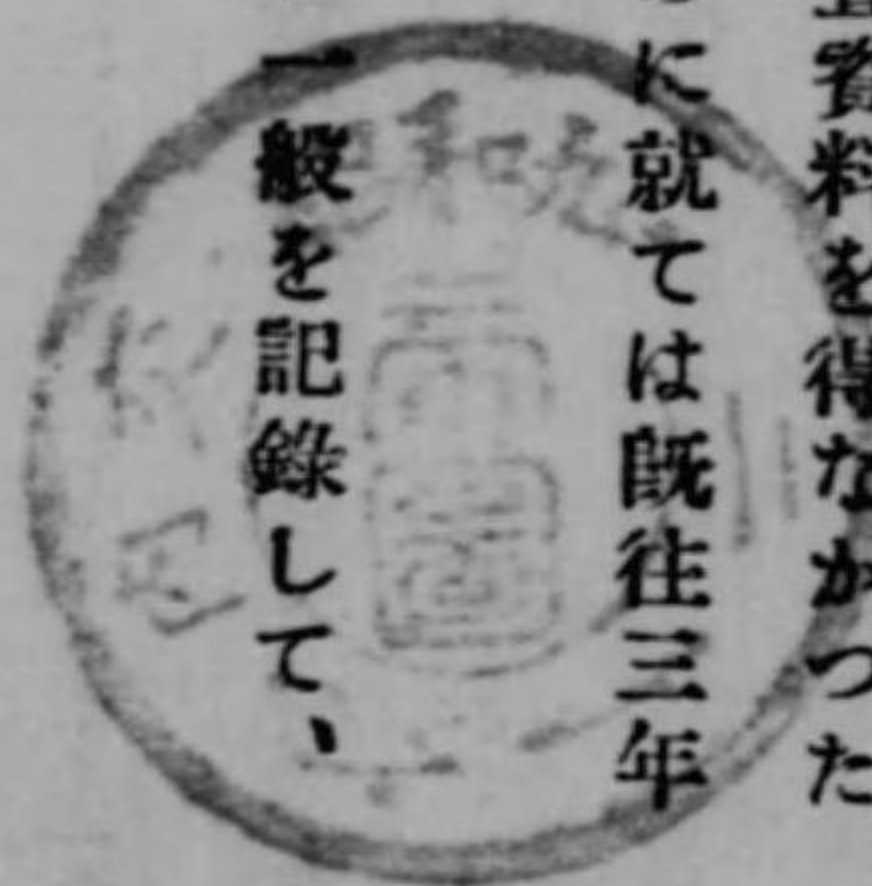
二八三
八三三

凡例

- 一、本縣は縣の大勢を知るに便せんが爲、主要と認むる、諸統計を収録して、其の概要に付説明を加へてある。
- 二、本書は主として昭和七年の事實に據つたのであるが、其の調査資料を得なかつたものは、最近の調査に係る事項を採り、特に重要と認むるものに就ては既往三年乃至五年の事實を併記し彼此消長を通覧するの便に供した。
- 三、附録として卷末に管内諸官衙、學校、産業施設、名勝舊蹟等の一覽を記録して、視察遊覽等の便に供した。

昭和八年十月

岩手縣知事官房



144-977

144

昭和八年版 岩手縣勢要覽

目次

岩手縣管内圖 一

岩手縣管内里程圖
(列車・船舶・電車・自動車) 一

一、沿革 一

二、地勢 三

位置、面積及廣袤 四

三、氣象 五

氣象 六

四、土地 六

土地 七

五、戶口 八

人口靜態 八

人口動態 九

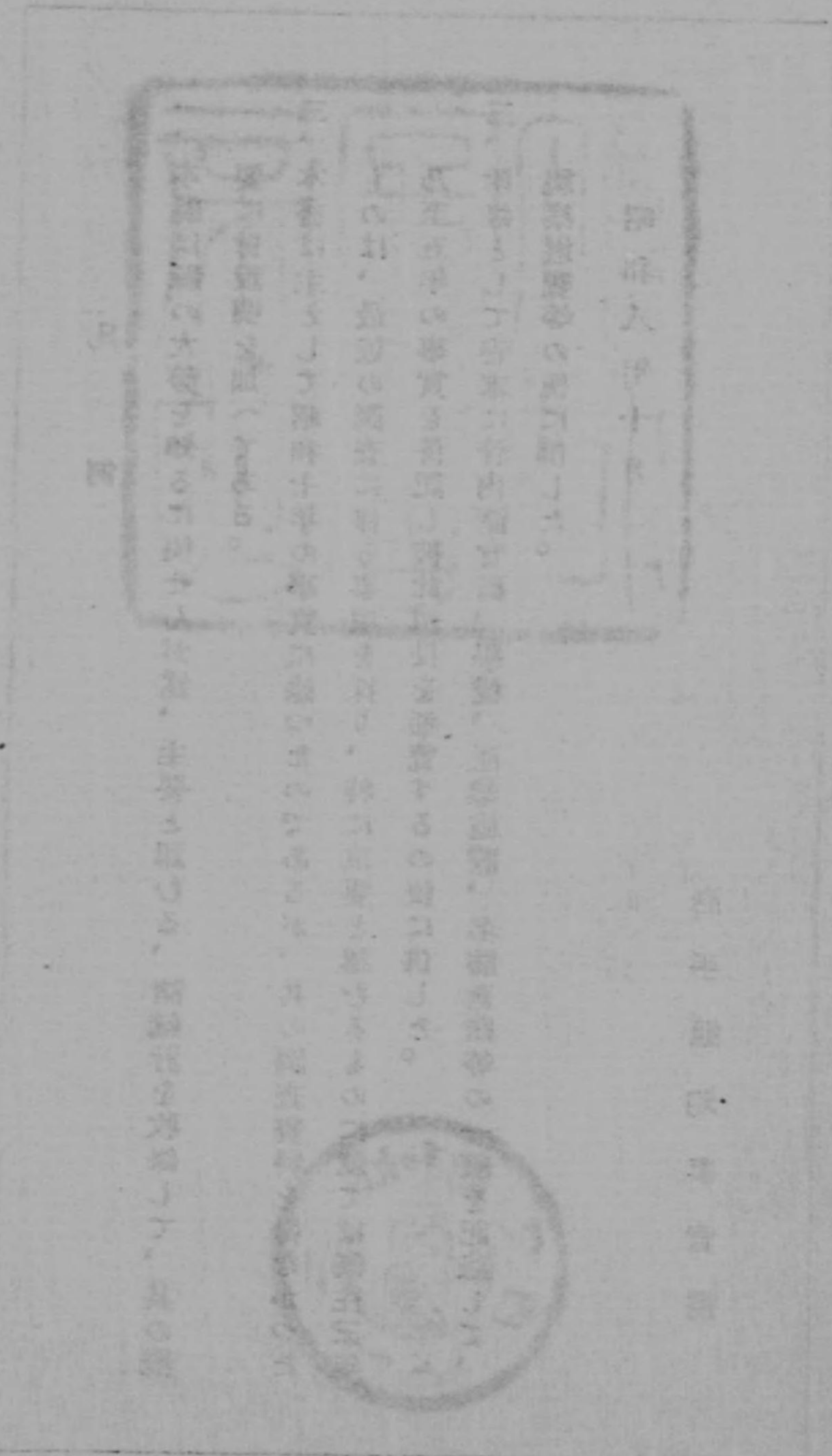
市町村別戶口及面積 一〇

六、行政 一八

行政區劃 一九

議會 二〇

官吏其他 二〇



七、產業

職業別戶數	三三
重要物產	三三
主要生產物累年比較	三四
生產物總價額	三〇
生產額累年比較	三三
八、農業	三三
耕地	三四
耕地面積	三四
農產物	三五
米及麥	三六

九、蠶絲業

製絲工場	三八
養蠶物	三八
繭及桑畑	三九
一〇、林業	四〇
民有林野	四〇
保安林	四一
林產物	四一
一一、水產業	四二
水產業者	四二
漁船及漁網	四三
水產物	四三

一二、畜產業

畜產業者	四四
畜產物	四五
一三、鑛業	四六
鑛區	四六
鑛產物	四六
一四、工業	四七
工場	四七
工產物	四八
一五、商業	四九
商工會議所	四九
會社	五〇

物價

一六、勸業團體	五二
各種組合	五二
產業組合	五三
農業倉庫	五三
水利組合	五三
一七、經濟更生	五四
委員會	五四
計劃樹立町村	五五
一八、交通運輸	五六
道路	五六
鐵道、船舶及諸車	五七

一九、金融

銀行	五八
無盡會社	五九
信託會社	五九
質屋	六〇
郵便爲替、貯金、振替貯金	六〇
二〇、教育	六一
小學校	六一
實業補習學校	六四
官公立諸學校	六五
幼稚園	六六
教員在職年數	六七

公學費.....六八

公學資產及收入.....六八

二一、社會教育

圖書館	六九
青年道場	七〇
青年訓練所	七一
男子青年團	七一
女子青年團	七二
男女少年團	七二
二二、社會事業	七三
養育院及感化院	七三
赤十字及愛國婦人會	七四

住宅組合.....七四

公益質屋.....七四

二三、兵事

褒賞	七四
衛戍諸隊	七五
在鄉軍人會	七五
壯丁	七六

二四、社寺教會

社寺及教會.....七七

二五、保健衛生

保健衛生	七八
二六、保安	七九
火災及消防	七九

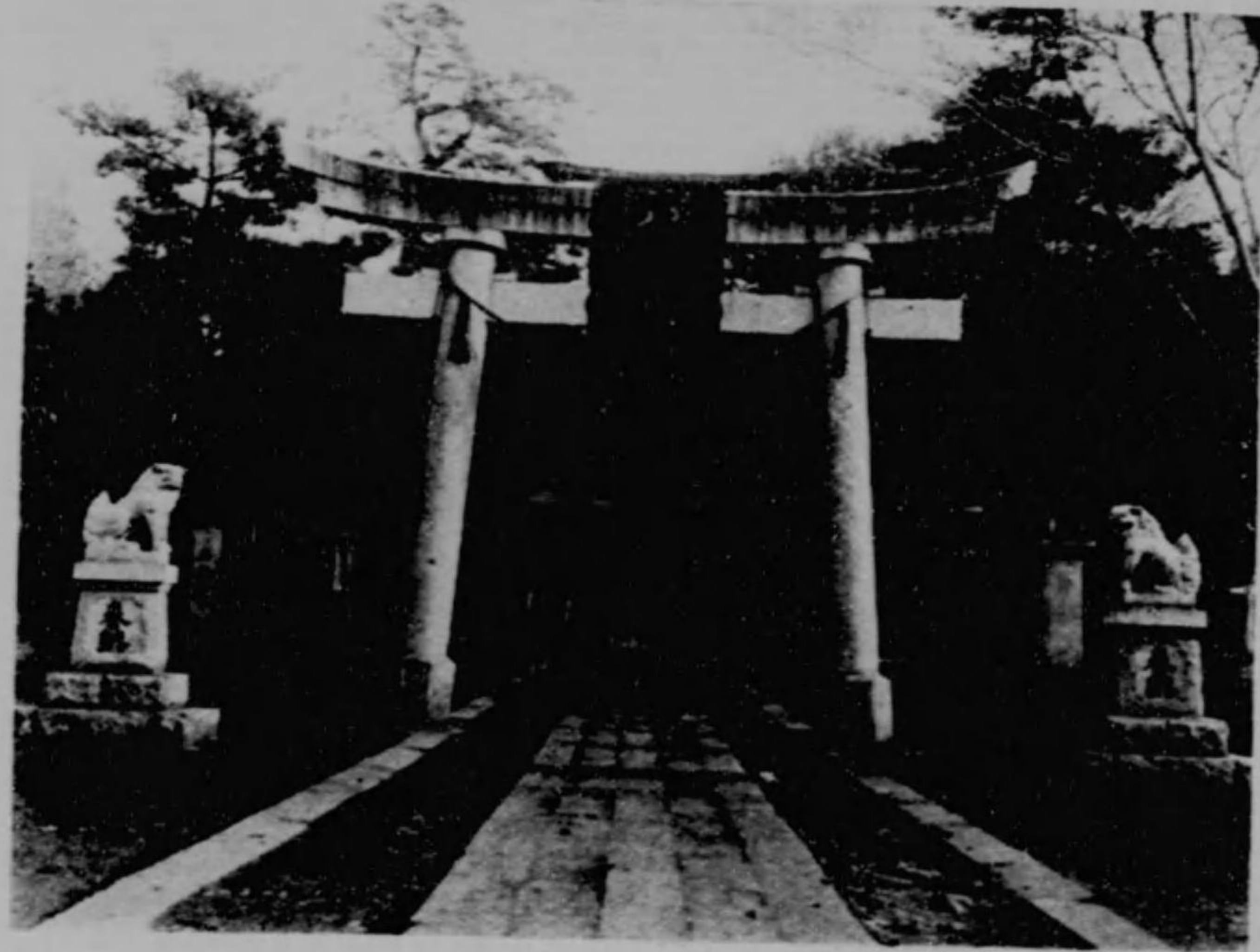
二七、警察

警察官署及犯罪.....八〇

二八、財政

資產及負債	八二
諸稅負擔	八三
諸稅	八五
縣稅納稅成績	八六
市町村稅納稅成績	八七
縣歲入	八八
縣歲出	八九
市町村歲入	九一
市町村歲出	九二

社 神 幡 八 社 縣



海 洋
青 年 道 場



附 録

岩手の案内

國 寶	二
史蹟名勝天然記念物	五
名勝舊蹟	八
神社佛閣	一五
山岳と温泉	二二
海濱と河川	二九
官公衙と學校	三三
市町村	三九
産業組合	四〇
教 育	四三
社會教育	四六
社會事業	四六

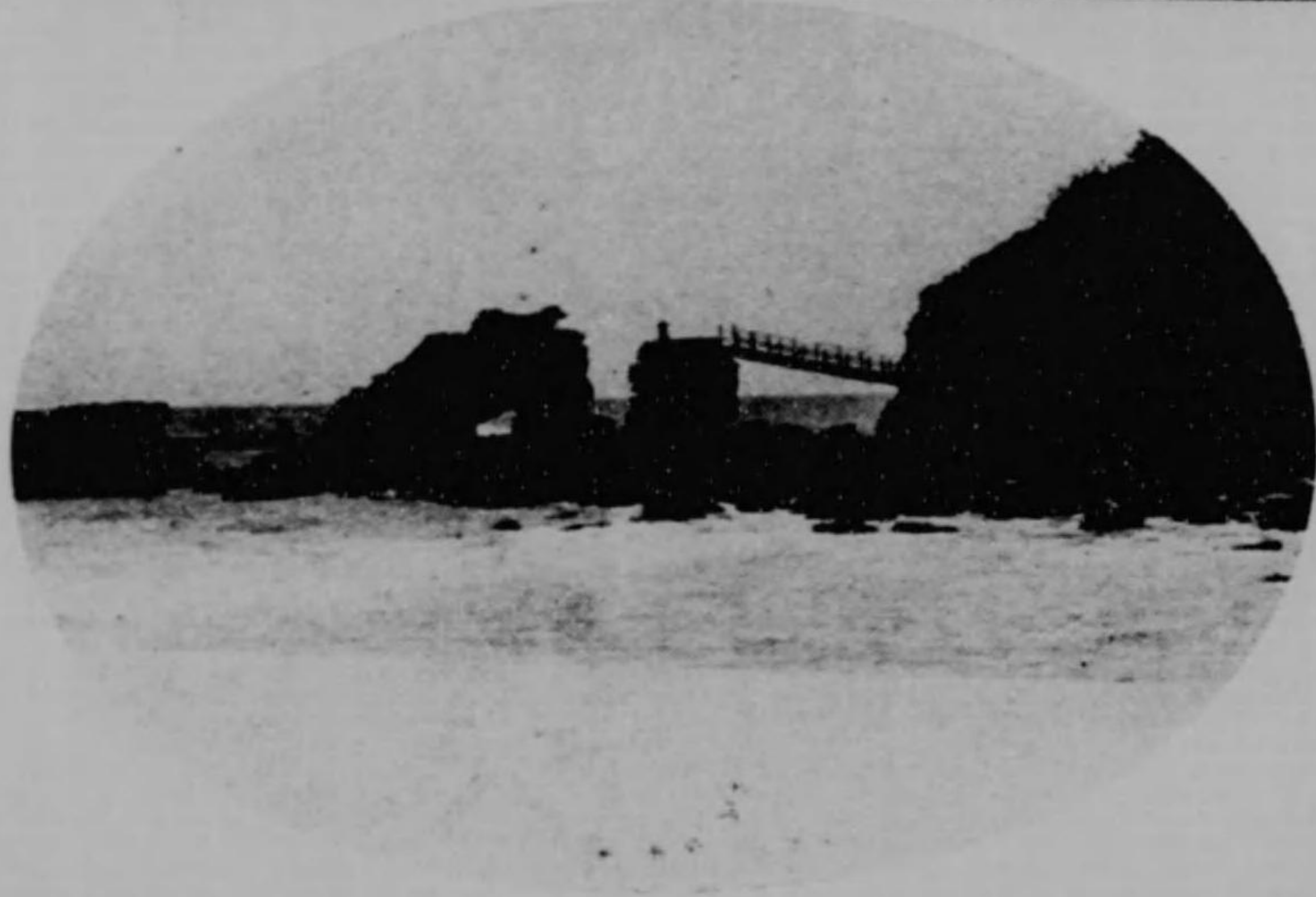
農 蠶 業	四九
林 業	五六
畜 産	五九
水 産	六三
鑛 業	六六
商 工 業	六六
主なる副業	七〇
名物名産	七六
農 産 物	七七
林 産 物	七八
水 産 物	七八
工 産 物	七九
菓子類	八一
其他飲食品	八二



釜石鑛業所



志士
横川省三氏銅像

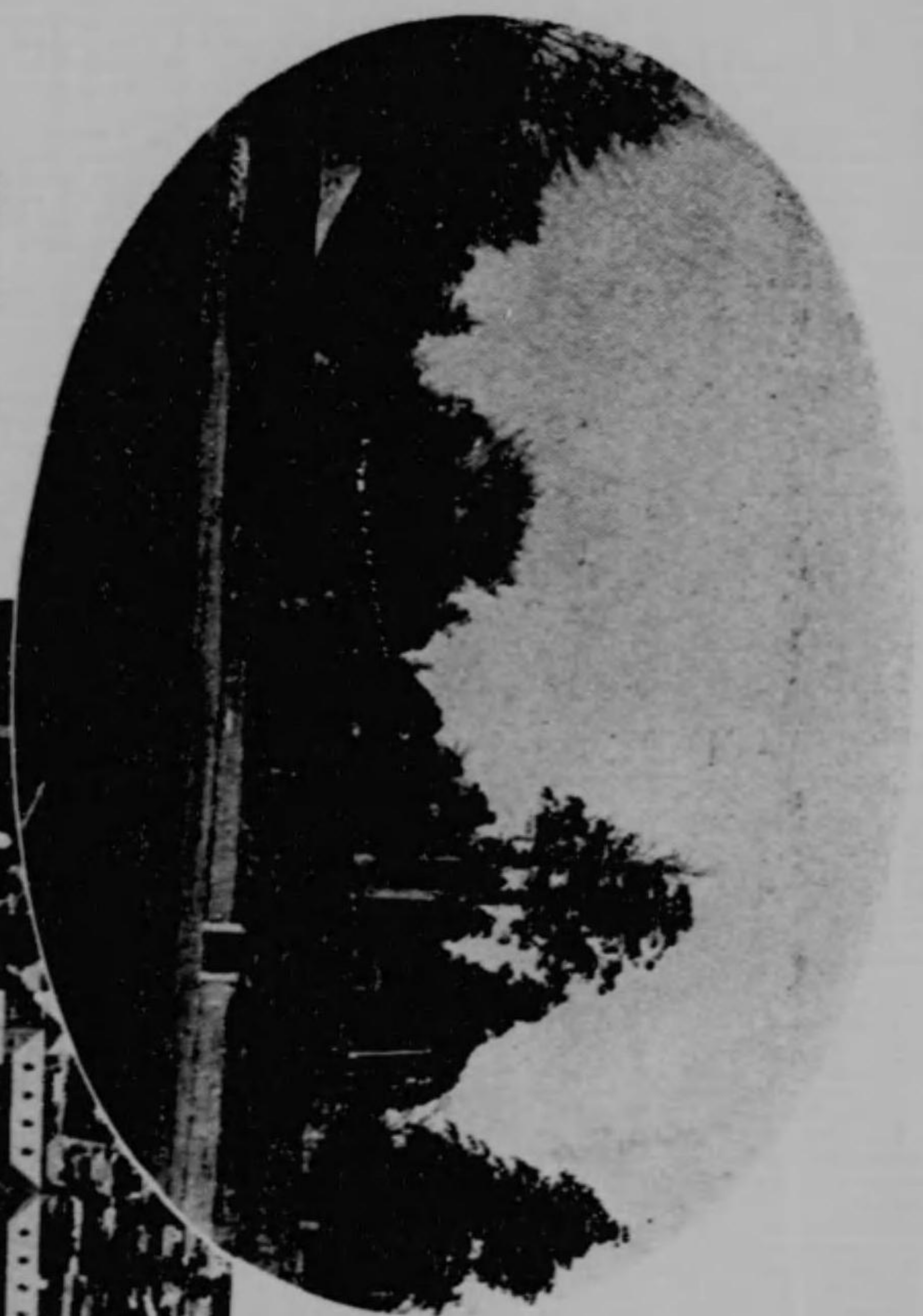


江戸ヶ濱海水浴場
(三巻)

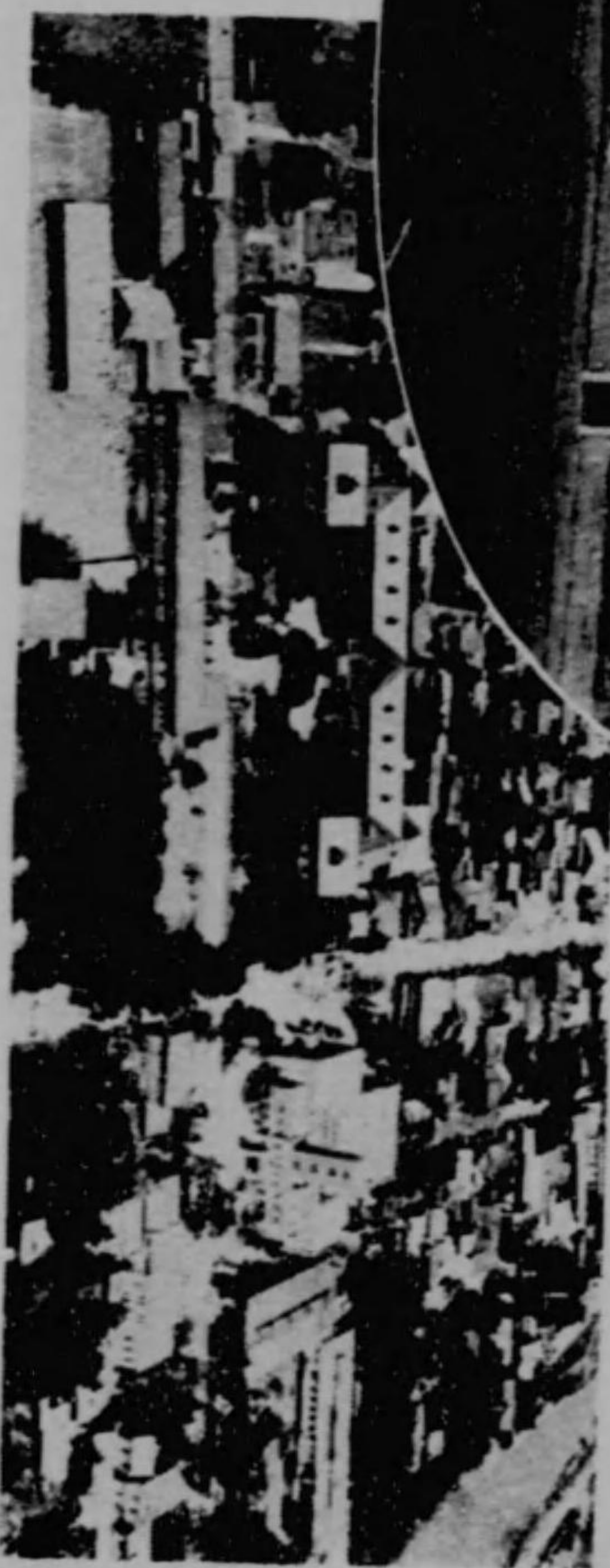


早地峰の靈峰
毛越寺
小岩井農場





岩手公圖



巖上より
觀たる盛岡
市の中央

一、沿革

本縣は元陸奥の一部で、有史以前はコロボツクルと云ふ人種が居住し、其の歴史に見えた頃は蝦夷人(アイヌ)が住居した様である。崇神天皇及景行天皇の御代、人を遣はして東夷を討伐してから、齊明天皇に至る間、幾多の軍を起して之を征服したけれ共、未だ蝦夷の巢窟たるを免れなかつた。而して本縣地方に兵を遣はしたのは、奈良朝時代、元明天皇又は元正天皇の頃で、進んで光仁天皇の時に成つて深く賊地に薙入し、更に平安朝時代に入つて桓武及嵯峨兩帝の頃、諸將をして夷族を平定し諸郡を置いた、拓殖亦其の効を奏したので、新郡が頻りに設置されて久しく事なきを得た。然るに後冷泉天皇の御代前九年の役を初めとして奥羽地方復多事になり、後三年の役が終つて漸く治まり藤原氏の有となつた、後源頼朝が府を鎌倉に開いて天下兵馬の權を掌握したけれ共、獨り奥羽は藤原氏の據る所となつて、威令が久しく之に及ばなかつた。明治元年十二月陸奥を磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國に分け、陸中は磐井、膽澤、江刺、和賀、紫波、稗貫、岩手、閉伊、九戸、鹿角の十郡を包含した、此の時南部氏は十三萬石に減封の上白石に轉封され、元の封土は朝廷の直轄となつたが同二年七月南部氏が復歸

沿革

して盛岡藩主となり、岩手、紫波、稗貫、和賀の四郡を管し、而して和賀の内二十一村が江刺縣に屬し、紫波郡の四箇村は八戸藩に屬した、同三年五月藩知事南部利恭が職を辭し、藩を廢して縣とすることを建議したが、此の歲七月盛岡藩を廢して盛岡縣を置かれた、管轄區域は藩時と同じであつたが十一月全國廢藩置縣となつて、更に青森縣より九戸郡を割き又紫波全部を屬し江刺縣を廢して、閉伊及和賀の全部を合併して盛岡縣と稱したが、同一月になつて岩手縣と改稱した、九年四月磐井縣（明治四年七月一關縣を置き同年十二月改めて水澤縣とし、同八年十一月更に改めて磐井縣とす）を廢し磐井、膽澤、江刺の三郡を合した、此の年六月更に宮城縣より陸前國氣仙郡を割き、又青森縣より陸奥國二戸郡を割いて本縣に屬した。是に於て從來頻りに所管地の分合が行はれてゐたが始めて定まつた、即ち陸中の岩手、紫波、和賀、稗貫、膽澤、江刺、西磐井、東磐井（明治十一年磐井郡を東西に分つ）上閉伊、下閉伊（明治十一年閉伊郡を東西南北中の五郡に分ち明治二十九年更に分合して上閉伊、下閉伊とす）九戸の十一郡盛岡市（明治二十二年市制施行）陸前の氣仙一郡、陸奥の二戸一郡合せて一市十三郡となつた、是より人文は日に開けて物産亦繁殖し、且交通機關も漸く整ひ今日に至つた。

二、地勢

本縣は東徑百四十度三十八分より起り百四十二度五分に達し、北緯三十八度四十六分より四十度二十七分に至り、北は青森縣、西は秋田縣、南は宮城縣に界し、東は太平洋に臨み、本州の北東部を占めて居る、東西三十一里、南北四十五里で面積九百八十七方里、我國第一の大縣である、而して本州北緯外帯の北部を構成する北上山脈は、九戸、下閉伊、上閉伊、氣仙、二戸、岩手、稗貫、和賀、江刺、東磐井の一部に蟠居して南北に亘る紡錘狀の高地形を成し、諸川が太平洋に走つて漁舟を助けて居る、西は秋田縣との境を畫する春梁山脈即ち陸奥の本支脈は南北に亘る高地で、二戸、岩手、稗貫、和賀、膽澤、西磐井の西半が之に屬し、山岳重疊岩手山の六千八百尺を初めとして四五千尺の高峰多く、極めて險峻であるが皆東に傾いて中部が平地となつて居る、而して北上春梁山脈間の地溝帶の大部は、南に傾いて北上川と其の支流の灌域となつて其の一小部は北に傾き、馬淵川流域に屬する部分は沖積地となつて居る、是等本支流二戸、岩手、紫波、稗貫、和賀、江刺、膽澤及東西磐井の各部に亘つて灌溉し、生産豊富實に本縣の大動脈であつて、幾多の都邑が其の沿岸に興つて國道で連絡し、鐵道亦之に沿う

地勢

て馳せ、東西に支線を分岐して居る、海岸の北半は單調な砂濱峭岸相半するに過ぎないけれども、南半は屈曲が極めて多いので、所謂「ヨルト」的港灣に富み、中央に突出する「鉦ヶ崎」は實に本州の極東である、近海は南に向つて通過する千島海流と、東北に轉過する日本海流即ち黒潮との二大海流が相交錯してゐるので、水族豊富にして世界三大漁場の一に數へられ無限の富を齎して居る。

四

位置面積及廣表

縣廳の位置	盛岡市内丸	北緯	一四一・〇六度
縣の位置	極東 下閉伊郡重茂村 極西 和賀郡湯田村 極南 西磐井郡永井村 極北 九戸郡種市村	北緯	三九・四二度
面積及廣表	面積 九八七方里八〇	廣表 東經 一四二・〇五度 西經 一四〇・三〇度 北緯 四〇・二七度 南緯 三・一五度	

三、氣象

區域の廣大と地勢の多様とに由つて氣候も一樣でなく、概して海岸部は稍々温和で内陸部は寒冷である、氣温は一、二月の頃最低に達して、盛岡地方は最低零下二十度を降ることがある、而して四月になつて急に昇り七、八月最高となり十一月急に下降する。
東海岸地方は夏季は南風東風、冬季は北風西風多く、北上山脈以西の地は冬季に北風、夏季に南風が多い、又夏秋の候旋風が襲來するけれど、南日本の様に烈しくない、降水量は冬期に少く夏期に多い。

氣象

測候所	二	觀測所	二五
氣温 (攝氏)	盛岡 最高 三二・一 宮古 最高 三五・六	最低 (一)	一三・六 一三・〇
降水量	盛岡 總降水量 一一・一九〇・六 宮古 總降水量 一一・二九・八	平均	九・八 一〇・五
天氣日數	種別 快晴 晴 曇 雨雪 雪 電霰 電雷 霧 霜 暴風	最多日數	九一・〇 六三・三
盛岡	一一三 一一五 二〇二 一九八 九一 一七 七 二八 九六 三八	宮古	一一三 一一五 二〇二 一九八 九一 一七 七 二八 九六 三八

氣象

五

四、土地

本縣の土地總反別は百二十四萬二千八百十三町八段で、内御料地及官有地は五十萬三千二百五十一町八段で、總反別の四割に當り、民有地は七十三萬九千五百六十二町〇段で六割に當る。更に民有々租地を地目別に比較して見ると最も廣大なのは山林原野で五十五萬八百四十一町三段、仍ち民有々租地の七割八分に當り、次は畑八萬四千百十九町七段で全上の約一割二分、田五萬七千七百九十七町五段で〇割八分、宅地其の他は僅かに同上有租地の二分である。

一反歩當賃賃額最高は其他中雜種地一四〇圓、次は田三十九圓、山林十八圓、畑十六圓、宅地七圓、原野は一圓七十八錢である。

年期地中有租地は七千三百六十三町七段で、免租年期地は二千三百三十九町二段、又免租地は二萬四千七百五十町七段である。

土地總反別	民有		反別	賃賃價額	一段當賃賃價額	平均	反別百分比
	租有						
	田畑	山林原野其他					
山林・原野	五七、七九七・五	一〇、三五三・四	四六、〇四四・〇	三、〇〇三、一四六	三九・〇〇	二〇・七六	八・二〇
其他	八四、一九七・七	四三七、四八九・六	一二三、三五一・七	三、五一五、〇五九	一六・〇〇	四・一八	一一・九二
山林・原野	一〇、三五三・四	一、〇〇八、七五五	一一、〇六一・一	三、五〇四、五五八	七・〇〇	二・二一	一・四七
其他	四三七、四八九・六	一一三、三五一・七	一五七、八四九・三	一、〇〇八、七五五	一八・〇〇	二・三三	六・〇五
山林・原野	一、九九六・五	二四三、五八四	二、九八八・〇	一四、八五八	一・七八	〇・〇二	一六・〇八
其他	七〇五、一〇八・四	二〇、二八八、九六〇	七〇五、一〇八・四	二〇、二八八、九六〇	一四〇・〇〇	一・七八	一〇・〇〇
山林・原野	七、三六三・七	一八、三五四	二四、七二〇・四	一八、三五四	一八、三五四	一八、三五四	二二・三七
其他	二、三三九・二	一八、三五四	二〇、六七三・四	一八、三五四	一八、三五四	一八、三五四	六・七九
山林・原野	二四、七五〇・七	一八、三五四	四三、五〇一・四	一八、三五四	一八、三五四	一八、三五四	七・八四
其他	三二、四五三・六	一八、三五四	五〇、二〇七・二	一八、三五四	一八、三五四	一八、三五四	一〇・〇〇

五、戸口

本縣は九百八十七方里餘の大面積を有するけれ共、昭和五年十月一日現在に依る國勢調査の世帯數は十六萬二千九百六十五で、其の人口は九十七萬五千七百七十一、一世帯平均六人弱、一平方軒に付六十四人に過ぎないので、人口の稀薄なことは全國府縣中第一位である。

人口動態

郡市名	大正十四年國勢調査		昭和五年國勢調査		現住戸數
	世帯數	現在人口	世帯數	人口	
盛岡	九、三六六	五〇、〇三〇	一一、六〇六	六二、二四九	一一、八三三
岩手	一三、二九二	八二、七八五	一三、四五二	八四、八〇七	一三、三一一
紫波	七、二一五	四四、七〇四	七、四〇三	四七、〇一九	七、四六〇
稗賀	九、四四二	五六、七七三	一〇、一九四	六一、〇一五	一〇、四一九
和賀	一一、八一九	六九、六六八	一一、四二四	七四、二一五	一一、三三一
膽澤	一一、二二二	四六、五一六	一一、八〇四	七〇、二三四	一一、八二七
江刺	七、九三五	四六、四四一	八、〇一〇	四八、〇六五	八、〇三一
西江	九、三四五	五六、五二五	九、七三五	五九、四七三	七、九〇四
東磐	一三、五六三	七八、七七三	一四、〇六二	八三、五四九	一三、九八四
氣仙	一〇、五六一	六二、〇六一	一〇、九五九	六七、四六三	一〇、七七八

人口動態

計	上戸		下戸		計
	閉伊	閉戸	閉伊	閉戸	
一五、二、九三八	一三、四〇一	一四、七九五	一一、八四八	九、一一三	一五、二、九三八
九〇〇、九八四	七六、一一七	八六、七二四	一一、七〇二	五五、九一四	九〇〇、九八四
一六二、九六五	一五、〇九八	一五、八六二	九、六五四	九七五、七七一	一六二、九六五
四八六、九二五	八七、八〇五	九四、一七〇	七六、二八四	五九、三三七	四八六、九二五
四八八、八四六	四六、一九六	四七、七四二	三九、〇五二	二九、七二二	四八八、八四六
一六二、四四五	四一、六〇九	四六、四二八	三九、〇五二	二九、六六四	一六二、四四五
	一五、〇九六	一五、〇七三	一一、五九四	九、六一三	

年次	婚姻		離婚		出生		死亡		産出		出生死亡の差
	婚	姻	離	婚	出	生	死	亡	産		
昭和七年	一四、〇三三	一、四七九	一、五五三	四三、七六四	二一、一九三	二、五六五	二、四七七	一九、五四四	二、一四五	二一、五七一	
同六年	一三、四八四	一、五二六	一、五七三	四〇、七五一	二一、二〇七	二、四七七	二、六〇一	一九、七〇七	二、一四五	一九、五四四	
同五年	一三、九八六	一、五七三	一、五七三	四一、八四五	二一、七〇〇	二、六〇一	二、五八二	一九、七〇七	二、一四五	一九、五四四	
同四年	一四、一三四	一、五七三	一、五七三	四〇、九五二	二一、二四四	二、五八二	二、六六五	一九、七〇七	二、一四五	一九、五四四	
同三年	八、四一一	六四五	四一、四三八	二一、九五二	二、六六五	一八、四八六					

戸口

市町村別戸口及面積

(・八町)

10

市町村名	面積	戸数		人口
		(昭和七年末現在)	(昭和五年十一年一日現在)	
沼宮内	100	642	3,643	4,285
玉川	4,856	375	2,705	3,080
藪川	13,722	115	913	1,028
浅川	8,676	379	2,245	2,624
築川	8,731	298	2,197	2,495
中野	3,421	469	2,111	2,580
本宮	639	697	3,779	4,476
太田	1,434	623	4,218	4,841
御所	1,343	621	4,300	4,921
御神	1,182	537	3,239	3,776
西明	1,600	610	3,747	4,357
西山	2,040	530	3,747	4,477
手岩	3,234	1,183	6,214	7,397
盛岡市	3,234	11,833	62,249	74,082
瀧澤	11,540	855	5,626	6,481
厨川	1,370	875	6,157	7,532
川口	10,051	596	4,088	4,684
卷堀	3,452	494	3,206	3,700
澁民	3,249	488	3,206	3,694
大更	2,235	653	3,408	4,061
田頭	2,613	472	3,981	4,653
松尾	14,976	1,110	932,233	933,343
平館	1,121	431	2,506	2,937
寺田	4,675	444	2,834	3,478
一井	3,921	367	2,455	2,822
御方	8,500	633	4,406	4,941
御堂	14,610	1,313	84,807	86,120

市町村名	面積	戸数		人口
		(昭和七年末現在)	(昭和五年十一年一日現在)	
古館	4,491	290	1,728	1,918
徳田	1,012	601	3,969	4,571
見前	633	503	3,508	4,011
飯岡	1,746	674	4,378	5,052
煙山	2,126	615	3,448	4,063
不動	1,235	516	3,342	3,858
水石	1,723	425	2,684	3,109
志和	4,593	877	5,393	6,270
赤石	1,004	556	3,219	3,775
彦内	1,059	384	2,465	2,949
佐比	2,118	292	1,984	2,376
赤澤	3,353	366	2,536	3,072
長岡	1,013	300	2,004	2,304
乙部	3,472	603	4,083	4,686
計	25,770	7,590	47,019	54,608
花巻	1,558	3,230	15,556	18,786
大迫	615	513	2,654	3,167
石鳥谷	3,958	780	4,731	5,461
内川	9,682	436	3,325	3,761
外川	4,262	237	1,868	2,105
龜ヶ森	1,384	265	1,729	2,094
新堀	1,162	446	2,693	3,139
八重畑	1,742	486	3,012	3,598
八幡	2,368	958	5,589	6,547
矢澤	795	393	2,488	2,883
八幡	4,506	807	5,173	5,980
宮野	1,169	600	3,309	3,919
湯野	8,259	841	6,162	7,003
湯目	3,177	437	2,986	3,472
太田	44,623	10,419	61,015	71,430

戸口

11

戸口

江 刺 郡														
計	岩谷堂	愛宕	羽田	黒石	田原	藤里	伊手	米里	玉里	梁川	福岡	廣瀬	稻瀬	
	一、五二八	八、八一八	一〇、一〇一	一、七一五	三、八四三	一、八七〇	三、一七六	四、六三一	一、七七一	二、四三七	二、〇一六	一、五五四	二、六一二	
	一、三四八	七、八五	五、三三	三、七五	六、一二	四、〇七	五、五九	六、八九	四、八〇	五、一〇	五、二〇	三、八八	八、一六	
	七、〇〇〇	四、八六八	三、〇四二	二、三七〇	三、八九九	二、六四一	三、五九七	三、七二〇	三、〇六五	三、二四三	三、一六三	五、〇三一	四、八、〇三一	
西 磐 井 郡														
計	一、永井	永津	油島	花泉	金澤	老松	日形	彌栄	眞瀬	萩莊	嚴美	山中	中山	平泉
	一、三四二	一、五三三	八、三三三	一、一三一	一、二二二	一、七〇二	一、〇〇一	一、八一四	一、〇七八	三、六六二	五、六四三	一、二、四四四	一、〇五六	二、八五五
	二、〇四一	四、六三	四、一九	三、四八	四、三〇	四、二二	二、七五	二、九〇	三、三九	七、二一	六、五八	七、二二	一、〇六八	八、三三
	一〇、四一三	三、二二二	二、五七〇	二、三三三	二、五五四	二、五八二	一、八一九	一、八〇六	一、九七二	四、三二二	四、七〇六	四、九七八	七、一九七	四、九六〇
	五、九、四七三	四、九六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇	四、〇六〇

111

戸口

和 賀 郡																
計	黒澤尻	鬼崎	岩崎	横目	藤根	江子	飯間	二子	更木	中立花	立木	谷内	十内	小田	湯山	澤内
	一、五二〇	六、七二	八、一七	八、〇二四	一、五三〇	一、一〇三	三、七二三	一、九四〇	六、七五	一、〇八六	一、九八四	四、〇二四	二、三五二	一、九五三	一、九七六	一、八、六三二
	一、七五五	五、七六	八、三四	六、八九	四、五九	九、一七	六、五五	五、一七	四、七七	四、七八	四、七七	六、八五	八、一〇	四、〇七	一、五九九	一三、三二一
	九、〇八二	二、二六三	五、七五八	三、九六七	三、〇三七	五、五四三	四、二七八	三、三四七	二、九四三	二、一九五	二、七〇二	二、六八九	四、三三〇	二、四一〇	九、四六七	七、四、二五二
澤 郡																
計	水澤	前澤	金ヶ崎	佐河	眞城	姉体	白山	古城	古川	衣川	小川	南都	若柳	永岡	相去	
	一、七九六	一、七五〇	六、四〇四	一、三六七	八、〇一	七、三五	四、一九	七、五七	一〇、五八三	三、二六五	一、〇八〇	一、五、一九〇	四、四六九	一、七四〇	四、九、三五六	
	二、六四二	一、二三一	一、二二三	八、四六	五、六六	四、六五	三、四五	四、〇六	八、七五	九、〇四	六、六一	六、四二	四、四五	五、二六	一一、八、二七	
	一、二、六九五	六、七二三	七、三〇九	五、三八一	三、三三三	二、八二九	二、〇〇四	二、七二五	五、九三七	六、〇四九	四、三九四	四、七九九	三、〇八六	三、一〇〇	七〇、一三四	

111

六、行政

本縣の行政區劃は一市十三郡で、大正十五年地方制度改正に伴ふ郡役所廢止に際して、區域廣大、交通不便な下閉伊、九戸の兩郡に支廳を置いたけれ共、久八線の延長に伴つて交通の便が開けたので、昭和七年四月九戸支廳を廢止し、又徵稅賦課等の爲に、昭和四年七月一日より縣下六箇所に財務出張所を設け、土木行政の爲には七ヶ所に土木管區を置き、且時局匡救土木事業遂行の爲臨時土木管區五ヶ所及工營所八ヶ所を設け、穀物の生産及移出検査を行ふ十九の穀物検査出張所及木炭移出検査執行の爲主要生産地三十八箇所に木炭検査出張所を設置してある。

議員定數は貴族院議員一、衆議院議員七、縣會議員三十五、市町村會議員二千九百七十六名、で選舉有權者は貴族院議員(互選人)百名、衆議院議員十九萬九千二百二十六名、縣及市町村會議員は何れも十八萬九千三百七十六名である。

縣官吏及吏員數は一千三百八十二名、市町村吏員は八千二百四十二名で、統計調査員は二千三百五十九名である。

行政區劃

郡市名	支廳市役所所在地	町	村	計數	面積	一方人口
盛岡	丸	1	23	24	3,212	110,403
岩波		1	24	25	2,577	85,955
紫波		1	22	23	4,055	140,505
稗貫		1	17	18	7,672	99,191
和賀		1	14	15	4,936	69,369
膽澤		1	11	12	2,877	46,933
江刺		1	13	14	3,619	67,474
西江		1	15	16	5,185	116,747
東磐		1	13	14	6,177	112,711
北磐		1	17	18	9,052	150,211
上閉		1	17	18	11,790	184,646
下閉		1	15	16	11,557	182,682
計		28	208	236	98,780	1,018,764

種別	貴族院議員	衆議員議員	縣會議員	市町村會議員
議員定數	1	7	35	2,976
選舉有權者數	(互選人) 100	199,336	189,376	189,376

官公吏其他

縣官吏及吏員	市町村吏員	其他
勅任 1	市長 1	技師 3
奏任 19	村長 有	技手及技手補 61
判任 43	助役 有	常設委員 2,353
吏任 183	收入役及副收入役 給職	區長同代理者 4,085
巡 266	主事 4	其他 25
雇 503	書記 173	統計調查員 2,359
計 1,382		

七、産業

本縣は土地豊穡で農業に適し、農耕を専業又は本業として従事するものが九萬六千二百六戸の多數を示して、其の耕地は十四萬五百餘町歩に達して居る、牧畜は本邦に於て樞要の地位を占め、南部馬の名は古來噴々たる名聲あり、維新後は官公設の各種機關に依つて、改良増殖を圖り、常に之が施設を怠らず益々進歩の域に向つてゐる。

林業は本邦の山林王國として年々産出する木炭、薪炭材、用材等夥しく、就中木炭は中央市場に聲價を博して居る。

漁業は沿海四郡に亘り、其の戸數七千を超え、沿海八十里、寒暖二流の衝に當り、水族の饒多なることは全國に其の比を見ない所で、世界屈指大漁場として誇りを有してゐる。

鑛業は昔日の如くに盛んではないが、縣下到るところ鑛産に富み、特に鐵は全國第一で硫黄は第二位の産地である。

工業の資源は海陸共に無盡蔵であるけれ共、開發遅々として之等の原料品を悉く加工し得ないので、僅かに本縣總生産額の二割に過ぎないのは遺憾である。

本縣昭和七年中の生産物總價額は九千二百九十五萬五千九百九十二圓で、一戸當五百七十二圓二

産業

一一一

十錢、一人當九十二圓四十八錢で、前年に比較すると一千三百十二萬二千七百四十四圓、一戸當八十圓七十八錢、一人當十三圓五錢の増加を來したのである。
 尙既往五箇年間に於ける生産の趨勢を觀るに、昭和貳年以降漸減し本年に至つては物價向上の結果前記の如く増加するに至つた。

職業別戸數

種別	專業	本業	計	總戸數に對する千分比	
				專業	本業
農業	二八、〇三四	六八、一七三	九六、二〇六	一七二・五八	四一九・六六
水産	三、〇七七	四、〇六一	七、一三八	一八・九四	二五・〇〇
工業	一、一五七	三三	一、一八八	七・一二	一・四三
商業	九、一五七	七、一三九	一六、二九六	五六・三七	四三・九五
交通	二、五五一	二、一四四	四、六九五	七〇・八七	四三・六三
公務及自由職業	八、二六六	二、五七七	一〇、八四三	一五・七〇	一三・二〇
其他の職業	五、〇五七	二、二二二	七、二七九	五〇・八八	一五・八六
計	六八、八一	九三、六三四	一六二、四四五	三二・一四	一三・六七
				四三三・六〇	五七六・四〇

重要物産

(百萬圓以上)

種別	數量	價額	種別	數量	價額
米	一、一〇六、四四六石	一九、七五九、九七四	錫	一、二三二、三〇四貫	一、八二七、八五八
鐵	四七、九五四、八三五貫	七、二七、〇二二	烏賊	五、三五〇、四三三	一、六〇〇、二四〇
生糸	一一一、二二七	四、五六〇、三三八	用材	三、五二五、九三三石	一、五八三、六〇一
麥類	五四七、二二三石	三、四五二、〇一八	薪炭材	七三三、七八一擔	一、五七七、八五四
酒類	四五、五七八	三、三九〇、三五二	桑葉	一八、五二六、三五八貫	一、四八九、八八四
木炭	三三、七九一、二二貫	三、二四三、三八三	稗	二五七、八六一石	一、三七〇、一二七
大豆	二五三、〇一三石	三、一三九、七五二	菓子及麵類	—	一、二四七、六七九
大木	一、一三一、九〇三貫	二、八二二、九九五	丸及角材	五〇三、二五四石	一、一五三、七〇六
繭	九、二二四、二三五貫	二、二六八、二四二	木製品	—	一、〇三八、一八三
鏡	—	二、一〇三、六三二	硫黄	五、六七〇、七八〇斤	一、〇三六、三五〇
鯉	三三、三九六、三六一貫	一、八七五、六四七	鮪	二、一六五、一〇二貫	一、〇一三、五一五

産業

一一一

産 業

主要生産物累年比較

種 別	農 産					
	米	麥	大豆	小豆	粟	稗
位 單	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石
昭和七年	一、一〇六、四四六 一九、七五九、九七四	五〇七、二二二 三、四三三、〇一八	二五三、〇一三 三、一三九、八五二	二〇、八九五 三四六、八五一	五〇、三七六 三三五、四二〇	二五七、四二〇 一、七七〇、一二七
昭和六年	九八九、二〇二 一五、四〇一、六八四	五三八、五三五 三、五五三、二七四	二二七、三六六 一、七五一、〇〇三	一八、六二二 二二二、六二一	四九、四九六 二六九、八〇〇	二二八、一〇六 八七八、七一九
昭和五年	一、一九二、〇六一 一九、一七七、三八八	五五三、〇九一 四、六三一、一一九	二六七、六八六 二、一八五、九二二	二〇、五三八 二六一、四五四	五六、八〇八 三八三、九七七	二六三、四〇九 一、二二一、五八九
昭和四年	一、〇四四、〇四一 二七、一六一、七六〇	五一四、七二一 三、三七八、一七〇	一七一、一五一 二、七〇八、七六九	一〇、四九七 二五〇、七一九	四二、二一〇 四五二、九一〇	一四二、一四九 一、一四三、四三四
昭和三年	一、〇九六、四一四 二九、八七八、〇六五	五六八、九一五 五、八〇〇、五三三	二六三、一五〇 四、三三〇、〇七七	二〇、八六八 四三七、七三二	六二、三七九 六三四、四六一	二七一、六八六 一、九六七、九〇七

産 業

物	産 業								
	キャベジ	蕎麥	馬鈴薯	生大根	果實	大麻	大葉	桑葉	
位 單	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	圓石	
昭和七年	三、一〇九、五七七 二三五、五九七	三五、九八九 二七六、八五三	七、六一二、四三八 七〇二、四二一	一四、五〇四、三五七 七〇七、三一九	五〇三、七七八 七六、一三五	七六、一三五 五七、四五一	一、一三一、九〇三 二、八二二、九九五	四三五、五六六 七六七、一九三	一八、五二六、三五八 一、四八九、八八四
昭和六年	二、五〇六、〇二九 一七六、三八三	三八、〇六〇 一九六、九一〇	五、八〇一、八八一 五五八、五二五	一三、八六一、四二二 六六八、〇四三	四一九、二五一 六八七、七八八	七四、六〇五 五八、二六二	一、〇三〇、四一六 二、八七三、四七六	四一〇、三三九 七四三、一一〇	一七、九五六、七〇四 一、四五六、一四〇
昭和五年	二、六五〇、三三六 一五五、五〇四	三九、一七六 二二二、五七七	六、七五九、六八七 六三三、七三四	一三、二五一、九一八 七一、六四〇	六八七、七八八 七六、一五九	七二、一九九 七三、一九九	一、一〇三、五五九 二、九四九、九一二	三八六、七三七 八八六、〇三六	一九、一八六、六八八 二、〇三八、九〇四
昭和四年	一、九三〇、九七〇 二六五、七三〇	一九、七六〇 二二〇、八五五	五、三三三、一九〇 八三一、〇八一	一〇、九八八、七九五 九五七、六四八	八二四、九七三 八七、二九五	九七、一五六 九七、一五六	一、一四三、九七四 六、八五二、九六九	三〇六、八〇八 六五一、四四〇	一九、四六二、七二三 三、二六六、六三五
昭和三年	一、七四九、三五五 二七七、〇七〇	三六、一三六 三八六、八七〇	六、三三一、一〇八 九八二、二〇一	一一、二七三、一三五 一一、二四、〇一九	八四三、一三〇 九二、六二六	一〇五、四二二 一〇五、四二二	一、〇二六、八〇七 五、一〇四、〇一〇	三三〇、九一六 八三八、七一〇	一八、三一九、六八六 三、〇七六、八一六

工 業 產 物									
酒類	醬油	味噌	生糸	漁網	金屬製品	織物	木製品	竹製品	漆器
圓石	圓石	圓貫	圓貫	圓反	圓	圓	圓	圓	圓
四、五、五七八 三、三九〇、三五二	一、九、七四二 五、五五、二〇四	三、九一、八〇三 二、一〇、二六五	一、一、二二七 四、五六〇、三三八	四、六七八 八、二、九九一	八、四二、一〇五 七、一、六五五	一、〇三、八、一八三 八、六、八一七	一、〇、四九、七五四 八、五、七九五	八、八、九三七 一、一五、六三五	一、一五、六三五
五、三、九二二 三、三三七、七五二	二、七、六一〇 五、六一、一八三	三、三五、九七七 一、八一、六六二	一、〇〇、五九六 四、〇六四、七九三	六、八、八四四 八、九、四四一	七、〇、一四九 八、七、八、〇六八	一、〇、四九、七五四 八、五、七九五	一、一五、六三五	一、一五、六三五	一、一五、六三五
五、七、七二二 四、五九六、一五四	二、七、五三六 五、八、八一〇	三、〇七、三六六 二、九六、一七六	七、四、七五七 三、三六五、三一九	六、二、五五四 七、六、〇〇四	二、〇〇、一、八一七 八、九、五九一	一、二、六、九八〇 九、六、四一一	一、一五、六三五	一、一五、六三五	一、一五、六三五
六、七、九三九 五、六八五、一三七	二、七、〇二四 七、四二、九五三	三、〇九、二二一 二、〇四、四六七	一、四一、六五一 六、二四二、三八八	六、〇、六七七 一、四、八一七	二、八、五六、八六〇 一、一五、二三〇	一、三、七、七〇四 一、三、一、八一四	一、一五、六三五	一、一五、六三五	一、一五、六三五
七、二、六一八 六、〇三三、四七三	二、三、九〇四 九、二〇、五二〇	二、六九、一四二 一、三八、八八四	一、二六、六一二 五、六八二、九二四	五、二、〇四〇 一、二二、一八七	一、一四、七、四三三 一、四一、四九三	一、三、五、七五二 一、三、七、八三一	一、一五、六三五	一、一五、六三五	一、一五、六三五

林 業 產 物			鑛 業 產 物			菓子及麵類
木炭	薪炭	用材	鐵	硫	鑛石	
圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓
三、三、七九一、二一一 三、二四三、三八三	七、三二、七八一 一、五七七、八五四	一、五八三、六〇一 一、三二、九九八	四、七、九五四、八三五 七、二、七〇、〇二二	五、六、七〇、七八〇 一、〇、三六、三五〇	二、一〇、三、六三三	一、二、四七、六七九
三、六、一七〇、一八一 三、三九四、七六八	七、二一、七七八 一、六八五、七九九	一、二、三三、〇〇五 一、七、一、一八三	九、六、一六、六三二 三、五、八二、九一五	三、四、〇七、八九二 六、三、二、五〇六	一、八、〇〇〇、八七七	一、三、一八、八六五
三、〇、一二、五〇〇 三、四七二、三二五	六、九五、三九二 一、九五六、〇九一	一、六、一一、八八四 一、六、九、二九九	三、九、九七四、七〇六 七、七、九六、九二三	六、四、七二、八〇六 九、八、三、一四五	二、五、七九、一五七	一、四、二二、二七三
三、一、九二九、五二六 四、九八九、五七八	七、九〇、七一〇 二、七、八一、五〇七	二、一、五九九、四七一 三、九一、九五〇	二、五、六一、二五五 三、七、八三、六六七	三、三、七三二、〇〇七 一、三、七四、四九九	三、六、七六、六九九	一、四、九五、九四七
三、四、〇三九、四八二 六、三、二六、四〇六	九、一〇、一九九 四、一、二九、六五一	二、五、七七、六七八 二、七、六、〇四二	二、二、四八、八八一、六一五 八、〇、八八、〇一〇	三、九、五二一、三九二 一、六、二七、四五四	二、五、九三、五五八	一、六、五九、七五〇

產業

畜產				物產	
豚	牛	馬	牛	乾	鮑
	乳				
圓頭	圓石	圓頭	圓頭	圓貫	圓貫
11,470	10,706	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214
11,470	2,845	7,577	10,347	20,111	9,214

產業

水產						
鱒	鰻	鮪	鰹	烏	鱻	鱈
油			節	賊		
圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫	圓貫
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755
5,352	1,231	2,165	9,456	5,350	1,096	1,755

生 產 物 總 價 額

郡市名	盛 岩 紫 稗 和 膽 江 西 東 氣 上 下 九 二									
	岡	手	波	貫	賀	澤	刺	井	仙	伊
農 產	二五五、五九六	三、九三三、八八八	二、九三六、一五八	三、二二四、八八〇	三、〇四七、五五五	三、五〇八、三一	二、三〇七、二三四	二、九一五、六二七	四、五六〇、五六七	二、二七九、二〇五
工 產	四、四三七、七〇二	一、〇三七、〇三八	四、七六、五九一	一、五六七、九九二	五、一六、四〇八	九、九四、九六五	四、八二、三四六	一、三七四、二〇〇	一、三四七、八九八	一、六五九、四四四
鑛 產	五、九二二	一、四九一、九七六	一、八〇、二二〇	七、〇八七	一、九〇五、九一六	二、九四一	二、四〇四、〇〇四	二、五、八一	二、三、一九九	九、六、九二五
林 產	二、三三、〇一四	七、七八、五七七	一、八八、一五〇	四、三一、九七五	六、九五、六五五	一、八九、〇六二	三、三六、三三三	二、四二、五九一	八、三五、九九五	六、四九、二八九
水 產	一、六、八七五	八、五四五	二、三四五	七、八九四	一、二、三一四	七、一八一	二、二八八	六、八四〇	八、七七四	二、二九三、〇一四
計	三、七八、九六四	一、四、三三九	一、四、三三九	三、九一、五七九	五、六、八一三	四、四、五〇四	四、四、五〇四	五、六、八一三	一、四、三三九	三、九一、五七九

產 業

郡市名	盛 岩 紫 稗 和 膽 江 西 東 氣 上 下 九 二									
	岡	手	波	貫	賀	澤	刺	井	仙	伊
畜 產	二、一四、一八九	三、六三、六九五	九〇、九五五	一〇五、五〇六	一三七、五一八	九、九九七	一〇〇、七一四	一一五、四九八	一一八、九九三	八五、六五四
計	五、一六〇、二九九	七、六一三、七一九	三、八八四、四一九	五、三四五、三三四	六、三一四、三六六	四、八〇二、四五七	三、二五三、四一九	四、六八〇、五六八	六、八九五、四二二	七、〇六三、五三一
百分比	五、五五二	八、一九一	四、一七九	五、七五一	六、七九三	五、一六七	三、五〇〇	五、〇三六	七、四一八	七、五九九
現住戶數	四三六、九〇	五七一、〇九	五一一、〇四	五、三、〇四	五、二、四八	四〇六、〇六	四〇五、一一	四八二、三三	四九三、〇九	六五五、三六
現有人口	七、八、五四	八、七、五一	八、一、〇九	八、五、二五	八、三、〇八	六、六、二四	六、六、八一	七、七、二四	八、〇、七四	一〇、一、四九
計	二、三六二、〇五八	二〇二、三九七	一七九、八〇〇	三〇一、七三〇	二四九、四二二	二四九、四二二	二四九、四二二	二四九、四二二	二四九、四二二	二四九、四二二

産業

生産額累率比較

種別・年次	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年
農産物	三七、八九六、三六五 ^円	三〇、九四七、一八八 ^円	三八、二三八、七四八 ^円	五三、五一四、二六八 ^円	五八、六〇三、四五三 ^円
工産物	一八、六六五、九五四	一八、三五四、八二四	二一、一九七、四〇〇	二六、七八二、九七三	二八、三三二、七八三
鑛産物	一一、五一一、四〇一	九、七九一、一八八	一一、七四七、三一九	一五、五〇〇、七三〇	一一、五八九、二三五
林産物	九、六三八、八五〇	九、〇九八、一三〇	一〇、八二六、三〇五	一五、二一八、六〇八	一九、九五一、五九七
水産物	一一、八七五、九六四	九、三五二、〇六三	一一、三九七、七三二	一三、二四五、四〇二	一三、二二〇、四四五
畜産物	二、三六二、〇五八	二、二八四、四七六	二、五六八、七九二	三、二三三、五四七	三、八〇三、六四四
計	九二、九五〇、五九三	七九、八二七、八四八	九五、八九八、二九五	一二七、四〇五、五二七	一三六、一〇一、一五六
現住一戸當	五七三・二〇 ^円	四九七・一三 ^円	六〇四・一四 ^円	八三三・〇一 ^円	八九八・八九 ^円
現住一人當	九三・四八	八〇・六一	九八・二四	一三四・三九	一四五・四一

八、農業

本縣は山岳多く氣候温暖ではないが、土地肥沃農耕に適するので、九萬六千二百六戸即ち現住戸数の五割九分が農業を専業又は本業として従事して居る、耕地面積十四萬五百二十九町二反で、一戸當約水田六段五畝、畑八段一畝に當つて居る、尙耕地整理擴張事業は逐年旺盛になるので、本縣農業の前途は頗る多大の望を囑する所以である。

昭和七年農産物生産高は三千七百八十九萬六千三百六十五圓で、生産物總價額の四割七厘を占め、米、麥、大豆、藭等其の主なるものである、前年に比して六百九十四萬九千七百七十七圓を増加したのは、主として一般農産物の増收並引續ける米價の不振が挽回したる結果であつて米は前年より十一萬七千二百四十四石（一割二分強）價額に於て四百三十五萬八千二百九十二圓（二割八分）夫々増加、麥八千五百八十七石即ち一割六分の増收を觀た。

種別	昭和七年		昭和七年		昭和七年		農耕戸數 一戸平均 耕作反別
	未現在	開墾	田畑間 移動	實測 其他	計	荒地	
田	六二、七二・四	二四六・六	四三五・六	六〇・八	七四三・〇	七七・二	一三五・〇
畑	七七、八一七・八	三三七・一	九二・一	四四・九	四七四・一	二〇・〇	五九九・七
計	一四〇、五三九・二	五八三・七	五二七・七	一〇五・七	一、二二七・一	二七・三	七二四・七

耕地面積 (昭和七年末現在)

地區數	工事完了		工事中		工事未着手		經費豫算
	整理前ノ地積	整理後ノ地積	整理前ノ地積	整理後ノ地積	計	計	
六七	二、三九四	二、三九四	一四、七四〇	一四、七四〇	二、八五七	二、八五七	一四、〇七四、三二四
六七	二、五二七	二、五二七	一、五八三	一、五八三	二、〇一六	二、〇一六	二、〇一六
計	四、九二一	四、九二一	一六、三二〇	一六、三二〇	四、八七三	四、八七三	一六、〇九〇、六四八

農産物

種別	數量		價額		種別	數量		價額	
	數量	價額	數量	價額		數量	價額	數量	價額
米	一、〇〇一、三〇六	一七、六九九、六五八	計	三、一〇九、五九七	二三五、五九七				
陸稻	一〇〇、九七二	一、九九二、〇一九	馬鈴薯	七、六一二、四三八	七〇二、四二二				
糯稻	四、一六八	六八、二九七	大根	一四、五四四、三五七	七〇七、三一九				
麥	一、一〇六、四四六	一九、七五九、九七四	麻	七六、一三五	五七、四五二				
大麥	三七八、五〇六	一、九二〇、七三〇	草	四三五、五六六	七六七、一九三				
小麥	一〇〇、六九四	七八、一四二	其他	一、八四一、七〇五	一〇八、三六九				
燕麥	一五〇、七五九	一、四二八、九七五	計	一、八四一、七〇五	一〇八、三六九				
計	七、二六三	二四、一八一	其他	一、七三〇、〇四〇	五〇三、七七八				
大豆	五四七、二二二	三、四五二、〇一八	計	一、八四一、七〇五	一〇八、三六九				
大豆	二五三、〇一三	三、一三九、七五二	其他	一、七三〇、〇四〇	五〇三、七七八				
大豆	二五七、八六一	一、三七〇、一二七	計	一、八四一、七〇五	一〇八、三六九				
粟	五〇、三七六	三三五、四二〇	其他	一、七三〇、〇四〇	五〇三、七七八				
蕎麥	三五、九八九	二七六、八五三	計	一、八四一、七〇五	一〇八、三六九				
小豆	二〇、八九五	三四六、八五一	其他	一、七三〇、〇四〇	五〇三、七七八				

郡市名	米		麥	
	作付反別	收穫高	作付反別	收穫高
盛岡	二九一・一町	六、六四二石	二、三〇六合	二、四二七石
岩手	六、五九二・九	一、三九、五七四	一、一〇〇・八	二、四〇三
紫波	六、八二八・六	一、二四、〇四一	一、一八八・八	二、八、九四六
稗賀	六、八三三・〇	一、二八、七三三	一、一八二・八	二、三、八二二
和賀	七、九三三・六	一、三〇、四四六	一、六〇三・四	三、三、三七一
膽澤	八、五五七・九	一、四九、一九四	一、七五・一	三、八、〇〇三
江刺	四、二八六・三	八三、三六八	一、九五一	四、一、五一一
西江	五、〇四六・六	九七、九四九	一、九四五	四、六、五四八
東西	四、六八三・五	八八、三六四	一、八八五	四、二、四一八
磐磐	一、五一〇・七	二九、六八六	一、九六九	八、二、二四一
伊伊	三、二五〇・七	五七、八九八	一、七七一	六、三、八六八
伊伊	七、四四・二	一四、五八六	一、九六七	三、五、四六八
戸戸	一、九一三・〇	二八、一〇三	一、四七〇	六、〇、三七〇
計	一、七七三・五	二九、八五八	一、六八四	三、八、七七五
計	六〇、二五九・七	一、一〇六、四四六	一、八四一	二六、〇六七

九、蠶絲業

養蠶は藩政時代古くから奨励され「南部紬」「南部眞綿」は地方特産品として夙に名を知られてゐた、本縣の養蠶業は地勢氣候の適順と桑園の改善、品種の統一、飼養技術の研究、屑繭整理の奨励等と相俟つて其の普及發達逐年著しきものあり、昭和七年に於ける收繭高百十三萬一千九百三貫に達し、其の養蠶戸數三萬六千三百八十六戸で、現住戸數の約二割二分に當り、一戸當の持立數量は春蠶四十一瓦、夏秋蠶十九瓦、蠶種十瓦當春蠶七貫三百八十一匁、夏秋蠶五貫九十匁である。

又桑畑は一萬二千四十三町餘、畑總段別の一割五分強に當つてゐる。

一時衰退した製絲業も縣是製絲株式會社、岩手縣繭絲販賣組合聯合會の設立等に依つて漸く更生進展するの狀態である。

蠶絲業
製絲工場

場	數		職
	釜	數	
計	二、六九〇	三、三三〇	計
男		三六七	
女		三、三三〇	
工			計
			三、六九七

養蠶物

種別	數量	價額	種別	數量	價格
桑葉	一八、五三六、三五八	一、四八九、八八四	生絲	一一一、二二七	四、五六〇、三三八
春蠶	八九五、四四二	一、九九二、九六一	屑物	三〇、五二三	二三四、四七七
夏秋蠶	二三六、四六一	八二〇、〇三四	真綿	六四一	一五、一〇四
小計	一、一三一、九〇三	二、八一二、九九五	桑苗	八二六、二七一	五、五六八
蠶種	一、三二〇、九九九	九四、七四九	計		九、二二三、一一五

繭及桑畑

郡市名	春		夏		秋		桑畑
	飼育戸數	掃立數量	飼育戸數	掃立數量	飼育戸數	掃立數量	
盛岡	一、四七六	二、六三七	一、五二〇	一、二五二	一、三〇二	四二九	五一、七
岩手	一、〇〇五	一、七〇六	一、二二七	二九、三〇七	一、七〇〇	一、七〇〇	六一、三
紫波	一、二三七	三二、四八六	二、四七三	三、八七〇	一九、一六二	三〇、六二九	四〇、一
稗賀	一、八五〇	三三、六九一	二、七八七	三、五七〇	二〇、六二九	二〇、六二九	六一、二
和賀	一、四二六	四二、四九八	一、四一〇	一九、四四三	一〇、三三一	一〇、三三一	五七、六
膽澤	一、四七一	四六、六四三	一、九一八	三〇、一七〇	一五、二八五	一五、二八五	七三、七
江井	一、六四四	七八、四二七	二、〇六四	三六、八五五	三二、三五五	三二、三五五	九〇、〇
東西	六、一七二	二九一、四九六	四、一九三	六六、九〇六	五、二九〇	五、二九〇	二、五二七
東磐	二、八一九	一五五、六三八	一、七三一	二六、九〇五	一六、五八二	一六、五八二	一、二四五
氣閉	二、四四四	一〇五、七九六	一、五六一	三二、三〇五	一三、九一一	一三、九一一	一、二六二
上伊	三、七三三	二一一、三二一	九六七	二六、〇九八	九、二〇二	九、二〇二	一、二六二
下伊	一、四二二	四七、三八一	一、三四五	二六、〇八一	一三、四八一	一三、四八一	七〇、六
閉戸	三、〇七七	一〇〇、四一五	一、六七六	二九、二二三	一三、六七三	一三、六七三	九一、五
計	二九、八七一	一、二二三、一三六	二四、九三九	四六四、五五一	二三六、四六一	二三六、四六一	一一、〇四三

蠶絲業

林業

一〇、林業

四〇

本縣は本邦唯一の山林國であつて、其の面積原野を合算し、實に百六萬二千四百六十二町餘に達し、全地積の八割六分の多きを占めてゐる、右の内御料地及官有財産は四十八萬六千八百八十町歩で、山林面積の四割六分である、而して産出する用材は杉、赤松、白揚、檜、朴、栗、榲、胡桃、桐を主とし、昭和七年中には九百六十三萬八千八百五十圓を産し、總生産額の一割三厘に當り、木炭、薪炭材、用材等が主要なものである、前年に比し五十四萬七百三十圓の増加を觀たのは、生産數量の増加と價格の向上に因るものである。

民有林野

(昭和五年・三年毎調査)

種別	面積		種別	面積	種別	面積		
	公有	私有						
天然	公有	私有	針葉樹林	公有	私有	無立木地	公有	私有
	565.3	872.0		23,133.6	339.1		37,587.5	53,310.5
人工	公有	私有	闊葉樹林	公有	私有	針闊混森林	公有	私有
	77.7	17.6		339.1	177.6		109,151.4	573.4
伐採	公有	私有	竹地	公有	私有	林	公有	私有
	77.7	17.6		1,033.6	5,306.5		1,596.6	905.9
計	公有	私有	計	公有	私有	計	公有	私有
	565.3	872.0		23,133.6	339.1		37,587.5	53,310.5

保安林

國	有	公	有	社	寺	有	私	有	計
面積	113,267.0	4,110.3	113.6	14,489.0	30,878.8				

林産物

種別	數量	價額	種別	數量	價額
用材	3,515,933石	1,583,601	柴草	60,701,776貫	659,626
竹材	13,873束	12,441	丸及角材	503,254石	1,153,706
薪炭材	732,781捆	1,577,854	板	445,826坪	404,124
木炭	33,791,211貫	3,243,383	鐵道枕木	494,736延	311,673
造林用苗木	9,317,674本	67,840	其他	—	492,604
樹實	—	131,998	計	—	9,638,850

林業

四一

水産物

一一、水産業

本縣は海岸線の延長八十里に達し、漁撈採藻を生業とするもの七千三百三十八戸、漁民の数は四萬六千百十六人で前年に比し百三十戸五千四百七人を増加した。
 由來本縣は天與の良好なる港灣があり、且つ寒暖兩流は鯉、鮪、鱈、秋魚刀、柔魚、蛙、鱧等の重要魚族を齎し、其の水産の豊富なることは全國に其の比を見ない所である。
 昭和七年中の水産物總額は一千二百八十七萬五千九百六十四圓で總生産の一割三分八厘に當り、水産製造物最も多く、沿岸漁種物、遠洋漁業、水産發殖之に次ぐの産額であつて、前年に比し三百五十二萬三千九百二圓の増加を觀たのは主として價格の向上と好漁に因るものである。

水産業者

業主 被用者	漁撈		製造		養殖		計
	本業	副業	本業	副業	本業	副業	
四、二七〇	六、七二七	五、六一	二、一九八	一、三三	一、三〇八	四、九五四	一〇、二三三
一〇、一五〇	七、九七三	四、八三六	六、七五〇	七二	一、一四四	一五、〇三二	一五、八六七

漁船及漁網

漁船	有動力		無動力		計	場數	面積
	艘	噸	艘	噸			
漁網	一、〇五〇	六、九一八	七、九六八	一、〇六一	七五三、〇四八	計	七八五
	曳網類	旋網類	臺網類	敷網類	落網類	餌梁網	機船手繰網
	一九	一三	二四	八	九三	三七	六五

水産物

種類	別	數量	價額	種類	別	數量	價額
漁獲物	魚類	鯉	一七九、〇八七	水産製造物	鯉節	鯉	九四、五六六
		鱈	五、三五〇、四三三			鮪	二、三五二、一九六
		鮪	一、〇九六、六三一			鱈	一、二三一、五〇四
		鱈	三三、三九六、三六一			鮪	七五、〇九四
		鮪	五、四三二、七二七			鮪	二〇、一一一
		鮪	二、一六五、一〇一			鮪	九、二四四、二三五
		鮪	三三、二八〇			鮪	二、二六八、二四三
		鮪	一一六、一二六			鮪	七、七四、一五八
		鮪	三五五、八八三			鮪	一一、八七五、九六四
		鮪	一、三〇六、一八九			鮪	一、三三六、〇三八
漁獲物	魚類	鮪	一、六〇〇、二四〇	水産製造物	鮪油	鮪	二四二、一四六
		鮪	二、五二二、四九八			鮪	五三八、四〇八
		鮪	一、八七五、六四七			鮪	一、八二七、八五八
		鮪	二、二四四、四三八			鮪	五八、〇四四
		鮪	一、〇三三、五一五			鮪	五四、〇八〇
		鮪	一、八七、〇五〇			鮪	二、二六八、二四三
		鮪	九九、九〇七			鮪	七、七四、一五八
		鮪	一八九、五五二			鮪	一一、八七五、九六四
		鮪	二四六、〇八二			鮪	一、三三六、〇三八
		鮪	一、三三六、〇三八			鮪	一、三三六、〇三八

水産業

畜産業

一二、畜産業

四四

本縣は地域廣潤で山岳丘陵に富み、原野は遠く連つて天然の牧場を形成して、本邦冀北の稱あるのも偶然ではないのである。本縣牧畜の業は遠く藩政時代重要な施設として嚮策され「南部馬、南部牛」の名は夙に天下に冠たるものである。管内飼養の馬匹九萬二千九十二頭、其の飼養戸數五萬五千五百十五戸、畜牛一萬五千六百六十二頭、飼養戸數六千八百二十戸であつて其の他綿羊、養鶏、養豚年々増加發達の趨勢を示して居る。

昭和七年中の畜産物價額は二百三十六萬二千五百八十八圓、總生産額の二分五厘に當り馬、家禽牛、豚、綿羊等其の主要なるもので、前年に比して七萬七千五百八十二圓の増加を觀たのは之は牛馬市價向上と生産數量の増加に基因するものである。

畜産業者

家畜 (飼養戸數 年末現在頭數)	畜産業者				
	牛	馬	豚	綿羊	山羊
飼養戸數	六、八二〇	五、五二五	一〇、七〇七	一、一八三	九八九
年末現在頭數	一五、六六三	九〇、二九三	一六、五二八	二、三九九	一、三九一
					二〇、二五五
					二九、三二〇

家禽 (飼養戸數 六月末現在羽數)	畜産物	
	蜂	乳牛
飼養戸數	一、六七五	年末現在箱數
蜂	五八、五〇七	乳牛頭數
乳	五九八、二七一	五八七
搾乳場數	七七〇	

種別	數量	價額	畜産物	
			種別	數量
牛	四、五四〇頭	一七二、九七六	家畜	二七三、七七八羽
馬	一〇、三四七	七五七、九五五	産卵	二六、五九六、一五三個
豚	一八、七〇二	一一、四七〇	家兔	八六、六三〇頭
綿羊	五四〇	七、五〇〇	獸皮及羽毛	—
蜜蜂	—	三三、〇五三	獐	—
牛乳	一〇、七〇六石	二八四、五七六	其他	—
牛肉	一三、二三四	二四五、三八七	計	—
				二、三六二、〇五八

畜産物

四五

一三、鑛業

本縣鑛山の起源は詳かでないが、其の最も盛であつたのは、安倍貞任及藤原秀衡の時代であつたと思はれる、源義經が奥州に下るとき金賣吉次と同行したり、又秀衡が金色堂を建設した事等、其の他諸種の古記に依つて見ても既に往古より鑛物の産地であつた様で、盛岡の金山からめ踊は當時の盛況を語るものである。

目下經營さる、鑛山の主なるものは、釜石鑛山、仙人鑛山、松尾硫黄山等で昭和七年に於ける生産高一千百五十一萬一千四百圓、總生産高の一割二分に當り、鐵、鑛石販賣高、硫黄等が主なるもので、前年より百七十二萬二千三百圓を増加して居るのは一般經濟界好況に伴ふ事業復活等の結果である。

鑛區

區	試掘	探採	掘砂	鑛	計
延坪區	111,117,054	33,949,162	154	50,218,010	195,438,236
長數	233	154	239	269,923	616
數				二六九町二三間	

種別	數量	價額	種別	數量	價額
金	10,925	61,633	炭	1,590,470	17,025
銅	1,006,679	342,200	亞	—	2,103,611
鐵	47,954,835	7,217,012	鑛	—	733,487
硫	5,670,780	1,036,352	石	—	11,511,501
黃			材土石及鑛水	計	

一四、工業

本縣は廣潤な地帯を擁して、海に陸に無盡藏の資源を有するに拘らず、工業が遅々として振はなないのは、全く僻陬の地が多くて、交通の利便に乏しく、且つ工業智識の缺乏は資本の招來を阻碍するに基因するものと觀察されるのである、今や電氣事業の普及と共に海陸交通の便も益々開かれるので、各種工業の勃興も蓋し遠くはあるまい。

昭和七年の工産物生産高は一千八百六十六萬五千九百五十四圓で、總生産額の二割に當り、其の主要なるものは酒、醬油、味噌、麴、製粉、製麵、菓子種等の飲食品及鐵管、鐵瓶、鍋蓋農具等で、前年に比して三十一萬一千四百圓の増加を示して居るが、之は一般經濟界漸次好況となり、又生産數量の増加に基因するものである。

工場

工場	職		計	一
	男	女		
紡績	363	4,087	4,450	3,628,173
織	342	—	342	3,383,215
金	23	—	23	243,298
機械器具	23	—	23	—
工業	778	—	778	—

工業

種類	数量	金額
窯業	113	11,577
化学工業	11	1,333
印刷及木製品	23	811
食料及製本	23	300
其他	11	111
計	181	16,132

四八

五産物

種類	数量	金額
穀類	71,655	3,390,352
菓子	3,390,352	71,655
製練瓦、瓦、土器	2,527,269	1,621,000
漆	1,000	100
煉瓦	2,269	200,300
製瓦、瓦、土管	2,269	200,300
鐵製鍋釜鐵網	4,678	117,556
漁網	117,556	4,678
和紙	4,973,872	1,385,603
乳製品及罐詰	1,385,603	4,973,872
其他	387,300	1,385,603
計	10,111	387,300

一五、商業

本縣の商業は尙幼稚の域を脱しないが、これは東北の僻地に位するばかりでなく、縣下到處山嶽重疊起伏して、著しく交通運輸の便を阻碍するに基因するところが甚だ多いのである、既定、豫定の鐵道が敷設せられたならば、自動車輸送の普及と相俟つて従來の阻碍は一掃され、本縣商業界の黎明期を招來するであらう。

昭和六年末商業戸數一萬八千六百で、此の中專業として營むもの一萬一千五百十二、本業七千八百八十戸で總戸數の割一分に當つて居る。

會社は昭和五年末に比して合資會社三八、合名會社一三を何れも増加したけれ共株式會社に於ては三を減少した。

商工會議所

名稱	所在地	設立年月	經費	議員	選舉者	職員
盛岡商工會議所	盛岡市	大正 一四・三	10,111	30	614	4

商業

四九

種別	昭和四年九月	昭和五年九月	昭和六年九月	昭和七年九月
精米 (一庇)	三三三	三二七	三二五	三二六
大麥 (一庇)	〇〇八	〇〇八	〇〇六	〇〇七
小麥 (一庇)	〇〇八	〇〇八	〇〇六	〇〇七
大豆 (一庇)	二四四	二四一	二三八	二四〇
清酒 (一立)	七二二	七二二	七二二	七二二
醬油 (一立)	二一七	二一七	二一四	二一三
味噌 (一庇)	二二二	二二二	二二二	二二二
薪 (一立方)	七一九	六一一	三五九	二七〇
炭 (一五庇)	八四七	六〇五	四四九	六〇〇

物價

(盛岡市中等品)

種別	種別	種別	種別
工業	商業	運輸	農業
其他	其他	其他	其他
計	計	計	計
六二六	二四	一〇	九二
三〇七	一九三	三〇七	一九三
七八、三七〇、七二八	七六一、七〇〇	一九四〇、四〇九	六、一三四、四六〇
一五、八六〇、三九九	一六、三三〇	一〇〇	四七〇、五六九
七二、二〇六、三四〇	四、七〇二、九三八	一、四四三、四四〇	七八、三七〇、七二八
一五、六五六、八〇六	六八、三三五	一三五、二六八	三二、三四七、五七一
一、七七一、八〇八	一、七七一、八〇八	一、七七一、八〇八	三、三〇七、五七二
一、七七一、八〇八	一、七七一、八〇八	一、七七一、八〇八	三、三〇七、五七二

一六、勸業團體

産業獎勵を目的とする主なる団体は、商工會議所、農會、山林會、商工振興會、商業組合、水産會、漁業組合、産馬畜産組合、養蠶組合、産業組合、蠶絲會、蠶種同業組合、鐵瓶同業組合、製絲同業組合、酒造組合、醬油醸造組合、杜氏組合、木材同業組合、木炭移出同業組合、製建組合等であつて、盛岡商工會議所は大正十四年設立され、商業部、工業部、理財部、交通部の四部を設けて、商工業の調査紹介及獎勵等の任に當り、地方開發の中堅たる産業組合は明治三十四年五月七日氣仙郡小友信用組合設立を嚆矢として、爾來極力勸奨に努めた結果、逐年順調な發達を辿り其の數二百五十九を數へ、縣郡市町村農會、其の他、各種団体の發展と相俟つて、縣下産業經濟の發達に努力して居る。

各種組合

種別	團體數	種別	團體數
産業組合	三三〇	酒造會	一
畜産組合	六四	水産會	一
漁業組合	一五	縣農會	一
商業組合	五三	市農會	一
重要物産同業組合	五	町村農會	一

産業組合

調査組合數	組合員數	積立金	販賣高
二九八	六五、八一五	一、三二五、四三二	三、六三八、三五八
組合員數	一八三、八八四	三、〇四八、八八一	一、四六九、九一五
出資總額	三、六八、三五〇	六、五四二、四三三	一〇三、八八五
出資拂込額	二、三二、八三一	四、〇九二、七二五	一、七六一、八一四

農業倉庫

經營主体	設置町村棟數	坪數	入庫數量	出庫數量	年末現在數量
四九	五三	二二	米 一七〇、〇七八石	一六二、五五九石	三八、〇二七石
			本屋 二、六三八	五二七	三九一
			下屋 一、〇八三	一、〇六〇	六五
			麥類 一、一四	七五七	二〇四
			豆類 八四八	一九、一三〇	三、一五〇
			蕎麥類 七五三		
			其他 一六、四二一		

水利組合

組合數	組合人員	組合戶數	組合費	地租割	經歲出	入費	事業費
二七	一〇〇、一〇八	一五、六六九	二七、三八〇	七、八五〇	四七、〇七三	五四、二〇七	一五、一六八

一七、經濟更生計畫

農山漁村疲弊の現狀に鑑み其の不況を匡救し、産業の振興を圖つて民心の安定を策し、進んで農山漁村の更生に努むる爲、政府は昭和七年十月各府縣町村に經濟更生計畫を樹立せしむることとなつたので、本縣に於ても政府の該施設と相呼應して、同月縣經濟更生委員會を組織し、直ちに同年度に於ける經濟更生計畫樹立町村として三十ヶ町村を指定し、町村をして自主自營的に經濟の更生を圖らしむることとし、昭和八年一月同年度に於ける計畫樹立町村として二十六ヶ町村を指定したが、其の後着々計畫を樹立して其の實行に努力してゐる。

而して曩に縣に於て實施中の産業指導統制委員會は昭和八年三月末日限り之を廢止して、現在産業是を樹立せる百四十一ヶ町村の指導は全部之を縣經濟更生委員會の事業に移管したのである。

縣經濟更生委員會

會長	副會長	委員	幹事	幹事	書記
一人	一人	六七人	一人	八人	四人

經濟更生計畫樹立町村

郡名	昭和七年度	昭和八年度
岩手	本宮村、大史村、御堂村(農會)、瀧澤村	厨川村、松尾村(農會)
紫波	彦部村、古館村	見前村、長岡村
稗貫	内川目村、外川目村、矢澤村	湯口村
和賀	澤内村	立花村
膽澤	古城村、南都田村	衣川村、白山村、佐倉河村
江刺	梁川村、伊手村	黒石村
西磐井	日形村、雁津村	一關町、花泉村、嚴美村
東磐井	長島村、門崎村、折壁村、長坂村	奥玉村
氣仙	末崎村、猪川村	盛町
上閉伊	小友村、附馬牛村、大槌町	遠野町、青笹村
下閉伊	千徳村、重茂村、小川村	津輕石村、山口村、小國村、小本村、大川村
九戸		大川目村、山形村
二戸	斗米村、鳥海村	一戸町、御返地村

一八、交通運輸

北上、馬淵兩河川は最も重要な交通路で、中部平野の交通はこの兩川に負ふ所が頗る多い、東北本線は之に沿うて縦貫し、海岸地方は海岸道路と船舶とに依つて相互の交通に便益を得て居るが、背後に峻峻なる山地を負うて居るので、全く中央部と隔絶の狀態にあり、纔に南北の隣縣を通じて其の便を得て居つたが、今や花巻、釜石間の輕便鐵道及八戸、久慈間並に好摩、花輪間の鐵道に依つて交通の便が開け、又盛岡山田間、一關大船渡間の鐵道一部開通し、引續き工事中であるから、是等の聯絡に依つて從來の交通運輸に一大變化を來すであらう、又本縣と秋田縣を連接する鐵道は横黒線として黒澤尻、横手間を走り、尙盛岡、大曲間の鐵道が完成すれば自動車便の異狀な發達と相俟つて四通八達の便を得て、其の繁盛は期して待つべきである。

道路

國道	縣道	市道	町道	村道	計
一九二、一八二 ^米	二、二五八、八〇〇 ^米	二七四、三三六 ^米	一六、九四三、八一九 ^米		一九、六六八、一三六 ^米
自盛岡至東京 四三五・五 ^杆	至仙臺 一八三・二 ^杆	至青森 二〇四・七 ^杆			

鐵道、船舶及諸車

鐵道	延長	官設		私設		計
		輕便鐵道	電車軌道	輕便鐵道	電車軌道	
鐵道	四、三三三、九五二	八一・五 ^杆	二六・四 ^杆	五八六、七五四 ^町	一七七、七五二	三五六、〇八三 ^町
輕鐵道	三三七、七〇七			二、八七八		一七七、七五二
電車鐵道	二二六、六四七					二、八七八
種別	乘客	降客	發送貨物	到着貨物		
船舶	類別	艘數	總噸數	小船一、二二五	海路 自氣仙沼至八戸 宮古、釜石、大船渡、大槌、 山田、高田、大槌、 燈臺 耗ヶ崎(下閉伊郡重茂村)	
諸車	人力車	自轉車	牛車	馬車	荷積用	乘積用
	三三三	四〇、四〇九 ^{四六}	二二	四、六五六 ^三	六、六九七	四四六 ^三

年別	店数	貸出		受戻		流質		年末現在	
		口数	金額	口数	金額	口数	金額	口数	金額
昭和七年	六七	一一三、一九	四一六、八三〇	九六、五四九	三四六、四九一	一六、五七七	四八、八六三	一三九、八四六	四五八、五五三
同 六年	六三	一〇〇、七〇六	三五一、一三九	七三、九七〇	二八七、八七八	一三、六六九	三九、八二四	一三三、五三六	四三七、〇七七
同 五年	七三	九九、二七三	二六六、〇六八	八三、〇九八	三三二、九三四	八、八七九	五〇、七九一	一一三、四五九	四一三、六四〇

郵便爲替、貯金、振替貯金

年別	種別	郵便爲替		郵便貯金(年末現在)		郵便振替貯金	
		振出	拂戻	金額	員数	受入	拂渡
昭和六年		七、八六八、〇七九	七、四八二、九一六	三三六、〇四三	一〇、五一八、三九二	三、一三〇、四〇五	三、一一五、〇九四
昭和五年		九、三五〇、六四三	八、九七三、六九一	三四五、六九三	九、〇七〇、六六〇	六、八九六、〇八五	二、六四四、九一五
昭和四年							

二〇、教育

本縣の教育は近時益々隆運に向ひ、官立實業専門學校一、私立醫學専門學校一、縣立師範學校二、公私組合立の中學校七、實業學校十四、高等女學校十一、實科高等女學校六校を算し、向中等教育機關擴張の機運に向つてゐる、實業補習學校は二百四十三校で殆ど全町村に洽く、公立小學校四百四十九校、又特殊教育機關として縣立盲啞學校あり、其の他私立各種學校は其の數二十にして、公私立幼稚園は十八である。

水學校

校 類 別	公 立		私 立		計		學 級 數
	本	分	本	分	本	分	
尋常	一六六	四三	三	一	一六九	四三	尋常(公立)
尋常高等	二七七	二一〇	二	一	二七九	二一〇	尋常(公立)
高等	一	一	一	一	一	一	高等(公立)
計	四四四	二五三	五	一	四四九	二五三	計(公立)

教員數		兒童數		類別	
公立	私立	公立	私立	公立	私立
一、五八九	一、五八九	七、九七六	七、九七六	尋常	尋常
八二八	八二八	七、四九九	七、四九九	高等	高等
五五七	五五七	九四六	九四六	計	計
二、九九五	二、九九五	八、三九〇	八、三九〇	尋常	尋常
四、〇四七	四、〇四七	三三	三三	高等	高等
三、八三二	三、八三二	九二、七七五	九二、七七五	計	計
四、八五二	四、八五二	一、〇〇五	一、〇〇五	尋常	尋常
六、〇六	六、〇六	九三、七八〇	九三、七八〇	高等	高等
七、八三	七、八三	八、四三二	八、四三二	計	計
六、〇三	六、〇三	八、三三九	八、三三九	尋常	尋常
四、九	四、九	九七	九七	高等	高等
六、〇三	六、〇三	八四、三一七	八四、三一七	計	計

學齡兒童及就學步合		就學		不學		計		男女各百中就學步合	
郡市名	就學	不學	計	男	女	男	女	男	女
盛岡	五、三二一	一、三	五、三三四	五、〇四九	五、八一	五、七八	五、〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
岩手	七、九七六	三、五	八、〇一一	七、六三五	八、八五	八、七〇	六、四〇	七、七二	六、一一
紫波	四、四八六	一、五	四、五〇一	四、三八六	四、九	四、九	七、九四	九、九八	八、二七
稗貫	五、四三三	二、九	五、四八一	五、二八七	六、〇六	五、七八	七、九四	九、九八	八、二七
和賀	七、一五四	一、五	七、一六九	六、八五二	七、九	七、八三	六、四〇	九、九八	八、二七
膽澤	六、七〇八	一、二	六、七二〇	六、四四三	七、四	七、三	六、四〇	九、九八	八、二七
江刺	四、三三七	五	四、三八二	四、二九	四、八	四、八	六、四〇	九、九八	八、二七
西磐井	五、三〇二	二、四	五、二六	五、一八二	五、七	五、七	六、四〇	九、九八	八、二七
東磐井	七、七五三	二、五	七、七七八	七、四八三	八、六	八、六	六、四〇	九、九八	八、二七
氣仙	六、二八六	二、六	六、三一	六、二三八	六、九	六、九	六、四〇	九、九八	八、二七
上閉伊	七、四八五	二、一	七、五〇六	七、二七〇	八、三	八、三	六、四〇	九、九八	八、二七
下閉伊	八、九七九	三、六	九、〇一五	八、二七〇	九、八	九、八	六、四〇	九、九八	八、二七
九戸	七、一四四	七、四	七、二一八	六、八一八	七、九	七、九	六、四〇	九、九八	八、二七
二戸	五、七六二	二、〇	五、七八二	五、三六二	六、四	六、四	六、四〇	九、九八	八、二七
計	八、九八五	三、五〇	九、〇、三五五	八、七、六五九	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	六、四〇	九、九八	八、二七

教育

職業補習學校

學科	學校	學級	教員		生徒		入學者		卒業者	
			男	女	男	女	男	女	男	女
農業	二二七	三九六	八六九	三三三	五、九四一	五、〇二七	三、七六一	三、四六二	二、〇〇九	二、〇八一
商業	八	一七	四二	一一	二〇七	三〇四	一七	一六七	八四	一五三
水產	九	一七	四四	九	三七五	二二五	二六五	一三九	一五〇	九二
農業・商業	三	九	一八	四	一七四	七九	六七	五一	四八	四一
水產・農業	四	九	一六	二	一三六	一一七	七一	六一	五〇	五七
農業・工業	一	一	四	一	二五	一	一五	一	四	一
水產・商業	一	二	七	一	二三	一	三四	一	一一	一
計	二四三	四五一	九九九	三四〇	六、八八一	五、七四二	四、三四〇	三、八八〇	二、三五七	二、四一三

官公立諸學校

種別	區別	校數	教員	生徒	入學者	卒業者	
							別立
高等農林學校	官立	一	五二	三八七	一三三	一四二	
醫學專門學校	私立	一	二八	五九九	一一七	一三八	
師範學校	縣立	二	四二	五五〇	一一三	一八四	
中學校	同	五	一一一	二、三四八	六三三	四一三	
高等女學校	同	九	一一三	二、五五九	七二一	六三一	
農業學校	同	六	七四	一、一三七	四一五	三五四	
工業學校	同	一	二二	二二〇	七八	七四	
商業學校	同	二	三三	六五七	一六二	九九	
水產學校	同	一	一五	一五九	四六	三五	
盲啞學校	同	一	一五	七七	二二	一九	
中學校	組合	一	一〇	一三〇	六一	一	
實科高等女學校	縣立	一	一〇	一四三	三八	四四	
六五							

教育

實科高等女學校	町立	五	三六	三八五	一八五	一四〇
中學校	私立	一	一九	三六五	九九	八七
商業學校	同	一	九	七八	一四	四五
高等女學校	同	二	二七	五四四	二二三	一三六
女子商業學校	同	一	一三	三九	五六	六三
女子實業學校	同	一	二	三一	三一	二九
女子職業學校	同	一	二	七四	四九	四五
各種學校	同	二〇	一四八	九八一	六九二	四九六

幼稚園

設立區別	園數	保母	男	女	計
公立	一	三	四四	六一	一〇五
私立	一七	五〇	三五八	三五八	七一六
計	一八	五三	四〇二	四一九	八二一

教員在職率數

年數別	市町村立小學校	師範學校	中學校	高等女學校	實業學校	盲啞學校
五年未滿	△ 一、三〇五	一七	四八	八〇	三九	五
五年以上	△ 九七一	二〇	四七	三四	三五	七
十年以上	△ 四四二	八	九	一五	一七	一
十五年以上	二九〇	五	四	四	一〇	一
二十年以上	一七五	二	四	四	七	一
二十五年以上	六三	一	一	一	一	一
三十年以上	一三	一	一	一	一	一
計	△ 三、二五八	五三	一一三	一三七	一〇二	一一

教育

△印は實業補習學校専任教員なり
市町村立小學校は正教員其他の學校は有資格者のみの調査なり

昭 和 二 年 度	昭 和 三 年 度	昭 和 四 年 度	昭 和 五 年 度	昭 和 六 年 度	縣費	市費	町村費	計	一戸當 負擔額	一人當 負擔額
一、二六四、六三四	一、二七二、七八二	一、四六九、九四三	一、二八五、一一二	一、三〇一、二一九	三〇三、〇一一	二二五、八五〇	三、〇〇八、七〇七	四、五四五、六七六	二八・三二	四・五九
					四七〇、三三四	二二九、八四六	三、二五、五五一	四、七四〇、五〇九	二九・八六	四・九五
						三七九、〇八〇	三、四三七、六七五	五、二八六、六九八	三四・五三	五・五八
						四七〇、三三四	三、八一〇、〇〇九	五、五五三、一一三	三六・六八	五・九三
						三〇三、〇一一	三、六九五、〇〇〇	五、二六三、六四五	三五・二二	五・六九

公學資産及収入

(昭和六年度)

類 別	縣	市	町	村	計
公學收入	四四四、六七八	七二、七六四	一、五八二、四四三		二、〇九九、八八五
公學資産	四、四二六、六〇三	一、一三三、〇七四	八、六二二、七六六		一四、一七一、四四三

二、社會教育

本縣立圖書館は大正十年十月十四日の創立で、之れを機會に管下町村に對し、公立圖書館の設立を慫慂したが、大正十三年 今上陛下の御成婚を記念として多數の設置を見、爾來其の數を増し、尙縣下各圖書館を以て岩手縣圖書館協會を組織し、各圖書館の聯絡研究に努めてゐる。青年男女を訓育して、専ら信念と實力との啓發に努め、祖先傳來の日本精神を體現し、地方風教の作興及地方産業の進展に盡し、日新領土及海外への發展を圖り本縣の振興と皇國の興隆とに貢獻する地方中堅人物を養成する爲、昭和七年九月膽澤郡相去村に縣立六原青年道場を設置し、場長一名、教士若干名を置き、更に昭和八年八月より全分場として下閉伊郡宮古町に海洋青年道場を設け専ら教導に力めてゐる。尙養きに拓務省委囑を受け滿蒙武裝移民候補者として、秋田、青森、岩手の三縣の在郷軍人を收容して訓練を施した。男女青年團は各市町村に設置され、之を包括して郡市男子及女子聯合青年團を組織し、更に各郡市聯合青年團を以て、縣聯合青年團を組織し、又少年團体も逐年其の數を増加するの趨勢である。婦人會は成立日尙淺き爲、今尙搖籃時代にありと雖も、本年度に至りて俄に其數増加して漸時内容充實し來れり。青年訓練所は大正十五年四月、青年訓練所令の發布さるゝと共に極力之が設置を奨励したので、縣下各市町村普く設置を見るに至つた、又鐵山、農場或は各種學校に對し、之が設置を慫慂した結果、鐵山地に私立青年訓練所を設置したるもの二、青年訓練所規程第六條に依り認可したるもの六、同規程第八條に依り認可したるもの二を見ること、なつた。社會教育委員も本年度に至つて極力設置方を奨励したる結果、其の設置殆んど縣下全般に亘

社會教育

り、將來は町村發展の根本動力として期待すべきものあり。
 成人教育機關として大正十五年以來縣下數箇所縣及文部省主催の下に成人教育講座を開設したが、逐年良好の成績を収めてゐる。
 映畫教育機關として映寫機一臺、フィルム二十七種、八十七卷を備へ地方の求めに應じ巡回映畫會を開催し、各地共良好の成績を収めてゐる。
 公衆体育獎勵の目的を以て体育主事を設置し、斯道の指導助成に努めてゐる。
 岩手縣佛教會は思想善導民風の作興に盡瘁し、岩手縣教化團體聯合會は教化運動を起し、其の實行に努むると共に郡市町村教化網の完成に努めてゐる。

圖書館

種別	館數	圖書冊數	閱覽人員
縣立	一	二九、四七九	四〇、一三三
町立	一	八九、四九五	一三三、二四〇
村立	二〇	四三、七七三	四〇、七五八
計	二〇八	一六二、七四七	二〇四、一三三

青手道場

名稱	設立年月日	職員	修練證書受與者
岩手縣立	昭和七年	場長一教士	第一回第二回第三回第四回第五回第六回第七回第八回第九回
六原青年道場	九月二日	一	一五五 五〇 四八 三四 二七 六五 七五 三三 四一

青手訓練所

種別	訓練所	主事	指	導	員	生徒	年度内入所者	年度内修了者
市立	七	七	三三	三四	六九	五二一	二二五	六六
町立	三〇	三〇	一、〇四五	七五三	一、八七九	一九、四六九	六、〇五三	一、八三四
私立	二	二	四	八	三三	一四五	三九	一九
計	三二〇	三二二	一、一三〇	七九五	一、九七一	二〇、一二五	六、三二七	一、九一九

男子青手團

所在地	團員	本年度收入	其他	計	本年度支出總額
市	三八	三四五	二六四	二六	三九五
町	七二六	二、四四〇	七六〇	二八四	五、四七一
村	三、〇六七	三、三八一	六、四七七	六、四九一	二六、八六二
計	三、八三二	三、一三二	七、二六三	三、七三三	三三、七二八

社會教育

社會教育

女子青年團

所在地	團體	正團員		本年年度收入		其他		計	本年度支出總額
		才二十五才以上	才二十五才未滿	市町村團員	寄附金	其他	計		
市	七	二五	一五〇	一	二六	四二五	五六三	一、六〇三	五三五
町	二九	一一七	九六七	八〇五	一三七	六九九	二、一一五	一、六〇三	一、六〇三
村	二四二	七九八	五、五七六	二、五四四	三四三	二、九一〇	八、九一三	七、一二五	七、一二五
計	二七八	九四〇	六、六九三	三、三四九	五〇八	四、〇三四	一一、五九一	九、二六三	九、二六三

男女少年團

團體	團員		資產	經費
	正團員	正團員外		
加 盟	三三	三六四	六九、〇五九	二、九五四
赤十字	二	二	一、一五五	二、〇九六
其他	二	二		
計	四〇八	四〇八		

二二、社會事業

社會狀態の比較的平穩な本縣は、從來商工業の盛んな都市を中心としての施設が多かつたが、近來農村社會事業の唱導さるゝに伴つて、兒童保護施設の一として託兒所の開設を見、或は恩賜財團濟生會及赤十字社支部の巡回診療班の活動、住宅組合の設立、公益質屋の増設等本縣社會事業は、逐年發展し社會事業協會も昭和七年三月設立され着々事業を進行されてゐる。

養育院及感化院

名稱	設立の區別	職員數	收容人		計	經費
			男	女		
岩手養育院	(私立)財團法人	三	一六	五	二二	四、一四九
岩手養老院	個人經營	二	七	一〇	一七	三、五六六
杜陵學園	(縣立)感化院	三	一〇	二	一二	三、九五〇
岩手保護院	社團法人	四	三〇	二	三二	二、〇七九
盛岡無料宿泊所	個人經營	二	一	一	二	四〇〇
院內			三〇	二	三二	
院外			一	一	二	
月平均			三〇	二	三二	

社會事業

社會事業

赤十字社及愛國婦人會

七四

赤十字社 愛國婦人會	佩有功章及特別終身正(通常)贊助		計	年儲金
	一、二七五 二、七〇三	一三、九八六 一六、五六九 一九、〇一八		

住宅組合	組合員	貸付金額	建築戸數

經營主体 市町村	設置數	貸付資金	貸付制限

紺綬褒賞受者 褒状を賜ひし者 褒状を賜ひし者 計	德行公	益寄附	計

(警察褒賞を除く)

二二三、兵 事

昭和六年度縣内の壯丁受檢成績は、受檢總數一萬二百六十一人中、甲種合格二・七割、乙種三・〇割、丙種三・六割、丁種七分で、トラホーム患者は百人中一一・〇人、花柳病は〇・五〇人である。

又海軍志願兵は受檢者一千四十人で、中合格者百八十五人受檢者百に付一九・四人で、志願受檢者は前年に比して百八十九人の増加である。

衛 成 諸 隊

騎兵旅團司令部	一	工兵大隊	一	憲兵分院	一
騎兵聯隊	二	聯隊區司令部	一	衛戍病院	一

在 郷 軍 人 會

分會	將校		准士官		下士官		兵		卒		補充兵		計	經費
	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二		
聯合町村	一四	二四	四三	一三	九〇	二〇、五七〇	三三、一四六	五二、一三〇	五三、二〇〇					

兵 事

七五

種別	市		町		村		縣		目的別	金額
	市部	市部	町部	町部	村部	村部	縣部	縣部		
土地建物	九一、六五〇	六、二九、一六〇	二四、〇〇〇	四七四、九五〇	一一、九六〇	七二、四八六	九、六五〇	二六、六五三、七三二	地	二六、六五三、七三二
船舶								三七、三五七	船	三七、三五七
金員								八、八〇〇	金	八、八〇〇
土物								三、四九九、八〇二	物	三、四九九、八〇二
備用	備用	備用	備用	備用	備用	備用	備用		備用	
特定目的	特定目的	特定目的	特定目的	特定目的	特定目的	特定目的	特定目的		特定目的	
債	債	債	債	債	債	債	債		債	
市債	市債	市債	市債	市債	市債	市債	市債		市債	
町債	町債	町債	町債	町債	町債	町債	町債		町債	
村債	村債	村債	村債	村債	村債	村債	村債		村債	
縣債	縣債	縣債	縣債	縣債	縣債	縣債	縣債		縣債	
電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業		電氣事業	
土木事業	土木事業	土木事業	土木事業	土木事業	土木事業	土木事業	土木事業		土木事業	
災害土木	災害土木	災害土木	災害土木	災害土木	災害土木	災害土木	災害土木		災害土木	
衛生事業	衛生事業	衛生事業	衛生事業	衛生事業	衛生事業	衛生事業	衛生事業		衛生事業	
社會事業	社會事業	社會事業	社會事業	社會事業	社會事業	社會事業	社會事業		社會事業	
勸業事業	勸業事業	勸業事業	勸業事業	勸業事業	勸業事業	勸業事業	勸業事業		勸業事業	
歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金	歲計應急資金		歲計應急資金	
計	計	計	計	計	計	計	計		計	
總計	總計	總計	總計	總計	總計	總計	總計		總計	

諸稅負擔 (昭和六年度)

郡市名	國稅(直接稅)		縣稅		市町村稅		諸稅總額	
	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當	稅額	一人當
盛岡	四一三、四三二	三一・五〇	二五二、七八三	二一・六五	三三一、五八〇	二八・四七	九九六、七九四	八五・五九
岩手	一一一、七四〇	八・五一	二二七、二五六	一八・〇七	二二九、七〇三	一七・五〇	六七八、六九九	五二・七〇
紫波	九二、九六二	一三・六二	二〇七、四五八	二八・一五	一八一、八九五	二四・六八	四八二、三一五	六五・四五
稗貫	一四八、六七八	一四・四三	二五〇、八四八	二四・三七	二二七、五一六	二一・一一	六一七、〇四二	五九・八八
和賀	一三七、三八四	一一・三四	二二〇、四六七	一八・二〇	二四五、三四八	二〇・二五	六〇三、一九九	四九・七九
膽澤	一四五、六一三	一一・四三	三二六、〇五五	一九・三〇	二九八、七〇六	二五・五〇	六七〇、三七四	五七・二二
江刺	七一、四三二	八・九五	一五一、二六五	一四・〇〇	一九五、二八四	一四・四八	三二七、九八〇	三九・八六
西磐井	九六、二四三	一〇・〇一	一七六、五八二	一八・三七	二〇八、六三七	二一・七〇	四八一、四六一	五〇・〇八
總計								

東磐井	一〇五、四三〇	七、五九	二〇四、〇四二	一四、七〇	二四〇、一一八	一七、二九	五四九、五九〇	三九、五九
氣仙	五一、〇三三	四、七五	一一四、二三八	一〇、六四	二〇六、六六一	一九、二四	三七一、九三一	六、五〇
上閉伊	一〇五、四二七	七、〇一	一七六、五三三	一一、七三	二八〇、八四六	一八、六七	五六二、八〇五	三、四一
下閉伊	七八、八九三	五、二一	一四八、四一〇	九、八〇	二四四、一一八	一六、一三	四七一、四三〇	三、一四
九戸	三三、七〇三	二、五六	一〇三、七〇六	一、三五	二〇七、二二五	二、五五	三四二、六二三	二、七、六四
二戸	五四、〇九四	五、六九	八二、二九〇	八、六五	一四六、八五七	一五、四四	二八三、二四一	二、九、七八
計	一、六四四、〇五八	一〇、二四	二、五五〇、九三三	一五、八九	三、二三四、四八四	三〇、一四	七、四二九、四七四	四、六、二七
昭和三年度	二、〇二八、一七七	一二、七八	二、七一九、二三三	一七、一三	三、七六九、三六三	二二、七五	八、五一六、七六二	五、三、六五
四年度	二、一七二、九三九	一三、〇八	二、八二六、三九九	一七、八一	四、四四一、六四七	二七、九八	九、四四〇、九八五	八、七、三三
三年度	二、一九三、九六八	一三、六九	二、七七一、五〇八	一七、九〇	四、四〇三、四九〇	二七、九五	九、五六八、九六五	五、九、四八
二年度	二、一五四、一七二	一四、四二	二、四九八、六一九	一八、二〇	四、二九一、五一	三〇、四〇	八、九四四、三〇二	六、三、一九

諸税 (昭和六年度)

國稅	直接國稅 所得稅 地租 營業收益稅 營業稅	收入額	縣稅	國稅附加稅 地租 營業收益稅 營業稅 砂鑛區稅	收入額	市町村稅	國稅附加稅 地租 營業收益稅 營業稅 砂鑛區稅	收入額
合計	三、六四一、八二四	二、五五〇、九三三	合計	二、三〇〇、七三三	合計	三、二三四、四八四	合計	二、八六七
間接國稅	酒稅 相續稅 資本利子他稅	一、八〇八、九三六 一一三、二五五 六五、八九〇 九、六八五	特別地稅	二二一、九三四	特別地稅	九六、〇四九	特別地稅	四四三、〇四三
營業收益稅	三三三、四〇一	營業收益稅	九九六、九四四	營業收益稅	一、二五〇、二一〇	營業收益稅	四四三、〇四三	
營業稅	六三、二四六	營業稅	一、二五〇、二一〇	營業稅	七、八一五	營業稅	二一五、〇三三	
地租	六八一、一七六	地租	一、七六、九九六	地租	一、八一五、三八三	地租	八二三、二六四	
所得稅	六八、一七六	所得稅	一、二五〇、二一〇	所得稅	一、八一五、三八三	所得稅	一一、九八六	
營業收益稅	六三、二四六	營業收益稅	一、二五〇、二一〇	營業收益稅	一、八一五、三八三	營業收益稅	一一、九八六	
營業稅	六三、二四六	營業稅	一、二五〇、二一〇	營業稅	一、八一五、三八三	營業稅	一一、九八六	
砂鑛區稅	一、六四四、〇五八	砂鑛區稅	一、六四四、〇五八	砂鑛區稅	一、六四四、〇五八	砂鑛區稅	一、六四四、〇五八	
特別地稅	二二一、九三四	特別地稅	二二一、九三四	特別地稅	二二一、九三四	特別地稅	二二一、九三四	
家屋稅	四三三、八三一	家屋稅	四三三、八三一	家屋稅	四三三、八三一	家屋稅	四三三、八三一	
雜種稅	五〇五、八二六	雜種稅	五〇五、八二六	雜種稅	五〇五、八二六	雜種稅	五〇五、八二六	
營業稅	七、八一五	營業稅	七、八一五	營業稅	七、八一五	營業稅	七、八一五	
合計	三、六四一、八二四	合計	三、六四一、八二四	合計	三、六四一、八二四	合計	三、六四一、八二四	
夫役現品	三、二三四、四八四	夫役現品	三、二三四、四八四	夫役現品	三、二三四、四八四	夫役現品	三、二三四、四八四	

縣稅納稅成績 (昭和七年度)

郡市名	納付額		缺損額	翌年度へ繰越額	納付歩合
	納期內	納期後			
盛岩	二六九、六二九	一八一、三六八	九、九	二、三五九	〇・二四〇
紫岩	二二六、〇六六	八六、五五〇	七、四	一〇、〇八一	〇・五五二
和嶺	一八二、三三三	六〇、八九九	三、三	二、〇三六	〇・六五四
江膽	二二七、五三〇	九三、〇九四	二、四八	五、四三二	〇・五五三
西江	二〇三、六九三	八二、四八四	二、六二	八、二四三	〇・五五六
東嶺	二五、八四三	一一、六五三	五、九	九、〇二	〇・五五三
氣閉	一四三、一三五	四六、六二八	四、一三	六、八〇	〇・六六六
上閉	一八四、五〇二	一〇、〇二〇	一、	一、四、四一〇	〇・三七九
下閉	二〇四、七八九	九六、一四九	一、三	一〇、七五六	〇・四七七
計	二、五八八、六一七	一、二六一、二七七	一、八二六	一七五、〇〇五	〇・四八四

市町村稅納稅成績 (昭和六年度)

郡市名	調定額	徵收濟額	徵收歩合	比較		件處滯數分納	全上稅額
				前年度	増減		
盛岩	三六八、五三九	三三一、五八一	〇・八九九	〇・九五三	〇・〇五四	三、〇二三	七、二八三
紫岩	二六七、〇八一	二一七、七二〇	〇・八一五	〇・八四九	〇・〇三四	二、八六八	一三、五七九
和嶺	一九三、五二九	一八一、五七八	〇・九三八	〇・九六四	〇・〇二六	二、一四	二、二三七
江膽	二四六、三五五	二一七、八五一	〇・八八四	〇・九〇四	〇・〇二〇	四、〇七	二、九七五
西江	二七六、八七〇	二四三、二六七	〇・八七八	〇・八九二	〇・〇一四	二、六三五	七、九八六
東嶺	三二八、九六九	二九七、八三三	〇・九〇五	〇・九三〇	〇・〇二五	四、七二	三、五二〇
氣閉	二〇六、二七五	一九四、八八三	〇・九四五	〇・九五三	〇・〇〇二	五、〇五	八、二一八
上閉	二四〇、八六九	二〇六、一六九	〇・八五五	〇・八八〇	〇・〇二四	四、五二	二〇、七四七
下閉	二七六、二六四	二三八、六二二	〇・八八三	〇・八九〇	〇・〇〇七	一、五五八	六、〇一七
計	三、八二五、四一一	三、二二九、六二〇	〇・八四四	〇・九一四	〇・〇七〇	一八、六六〇	一〇六、五四九

合	部時臨										部常經			
	財	其	財	合	市	國	國	寄	縣	線	其	財	國	雜
計	產	他	貨	市	國	國	寄	縣	線	他	產	國	雜	縣
計	運	用	付	町	庫	庫	附	附	越	收	收	下	收	稅
計	金	金	金	村	給	助	金	金	債	入	入	金	入	入
計	金	他	代	組	金	金	債	債	債	入	入	金	入	入
九、四一八、〇〇八	五、八四三、三三三	一六一、〇六二	三四、九一七	一九五、六一七	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	二、三九七、一〇〇	二、三九七、一〇〇	二、三九七、一〇〇	三、五七四、六八六	二、四一九、九九一	一、〇〇〇、八五八	九二、七四七	二、〇〇〇、八五八
二、八七二、八〇六	二、八七二、八〇六	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
六、三三三、七九五	六、三三三、七九五	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
二、七六八、八二五	二、七六八、八二五	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
六、五二一、七八四	六、五二一、七八四	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
五、一〇〇、〇〇〇	五、一〇〇、〇〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
二、七三六、八二一	二、七三六、八二一	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一
六、三六六、〇四四	六、三六六、〇四四	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、九一七、一〇〇	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	一、四三八、二八五	三、四八〇、九八九	二、五五〇、九三一	七八三、四五三	九三、五〇五	二、五五〇、九三一

部常經	部時臨											
	其	縣	衛	會	縣	修	警	公	土	警	勸	教
計	職	生	議	議	稅	稅	會	會	木	察	業	育
他	員	及	費	費	取	撥	費	費	費	費	費	費
費	費	病	院	費	費	費	費	費	費	費	費	費
二、四九七、九九二	六四、三三〇	一六一、六四六	三四、一四〇	四四、四九四	六一、五〇八	一三、四九八	九、五二九	二五三、二二六	五三八、七九四	五〇七、七五〇	八〇九、一八七	八〇九、一八七
二、六一八、二一八	七六、一四七	一五八、九五〇	三三、四三六	五六、二〇八	六二、六六一	七、六三〇	九、六五三	二九四、五二八	五四九、三二六	五五三、一一五	八一七、五六四	八一七、五六四
二、七二二、二八八	九九、一八六	一七〇、三三六	三〇、五〇五	二二、三一一	六六、三三七	八、八九四	九、五七九	三二二、八〇八	五四〇、二二〇	五七三、五七一	八六七、五四一	八六七、五四一
二、七五八、八七八	六〇、三三三	一八三、九二九	三四、二七四	四三、二七一	六五、五八二	九、三九二	一〇、四〇二	三三〇、五二五	五四六、六二〇	六〇七、九〇二	八六六、六四八	八六六、六四八
三、〇五一、三四四	七四、二五〇	一五四、二八八	四八、四〇四	五〇、六八七	七二、八七七	二二、七五三	一一、一六五	四五三、九六四	六七八、五六八	六二三、四二二	八六〇、九六七	八六〇、九六七

一市町村平均	其氣支業	雜電會補警衛社公寄基土諸役教	均均他出費費費費費費費費金費費擔費費	昭和六年度	昭和五年度	昭和四年度	昭和三年度	昭和二年度
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	三、〇四六、〇五一	三、三六七、九五八	三、七七五、五七五	三、九一四、七一四	三、九〇七、七一四
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二九一、〇八三	一、四四六、七二二	一、五四九、四四九	一、六五八、二七一	一、五六四、四〇七
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、五八、九四九	二、九、八〇五	二、〇、三五四	二、六、七四〇	三、三、〇一八
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	二、八一、五九一	六、七九、三六八	四、九一、五九九	九、二一、一五一	一、〇〇二、二一九
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、七、八二二	一、〇七、一七	一、三、四、七九五	四、六八、七二一	五、〇四、二七二
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、四、五、一二二	五、四三、三〇〇	九、〇三、六八八	二、二九、九六二	二、〇六、九三〇
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、〇九、六〇四	五、四、一五二	一、六六、二二六	三、五七、七八五	三、五八、七三五
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、三三、五三八	一、六九、四二一	二、二二、六九七	一、九五、一三七	一、一、六二〇
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二四、四三六	一、六六、四〇六	一、五八、二七四	一、九五、一三七	三、四二、四〇九
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	七、四、三九一	八、二、四九九	九、二、八〇三	一、一七、一〇〇	一、九七、三八〇
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	三、九、五五五	五、一、〇〇二	六、一、二四〇	六、〇、七二二	六、〇、七〇五
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	五、一、八一	五、一、七四九	九、二、四九一	七、三、九八五	六、九、七一〇
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、五、四三三	一、六〇、二九一	七、〇、六六四	八、一、二五三	二、五〇、九〇三
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、二、八、五七〇	一、〇五、〇六〇	三、〇一、六七九	二、〇六、〇六五	五、六、一、四〇四
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二、五、〇一六	一、〇五、〇六〇	六、三、四三三	七、二、八五八	九、二、五、四〇四
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	七、八、二、一〇一	八、六、三、〇四五	九、〇、七、五六九	五、四、九、二、五二七	九、二、五、四〇四
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	三、三、〇、〇〇三	三、六、四、九六	三、八、二、九一	四、〇、〇、五三	三、八、八、三五
一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四、八、四、一五〇	五、四、二、六〇	五、九、二、六〇	六、一、四、九、九〇	六、一、四、九、九〇

附 録

岩 手 の 案 内

國 寶	二	農 業	四九
史蹟名勝天然記念物	五	林 業	五六
名勝舊蹟	八	畜 産	五九
神社佛閣	一五	水 産	六三
山岳と温泉	二三	鑛 業	六六
海濱と河川	二九	商 業	六六
官公衙學校	三三	主なる副業	七〇
市町村	三九	名物名産	七六
産業組合	四〇	農 産物	七七
教 育	四三	林 産物	七八
社會教育	四六	水 産物	七八
社會事業	四六	工 産物	七九
		菜 子 類	八一
		其の他飲食品	八二

(印は神社佛閣の項参照)

刀

(傳國長作)

伯爵南部利淳寄進

盛岡市縣社櫻山神社

毘沙門天立像(附二鬼坐像)

毘沙門天丈一丈三尺五分、
二鬼像三尺餘、嘉祥三年四
月三日慈覺大師の開基運慶
作

和賀郡十二鎭村毘沙門堂

吉祥天立像

丈五尺七寸七分右同斷

同

◎毘沙門天立像

丈三尺三寸七分

和賀郡立花村毘沙門堂

二天王立像

二天王立像二軀、丈五尺三
寸及五尺一寸

同

須彌壇

木製黒塗佛具紋螺鈿入八角
徑六尺

西磐井郡平泉村中尊寺經藏

一切經及箱

傳藤原清衡、基衡、秀衡所
藏、紺紙金泥、金銀泥、黃
紙宋版

同

中尊寺建立供養願文

北畠顯家卿書

同

天蓋

木製、黒塗金箔圓形寶華唐
草模様

同金色堂

幡頭

銅製(三枚)

同

華鬘

銅鍍金天人毛彫(六枚)

同

經案

木製塗器剝落(貳基)

同

磬架

木製黒塗螺鈿入(壹基)

同

最勝王經十界寶塔曼荼羅

紺紙金描濃彩(十幀)

同中尊寺山内大長壽院

螺鈿卓

木製、高二尺五寸
巾一尺一分、長二尺二寸

同

禮盤

木製、高五寸一分、徑二尺
一寸七分、横二尺一寸七分

同

螺鈿燭臺

木製、徑八寸三分、高三尺

同

一字金輪佛坐像

法橋定朝作、傳藤原秀衡朝
臣護持佛、丈二尺五寸四分

同中尊寺

大日如來坐像

丈一尺八寸四分

同瑠璃光院

阿彌陀如來坐像

同中尊寺

國寶

木造 附銅磬孔雀文様一面架

同

同大長壽院

四

銅 磬

孔雀文様 建長二年正月日と施入の銘あり

同地藏院

千手觀音立像

木造

同觀音院

大日如來坐像

同

同金剛院

藥師如來坐像

同

同中尊寺

藥師如來坐像

同

平泉村闕伽堂

十一面觀音立像

傳行基作

二戸郡淨法寺村天台寺

阿彌陀如來坐像

傳慈覺大師作

稗貫郡花卷町勝行院

◎金色堂本堂

内陳中境方七尺三寸、四本柱

西磐井郡平泉村

◎金色堂覆堂

研出時繪十二光佛桁梁高欄等
花紋螺鈿入金堂内外皆金色、
天仁二年藤原清衡朝臣建立

同

正應元年惟康親王建立

◎經藏

天仁元年藤原清衡朝臣建立
建武四年二階建の上層を燒
き再建

同

史蹟名勝天然記念物

(◎印は名勝舊蹟以下の項参照)
(×印は假指定のもの)

明治天皇一關行在所

西磐井郡一關町

◎毛越寺跡

(史蹟)

西磐井郡平泉村

◎無量光院址

(史蹟)

同

◎膽澤城址

(史蹟)

膽澤郡佐倉河村

◎現鼻溪

(名勝)

東磐井郡長坂村

◎嚴美溪

(名勝及天然記念物)

西磐井郡嚴美村

◎盛岡石割櫻

(天然記念物)

盛岡市内丸

史蹟名勝天然記念物

五

史蹟名勝天然記念物

しだれかつら

同 同

數栗自生地

○早池峯山高山植物帯
○岩手山高山植物帯

×下船渡貝塚

×蛸ノ浦貝塚

×中澤濱貝塚

×枝垂栗

(天然記念物)
完全なかつらの枝垂で學術上珍奇なる變種

同 同

(天然記念物)
數栗は花序の全部雌花となつて、花後人小多數の栗球を生じ尾狀を呈す

(天然記念物)
同

(史蹟)
先史民族の食料とした貝殻の集積層八尺に及ぶところあり、獸骨及角製の裝飾品土器等を包藏す

同 同

(天然記念物)

盛岡市餌差小路

岩手郡中野村
紫波郡乙部村

和賀郡小山田村

稗貫郡内川目村

岩手郡瀧澤村

氣仙郡大船渡町

同赤崎村

同廣田村

九戸郡江刺家村

×舟久保洞窟
×高野長英舊宅

×關谷洞窟

×今松登穴居住址

×仙波堤登穴居住址

×狢森古墳

○經塚の碑
○勝源院の逆櫓
○銀杏岡の公孫樹
○長泉寺の大公孫樹

史蹟名勝天然記念物

(史蹟)

(同)

(史蹟)
先史民族の居住址で、高さ二、三丈數百疊を敷き得る箇所もあつて人骨や各種裝飾品や土器を包藏す

(史蹟)

(史蹟)
登穴二十九箇、其の形狀は主として正圓、形態完全なり

(史蹟)

(史蹟)
古墳上部形態は丸塚、高さ八尺、徑七尺、上に雜木數本生育す

(天然記念物)

(同)

(同)

紫波郡赤澤村

膽澤郡水澤町

氣仙郡日頃市村

岩手郡一方井村

同御堂村

紫波郡徳田村

下閉伊郡山口村

紫波郡日詰町

和賀郡十二箇村

九戸郡久慈町

石勝舊蹟

岩手公園

盛岡市内丸・盛岡驛より十五町(自動車)
市の中央に在つて往時不來方城又は福士館と稱したが、慶長以後は盛岡城と唱へて南部氏代々の居城であつた、明治五年陸軍省用地となり、同二十二年南部氏拂下を受けて、同三十三年櫻山神社を奉祀し、同三十六年城址を改修して公園とする計劃を立て、同三十九年面積一萬五千坪の公園とした。

石割櫻

盛岡驛より十五町(自動車)
盛岡地方裁判所構内に在る、高さ丈餘、根廻り五尺餘の老櫻一株、花崗岩の中心を劈いて挺出してゐる、そして花崗岩の高さは七、八尺、長さ二丈餘、幅八、九尺ある。

見馴松

同 餌差小路・盛岡驛より二十二町(自動車)
明治九年御巡幸の時、餌差小路菊地邸に駕を駐め給ひて後、十四年復同邸を以て行在所に定め給ひ、園中の古松殊の外窈窕に適ひ名を「見馴松」と賜はつた、十七年火災に罹り十九年御苑の稚松下賜植繼がしめられたものである。

高松の池

盛岡市土田・盛岡驛より約二十町(自動車)

厨川柵址

盛岡市・盛岡驛より約二十町(自動車)
周圍里餘遊歩道を以て繞らし、櫻樹を並植し四周の翠巒、岩手、姫神の二峰影を映じ四時市民優遊の地である、池畔の神庭山には日露役の志士横川省三氏の銅像がある。
永承以來康平五年滅亡まで、安倍氏の據つた所で、里人は今も安倍館と稱してゐる、安倍貞任の決戦の地であるが、後年藤原泰衡の隠伏したと傳へられる著名の柵址である、附近に八幡森、方八町等の遺跡がある。

葛根田玄武洞及鳥越瀑布

岩手郡西山村雫石驛より二里
葛根田川の北岸玄武岩重疊峙立して洞窟を形成して居る、洞内高さ五、六尋、幅凡三十間、奥行約八間、頗る壯觀である。玄武洞より葛根田川に逆つて約一里にして鳥越瀑布を觀る。水勢漲り落つること百六十二尺幅十八尺乃至四十尺、澗谷に震ひ盛夏尙肌の寒きを覺ゆ。

啄木の碑

岩手郡遊民村・好摩驛より約二十町
近代の詩人石川啄木の歌碑で、岩手、姫神の二峰指呼の裡にあつて、啄木が郷に在りし時好んで逍遙した地である、楊柳新緑の候風景最も佳、故人の作品に收められて居る。

今松堅穴居住地

岩手郡一方井村・沼宮内驛より約一里
日本史蹟の好材料として考古者の注目する所で之を掘鑿すれば土器、石器、曲玉の類等鐵器様のものを得ることがあるが、其の器物の形状より察して餘程進化したものが住居した

名勝舊蹟

名勝舊蹟

ものであらうとの説がある。

志波城址

紫波郡古館村・日詰驛より一里(自動車)

志波城は後に比爪館(一名種爪館)と稱し、延暦二十二年志波城使左近衛中將坂上田村麿が築いて、夷賊の來寇に備へた所であると言ふ。

勝源院の傑樹

紫波郡日詰町・日詰驛より約三十町(自動車)

樹齡約千年地上より四肢に分れ、最も太いもの周囲は十五尺、高さ三十尺、四條の大幹數多の幹枝を生じ四方を蔽ふこと枝毎に凡六十尺に達してゐる。

花巻城址

稗貫郡花巻町・花巻驛より五町(自動車)

古は鳥谷ヶ崎と稱し、安倍頼時の本據地であつたが、建久の頃より稗貫爲重此所に居り數十世相繼ぎ、天正年中に至り關白秀吉より領地を沒收された。

和賀展勝地

和賀郡立花村・黒澤尻驛より約十五町(自動車)

黒澤尻町の東部立花村一帶の丘陵で、北上川に沿ひ、男山、國見山、珊瑚岳等の丘陵起伏し、之に登れば眺望が雄大で又櫻の名所として開え遊園地となつて居る。

銀杏岡の公孫樹

和賀郡十二鋪村・晴山驛より約五町

東晴山字館にあつて、地上五尺の所で周圍二丈五尺有餘、幹の高さ百二十尺、樹齡は千年以上であらうと謂はれてゐる。

膽澤城址

膽澤郡佐倉河村・金ヶ崎驛より(自動車)

平安朝時代陸奥鎮靜の爲めに設けた城であると謂ふ、延暦二十年坂上田村麿蝦夷を征し閉伊村に至つて賊徒を破り翌年膽澤城を築いた、城址は平地で東は北上川に臨み、北は膽澤川を控へてゐる。

水澤公園

膽澤郡水澤町・水澤驛より十町(自動車)

明治十年有志が謀つて珍花奇木を植ゑ、更に明治三十三年五月東宮御慶事記念として其の規模を擴張した、園中同町出身後藤新平伯の銅像及贈正四位高野長英の碑がある。

緯度觀測所

膽澤郡水澤町・水澤驛より十五町(自動車)

明治三十九年九月文部省の創設で、西曆一千八百九十八年萬國測地學總會に於て選定した地球上四觀測所中の一で、東經百四十一度七分三十秒、北緯三十九度八分三秒六乃至七の位置に在る。

衣川柵址

膽澤郡衣川村・前澤驛より約一里

衣川橋上流約六町の地點に在つて往時安倍頼時同自任の居城で、自任が義家と應答し「年を経し糸の亂れの苦しさに」と詠じたのは即ち此所であると言はれて居る。

平泉館址

西磐井郡平泉村・平泉驛より六町(自動車)

清衡、基衡の居つた所は柳御所、秀衡の居つた所は伽羅御所(或は喜樂館)又は御所屋敷と名勝舊蹟

名勝舊蹟

稱した。

判官館址

西磐井郡平泉村・平泉驛より六町(自動車)

源義經が逃れて秀衡の許に來り投じた時の居館として有名である、義經堂には義經の像を安置し、天和三年の建立であるが、寶曆になつて白旗神社と改められた。

關址

同・平泉驛より二十二町(自動車)

中尊寺と高館との間に關神社がある、此の北麓は即ち關址である。

琵琶櫓址

同。同二十八町(自動車)

中尊寺北西十町衣川沿岸に在つて貞任の庶兄成道の據つた所で、秀衡の三男泉三郎忠衡亦之に居つたので泉ヶ城とも謂ふてゐる。

達谷窟

同・平泉驛より約一里(自動車)

延暦二十年坂上田村麿が朝命に依つて東夷征討の際、高丸惡路王等の賊徒を殲滅し、平賊祈願の報賽として山城國鞍馬寺に模して、九間四面の堂を建て慈覺大師作百八軀の多聞天を安置した。

伊達吉村誕生地

東磐井郡大原町・摺澤驛より約二里(自動車)

仙臺藩五代中興の英主伊達吉村の誕生地で、俗に御産屋址と言つて居る、附近に八幡神社御手植櫻、琵琶石等の遺跡がある。

布佐窟

東磐井郡門崎村・門崎驛より約十八町(自動車)

石灰洞で奥行約二百間其の間種々の景勝あり、昔石覺禪師座禪の場と稱されてゐる、附近に最明寺がある、古刹で最明寺入道時頼巡錫の際寺號を與へたと言はれてゐる。

王子陵

氣仙郡盛町・遠野驛より約十里(自動車)

推古天皇丁巳五年寶野臣尾張皇子に隨つて陸奥に降り、後寶野信家に至り佐倉里(現在の愛宕山)に社殿を建立し繁宮と稱して尾張皇子の神靈を鎮祭し奉つた所と傳へられてゐる明治三十年此の地中より長三尺六寸、根基一尺餘、上部八寸表面に「王子陵」と刻した古碑を發見した。

東禪寺址

上閉伊郡附馬牛村・遠野驛より約二里九町

建武中無盡和尚の開基にして、南部家領内由緒のある有名な道場で、近世は田祿百石を有し、現在の盛岡市東禪寺舊所在地である、其の遺址猶存在し無盡和尚の墓がある。

不動巖

上閉伊郡小友村・鱒澤驛より三十町

巖龍神社の後にあつて、地上百八十尺巍然として空に聳え、其の岩根に泉池がある、池中に小嶋があつて不動尊を祀る、巖面に上り龍と稱して龍の形狀がある、老松繁茂し四季の風景共に絶佳である。

湧窟

下閉伊郡岩泉町・岩泉町より約二十町

名勝舊蹟

名勝舊蹟

一四

全山奇岩を以て成る海拔二千六十二尺の宇靈羅山麓にある一大洞窟で、四時清水を湧出している、洞内に水流幅三尺乃至十二三尺、水深三十尺穴の高さ五十尺に達する所もあり、小舟を以て通航すること約百間、其の奥は未だ究めたものがない、此の附近十餘ヶ所に先住民の遺蹟として見るべき洞窟十餘ヶ所ある。

經塚の碑

下閉伊郡山口村・宮古町より約四町

永和二年紀州の人僧雲公が五部大經の經文を一字一石に書いて、之を埋め一基の碑を建てたと云ふ、高さ八尺五寸、幅五尺餘、四言四句の銘を刻し雄渾な書である。

長泉寺銀杏樹

九戸郡久慈町・久慈驛より二十町(自動車)

周圍四十九尺高さ百尺、其齡千年餘を経たものだと云ふ、此の樹に巨大な乳房狀の塊瘤數個あつて、其の皮を剥ぎ取つて乳量のないものに煎じて飲ませると効があると稱せられてゐる。

末の松山

二戸郡浪打村・福岡驛より一里

有名な歌枕で、第三紀層水成岩より成つて岩石中海産貝類の化石を存する、人口に膾炙する古歌「波こさぬ」云々は實に此の地を詠んだものである。

鳥越觀世音

同・一戸驛より二十七町

鳥越山上絶壁の中央洞窟内に觀世音堂を建て、ある、山中の紅葉亦絶景で筈を曳くものが

多い。

不動瀧

二戸郡荒澤村・荒屋新町驛より約一里

櫻松神社背後の山中にありて、直下數十尺瀧の中段に不動尊を祀る、紅葉の名所である。

神社佛閣

縣社櫻山神社

盛岡市・盛岡驛より十五町(自動車)

盛岡藩祖南部三郎光行及中興の祖、南部大膳太夫信直、利直及利敬の四侯を合祀する、岩手公園の東畔に在つて例祭は五月二十五、六の兩日である。

縣社八幡宮

同 八幡町・盛岡驛より二十五町(自動車)

元盛岡城内三社の一であつたが、延寶七年南部行信、今の八幡山に建設したので、譽田別尊を祀る、例祭九月十四日より三日間。

招魂社

同・盛岡驛より二十五町(自動車)

縣社八幡宮の傍に在つて社畔には戌申の役の勤王家、目時隆之進、中島源三の碑及西南戦没者の碑がある、四月卅日五月一日兩日官祭執行。

神社佛閣

一五

神社佛閣

縣社 岩手山神社

岩手郡瀧澤村・瀧澤驛より二里二十町

岩手山の頂上にあつて、延暦二十年坂上將軍東征の時大己貴命、稻倉魂命、日本武尊を祭祀して國土鎮護を祈つたと云ふ、遙拜所は瀧澤村柳澤にある、近年登山するものが頗る多い、例祭陰曆五月二十五日。

御堂 觀世音

岩手郡御堂村・沼宮内驛より三里

嵯峨天皇の大同二年春、將軍坂上田村麿の創立に係り、本尊は十一面觀世音で僧了慶の開基である、天台宗に屬し比叡山延曆寺の末寺である。

報恩寺 五百羅漢

盛岡市米内・盛岡驛より二十町(自動車)

寺は貞治年中通山長徹和尚の開基にかゝり、もと南部守行之を三戸城下に建て、慶長六年現在の地域に移した、維新の際國老楡山佐渡が自刃したのは此寺で境内に七間四面の堂宇があり、大佛師駒野丹下の傑作五百羅漢像を安置してゐる。

大慈寺

盛岡市東中野・盛岡驛より十八町(自動車)

黄檗宗で、もと小利であつたが、元首相原敬夫妻埋骨の地として忽ち全國に其名を知られ、墓前香華絶ゆることがない。

陣ヶ岡 蜂神社

紫波郡日詰町・日詰驛より約一里(自動車)

源頼義、安倍貞任征討の時、陣營を布いた地であると傳へられてゐる。

縣社 志賀理和氣神社

紫波郡赤石村・日詰驛より約五町(自動車)

延喜式神名帳に載する所で猿田彦命を祭る。

縣社 志和稻荷神社

紫波郡水分村・日詰驛より二里十八町(自動車)

天喜五年源頼義、安倍頼時を討ち、陣ヶ岡に滞在中の建立で稻倉魂命を祭る、後頼朝の再建に係ると傳へられてゐる。

太田 清水 觀音

稗貫郡太田村・花巻驛より二里(自動車)

大同二年坂上田村麿の建立で本邦三清水の一と稱せられてゐる、本尊はもと圓浮檀金三寸三分の十一面觀世音で、弘法大師作の木佛中に安置されたのである、緣日六月二十六、七日及七月九、十日。

丹内 山神社

和賀郡谷内村・晴山驛より二十町

元仁、桓武の朝、征夷大將軍坂上田村麿東夷征討の際、此祀に祈り、賊を平げた後更に社殿を建て、又康平五年源頼義安倍貞任征討の時、八幡、加茂の兩宮を建て、後鎮守府將軍藤原清衡崇敬し、祀田二十四町を寄進し、百八の堂を建てたと傳へられてゐる。

成島 毘沙門天

同十二鎮村・土澤驛より一里(自動車)

毘沙門天木像は身長二丈、吉承天女木像は身長六尺、何れも運慶の作と稱せられ、大正十年國寶に編入せられた、毘沙門堂は嘉承三年三月慈覺大師の草創と傳へられる。

神社 佛閣

神社佛閣

縣社早池峰神社

稗貫郡・石鳥谷驛より約六里(自動車)

大同二年大職冠鎌足の後裔、藤原實房の子兵部卿成房の建立するところである、祭日陰曆八月一日。

立花毘沙門堂

和賀郡立花村・黒澤尻驛より十五町(自動車)

縁起によれば仁明天皇嘉祥三年慈覺大師の開基で、助國山萬福寺と號し、天台宗であつたが慶安年中和賀兵亂の際焼失し、今は毘沙門堂ばかり存して居る、本尊毘沙門天は慈覺大師の作、二天王は法橋定朝の作である、殊に二天王は製作が優れて古像の遺品に乏しい東北地方に於ける藤原期の造像として注目される。

國幣小社駒形神社

膽澤郡水澤町・水澤驛より十町(自動車)

祭神は天照皇大神或は豊受大神、又一説に大己貴命の御子御井神なりとも云ふてゐる、明治四年國幣小社に列せられた、祭日九月十九日。

縣社鎮守府八幡神社

膽澤郡佐倉河村・同約一里(自動車)

延暦二十年征夷大將軍坂上田村麿の勸請に係るもので、譽田別尊、雅日靈尊、素盞男尊を祭るとも云ふ、後社殿焼失し天正十九年、正月關白秀吉淺野長政に命じて修理せしめた、寛文二年伊達氏亦修補し、地方有数の古社である。

正法寺

江刺郡黒石村・水澤驛より約二里(自動車)

佛殿の本尊は觀世音で春日の作釋迦文珠、普賢の像は當麻の作、彌陀の像は安阿彌の作と稱せられてゐる、貞和四年能州總持寺二代峨山禪師第一高足無底良詔和尚の開山で當時の領主長部清秀の開基である。

黒石寺

江刺郡黒石村・水澤驛より約二里(自動車)

天台宗にして天平元年釋行基の創建、延暦中兵火に罹り、藤原利仁勅を奉じ、大同年中東下し工人を飛彈に徴し本堂を新造した、嘉祥中慈學大師手づから十二神將四天王の像を刻し、堂宇四十八の僧房を營み、一時隆盛なりしも元龜、天正の際兵火に罹り、今僅かに藥師堂を存するのみである。

中尊寺

西磐井郡平泉村・平泉驛より十六町(自動車)

境内東西七十町三十間、南北十三町、本山に仁明天皇の嘉祥三年慈覺大師の開基で、清和天皇貞觀元年勅して中尊寺の號を賜はる、堀河帝の時勅命ありて藤原清衡經營し、天仁二年に至りて堂塔四十、僧坊三百餘宇成る、建武四年野灰延焼し堂宇烏有に歸し金色堂、經藏僅かに災を免る。

金色堂

同

天仁二年藤原清衡建立、中央壇上には佛像十一軀を安置し、左右の壇上亦同じ、定朝及運慶の作である、藤原氏三代の棺を納め、又秀衡の棺側には其子泉三郎忠衡の首桶ありと云

神社佛閣

神社佛閣

ふ、本堂は七百十餘年を経、古色蒼然たり、覆堂は正應元年惟康親王の建立で、本堂は明治三十年十二月、覆堂は大正六年四月國寶建造物に指定された。

經

藏 同

天仁元年清衡の建立するところ、元二階建であつたが、建武四年の火災に上層焼失し、其の残る所に修理を加へたものである、堂中八架を設け三代寄進する所の一切經を藏めてある。此外辨財元堂、寶藏大日堂等當時を偲ぶべきものが多く、山中到る處遺址に富み尋訪に違がない。

毛

越 寺

西磐井郡平泉村・平泉驛より約五町(自動車)

嘉祥三年慈覺大師の開基で其作の藥師如來を本尊としてゐる、藤原清衡若千の寺領を寄進經營して秀衡に至り、堂塔四十餘字禪房五百餘宇全く具はり、峻塔高樓四海の珍寶を以つてしたが、天龜大正の頃に至つて兵燹にかゝり烏有に歸したけれ共大泉の池等今尙ほ址を留むるものが多い。

縣社配志和神社

西磐井郡山目村・山目驛より約六町(自動車)

入皇十二代景行帝之御宇四十年庚戌東夷命に逆ひ邊陲を擾亂するに至つて、帝殊の外怒り給ひ、日本武尊に斧鉞を授けて征伐の上、皇子詔を奉じ軍を帥ひ海に沿ふて遠く道の奥の國に入り、營を此の地に移し、親ら矛を藏め皇孫尊、高孫尊、産靈尊、木花開耶姬尊の神

等を鎮祭し、蝦夷悉く誅戮して、萬民を綏撫し四海安寧を得たので、東の國が平定して神の功が大に顯れた、例祭五月一日。

無量光院址

西磐井郡平泉村・平泉驛より五町(自動車)

高館の南で、伽羅館址の西隣にある、秀衡の建立であつて、本尊は丈六の彌陀である、其莊嚴皆宇治の平等院に模したのであつたが、天正年中焼失して今は礎石を存するのみである、俗に新御堂と號してゐる。

御草神社

東磐井郡舞川村・一關驛より約二里十五町

祭神は稻倉魂命、伊弉冉命で延喜式内の古社で、仁壽二年從五位下を授けられた、此の地は古來奥州刀工の發祥地と推稱されてゐる。

縣社室根山神社

東磐井郡折壁村・折壁驛より約一里

上古東夷平定の爲め鎮守府を置いた所である、養老二年紀州熊野の神を遷奉し、正和二年に至り熊野三所を本宮、新宮、瀧宮の三所に勧請した。

普門寺

氣仙郡米崎村・高田驛より約三十町(自動車)

仁治二年京師建仁寺開祖明庵の子記外の開くところと言はれて居る、境内清淨で世塵を絶した名刹である。

鍋倉神社

上閉伊郡遠野町・遠野驛より三町(自動車)

神社佛閣

神社佛閣

尾

崎神

元遠野城に延元殉難僧正五位南部師行を祀り、政長、信光、政光等を配祀してゐる。

上閉伊郡釜石町・釜石驛より二里(自動車)

上閉伊郡第一の古社で昔鎮西八郎爲朝、伊豆大島に流された時妻を娶り男子四人を得、第三子を爲頼と云ひ鳥の冠者と稱したが、源頼朝に閉伊郡の東部に封ぜられて承久二年六月卒したが諸臣相謀つて此の廟を建てたものと言はれてゐる。

横

山八幡宮

下閉伊郡宮古町・川井驛より約十里(自動車)

古社で其の別當は猿丸太夫の末であると傳へられてゐる。

縣社吞香稻荷神社

二戸郡福岡町・北福岡驛より約十五町

祭神は稻倉魂命で伊勢國度會郡山田原に鎮座、豊受姫命の別々靈であると傳へられ勸請年月は密かでない、天正十九年九戸政實の亂を避け津輕郡に遷座し、亂平ぎて後本郡の當時漆澤村に遷座、天和二年二月三日現位地に遷座せられて以來本郡の惣鎮守として藩守累代の尊崇する所であつた。

黒

森神社

下閉伊郡山口村・宮古町より約十五町

和銅年間の創建と傳へられ、元明帝の御時建立、速須佐雄命、大己貴人命、稻田姫を祭るとも云ふ、近來長慶天皇の御陵墓として問題となつてゐる。

天

台寺

二戸郡淨法寺村・一戸、福岡各驛より約四里(自動車)

神龜五年聖武天皇の勅願によつて僧行基の開基する所で、大同二年田村廣堂宇を再建し、元中九年中南部守行修理し、明暦三年南部重直更に修造し、萬治元年十二月竣工、本尊聖觀世音の立像は行基の作として國寶に列せられた。

山岳と温泉

姫

神山

岩手郡澁民村・玉山村、巻堀村・好摩驛より約二里

標高四千九百尺、花崗岩から成つて他の諸山と特異の形相を具へ、遠望すれば略々三角形で、岩手三名山の一として山姿頗る優秀、鈴蘭が密生してゐるので世に聞えてゐる。

岩

手山

岩手郡瀧澤村・瀧澤驛より三里

南部富士又は奥の片富士とも云ふ、海拔六千八百三十一尺、貞享三年三月(二百數十年前)噴火して其の被害甚しく、翌年三月又鳴動し、其後享保年間及文政中にも噴烟鳴動があつた。噴火口の周圍二十六町餘、山頂の高山植物は種類や發生の狀態を異にしてゐる特徴がある。

早

池峰山

稗貫郡、上閉伊郡、下閉伊郡・石鳥谷驛より約六里

海拔六千五百八十七尺、高山植物帯の鶏頭山には北海道其の他北地の分子を含み、且當山

山岳と温泉

固有の種類を産するので著名である。

蓬

葉山

江刺郡田原村、東磐井郡猿澤村・水澤驛より六里北上山脈に屬し海拔七百八十七尺、山中立岩には蓬萊神社を祀り、大岩には旭岩神社を祀る、全山峻巖聳立して躑躅及紅葉の候が最も美觀である。

須

川岳

西磐井郡鼓美村・一關驛より約八里標高凡そ五千三百尺、中腹には須川温泉及び眞湯温泉等あり、四時の眺望絶佳にして高山植物豊富、全国各地から登山者が蟻集する。

東

稻山

東磐井郡長島村・平泉驛より約一里(自動車)駒形峰とも謂ひ、平泉と相對し、往時安倍頼時櫻樹一萬株を吉野山から移植して滿山花で埋つたと傳へられてゐる。

花卷温泉スロープ

稗貫郡湯本村・花卷温泉より五町

面積約三萬六千坪、五度乃至三十度の緩急斜面に恵まれ、殊に夜間の練習も出來得る様照明装置を施し、休憩所及シャンプエの設けがある、平均積雪量三尺五寸位で十二月末から三月初旬迄滑れる。

高倉山スロープ

稗貫郡湯口村・鉛温泉より一町

登山向のスキー場で三萬坪の廣さで六十度の傾斜を爲し、雪は硬く平均積雪五尺位、十二

月下旬より三月末迄滑れる。

奥中山スロープ

二戸郡小島谷村・奥中山驛より三町

約四萬五千坪で上半部は二十五度、下半部は二十度の傾斜で競技場にも適して居る、粉雪に近い軟雪で平均三尺位の積雪、十二月中旬から三月中旬迄滑れる。

區界スロープ

下閉伊郡門馬村・區界驛より五町

登山向で約四十萬坪、二十度から三十度位の傾斜で技倆を練るに適して居る、硬い粉雪で平均四尺位、滑れる期間は十二月上旬から三月下旬迄。

田山スロープ

二戸郡田山村、田山驛より約十町

第一スキー場は海拔四百四十二米餘の高所から、二十五度乃至四十五度の傾斜緩急斜面に恵まれ、一望の下にハキロユースの競技に適す、第二スキー場は海拔五百五十五米の高所から二十五度乃至五十度の傾斜をして、一周十八キロコースの競技に好適で、第一、二共最も雄大なスキー場である、粉雪で平均五尺以上、十二月下旬より四月中旬迄滑れる。

山口スロープ

和賀郡岩崎村・横川目驛より二十町

大小の丘陵緩急長短のスロープが幾つもある、練習に競技に恰好な場所である、總面積三萬坪、斜面は二十五度乃至四十度位、變化の多いのは此のスキー場の特長で、休憩所の設備あり、臨時に女子青年團經營の賣店も出來る、粉雪で平均五尺位、十二月下旬より三

山岳と温泉

山岳と温泉

月中旬迄滑れる。

花 卷 温 泉

稗貫郡湯本村・花巻驛より(電車)

温泉電車は省線の發着毎に連絡してゐる、泉量豊富、無色透明な塩類泉で慢性癩麻質私、婦人病、神経諸病、胃腸病、皮膚病等に特効があると云はれてゐる、旅館、自炊寮、貸別荘、講演場、運動場、遊戯場、スキー場、ゴルフ場等の設備完全で、優に一千人を收容するに足る。

臺 温 泉

稗貫郡湯本村・花巻温泉驛より約西十町(自動車)

花巻温泉遊園地に接近して自然の景勝に富んで居る、嘉慶元年の發見で源泉十數箇所、鹽類泉で脚氣、中風、痔疾、疝氣等に効驗がある。

志 戸 平 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

發見の年代が詳でないが、一説には延暦年間坂上田村麿蝦夷征討の際流矢に中りて惱み、此の温泉に浴して創傷が癒つてから、里人が其奇効を稱して温泉場としたと云はれてゐる創痕、皮膚病に卓効がある。

大 澤 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寛永三年の改築で、豊澤川溪谷に介在して青山白水幽邃閑雅の仙境である、六百の浴客を容るゝに充分である。

鉛 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

寶曆年間の發見で天明八年に浴場を設け、現今一年間の浴客は數萬と稱せられて居る、質及醫治効能略々志戸平、大澤と同じである。

西 鉛 温 泉

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)

明治二十二年の發見で同二十四年浴室を建築した、溪間廣く空氣の爽かさと水の清らかさとは他の浴場に勝つて好避暑地である。

繫 温 泉

岩手郡御所村・小岩井驛より約一里(自動車)

承平三年の發見と傳へられ、曾て源義家が安倍貞任を追撃して此處に至り、乗馬を繫留して沐浴してから此の名がある、泉質硫黄であつて、溫度七十七度、疥癬諸瘡に効がある。

鶯 宿 温 泉

岩手郡御所村・雫石驛より二里

幽僻の山間に在つて、點々する旅舎の前は清流溪々として晝夜の別なく河鹿の聲を聞くことが出来、眞に世塵を脱した仙境である、打撲、切傷及中風症に効があると云はれてゐる。

國 見 温 泉

岩手郡御明神村・橋場驛より約三里

駒ヶ嶽山麓風光絶佳の地にあつて、特に痔疾、花柳病、諸病に効顯がある。

網 張 温 泉

岩手郡西山村・雫石驛より二里十八町

網張より湧出する鐵泉を引下げ浴場を建設してある、泉源は和銅年間の發見で帝釋温泉と

山岳と温泉

山岳と温泉

も稱してゐる、風景絶佳織塵動かず仙境の概がある。

瀧の上温泉

岩手郡西山村・雫石驛より約二里半

葛根田川の上流にあつて、旅舎が未だ完全ではないけれ共春夏秋冬の候に入浴するものが多く、疝氣、皮膚病に特效があると云ふ。

湯本温泉

和賀郡湯田村・川尻驛より一里(自動車)

萬治二年の發見にして鹽類泉である、胃腸病、神経病に効があると謂はれてゐる、和賀川の清流に臨み紅葉の風光は特に絶佳である。

湯川温泉

和賀郡湯田村・川尻驛より一里(自動車)

四圍峰巒を繞らした仙境で夏季の浴客が多い、胃腸、神経病、婦人病、疝氣、病後の保養等に特效がある。

須川温泉

西磐井郡殿美村・一關驛より八里

標高凡そ五千三百尺、有名な二重式層狀火山の須川嶽中腹にある、神経病、僕麻質斯、胃腸病、呼吸器病、黄疽等に特效がある、一關驛より途中瑞山迄自動車の便がある。

眞湯温泉

西磐井郡殿美村・一關驛より約六里

西嶽山中にありて佳景に富み、神経痛、胃腸病に効があると謂はれて居る。

嶽温泉

和賀郡岩崎村・藤根驛又は横川目驛より

湯田ラヂウム温泉

二戸郡金田一村・金田一驛より十五町(自動車)

夏油川水源地にあつて、夏油温泉とも云ひ温度攝氏五十九度乃至四十五度、單純温泉で寄生蟲に依る貧血症、白血病及關節痠痛私斯等に効あり大湯等五ツに分れてゐる。

安比温泉

二戸郡荒澤村・赤坂田驛より三里十町

海拔九百米の高地、安比川の水源地で山嶽四周を繞り、夏知らぬ避暑地である、秋は紅葉によく、冬は雄大なスロープに恵まれ、胃腸病、リウマチス、神経痛、婦人病等に効くと云はれて居る。

白水鑛泉

上閉伊郡甲子村・釜石鑛山鐵道小佐野停留場より約一里卅町

通常小川温泉と稱し單純泉で、皮膚病に最も効驗があると云はれて居る、鬱蒼たる山間部に在つて風光絶佳、釜石町より自動車の定期運輸に依り逐年浴客増加の傾向である。

海濱と河川

殿美溪

西磐井郡殿美村・一關驛より約二里(自動車)

海濱と河川

海濱と河川

須川岳を源とする磐井川は諸溪流を聚め東に走つて巖美に至り、山峽忽ち甃つて巖美の瀧となり、下流數町の間奇岩怪石磊々として奔流白雪を散らし、碧潭飛沫を呑み、實に本邦屈指の奇勝である。

鼻 溪

東磐井郡長坂村・陸中松川驛より三十町(自動車)

砂鐵川兩岸の絶壁で、高さ數十丈、長さ十餘町に亘り其の斷岩は皆石灰岩より成る奇勝である。

久 慈 川 溪 流

九戸郡大川目村・久慈驛より約一里

久慈、葛巻間約五里、其の間奇勝も多く、青山碧水の塵外境である。

高 田 松 原

氣仙郡高田町・高田驛より約五町(自動車)

高田町南方海岸東西數十町、寛文年間に植栽された老松鬱蒼として、前は白砂波に洗はれ後は沼湖影を映じ、四時の景勝地で殊に海水浴場として名高い。

椿 島

氣仙郡廣田村・小友驛より約一里(自動車)

全島花崗岩から成つて長徑九十間、短徑三十間、高さ五丈餘、椿樹最も多く玉梢、接骨木虎杖、羊蹄、蓬等之に亞ぎ、春夏の候は海鷗が産卵の爲に群集する、島上辨財天の小祠がある。

碁 石 濱

氣仙郡末崎村・小友驛より約一里二十町(自動車)

太平洋に突出して奇岩怪石千態萬狀、黒杉で蔽ひ白濤が絶えず打寄せるので、往時天然の碁石を産して、仙臺藩主に献じたと云ふ景勝の地である。

蛇 崎

氣仙郡小友村・小友驛より約二十町

東端の太平洋岸の岬で附近に古城址確社等の名稱が多い、四邊眺望絶佳只出濱は海水浴場として好適である。

小 白 濱

氣仙郡唐丹村

青松白砂風光絶佳で、氣候温暖なれば避暑地に適し、殊に遠淺で海水浴場として遠近より蟻集する。

淨 土 濱

下閉伊郡宮古町

嶽ヶ崎灣内崔嵬たる岩石前後に突出し風光明媚の地で、しかも海面平靜なる海水浴場である、之に接した海岸に日出鳥嶋の濱あり、春夏の候遊杖するものが頗る多い。

江 戸 濱

九戸郡種市村・種市驛より五町

遠淺で海水浴に適し、久慈線の全通によつて世に知られ、逐年浴客の増加を見てゐる。

野 田 玉 川

九戸郡野田村・久慈驛より約四里(自動車)

日本六玉川の一として、古來有名な歌枕で河底往々恰も璧の様な圓石を出す、河口北丘陵の西行屋敷は西行の杖を駐めて近傍の風光を賞した地であると傳へられ其の附近は波靜に

海濱と河川

官公衙と學校

遠淺であつて海水浴場に適してゐる。

十 府の浦

九戸郡久慈驛より約三里(自動車)

中沼の海濱一帯を云ふので、其の中に一の古沼がある、多く菅を生じてゐる、古來菅藪を産するを以て著名である。

官公衙と學校

岩手縣廳

盛岡市内丸

下閉伊支廳

下閉伊郡宮古町

縣財務出張所

盛岡市内丸・稗貫郡花巻町・膽澤郡水澤町・西磐井町一關町・上閉伊郡遠野町・二戸郡福岡町

縣土木管區

盛岡市内丸・稗貫郡花巻町・西磐井郡一關町・上閉伊郡遠野町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・二戸郡福岡町
(以下臨時)膽澤郡水澤町・和賀郡黒澤尻町・下閉伊郡岩泉町・氣仙郡盛岡町・上閉伊郡釜石町

縣工營所

岩手郡厨川村・和賀郡黒澤尻町・氣仙郡氣仙町・大船渡町・上閉伊郡釜石町・九戸郡久慈町・種市村・久慈港・久慈川・下閉伊郡小本村

縣繭業取締所

岩手郡本宮村

縣蠶業取締所

盛岡市内丸

縣蠶業取締所支所

盛岡市・稗貫郡花巻町・西磐井郡一關町・氣仙郡盛岡町・上閉伊郡遠野町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・二戸郡福岡町

縣穀物検査所

盛岡市内丸

縣穀物検査所出張所

盛岡市大澤川原・(九戸郡)輕米町・(二戸郡)福岡町・一戸町・(岩手郡)沼宮内町・卷堀村・(紫波郡)煙山村・赤石村・(稗貫郡)石鳥谷町・花巻町・(和賀郡)十二箇村・(上閉伊郡)遠野町・(和賀郡)黒澤尻町・(膽澤郡)前澤町・金ヶ崎町・水澤町・(江刺郡)岩谷堂町・(西磐井郡)一關町・花泉村

縣木炭検査所

盛岡市内丸

縣木炭検査所出張所

盛岡市仁王新築地・(稗貫郡)石鳥谷町・花巻町・(和賀郡)横川目村・(膽澤郡)水澤町・(西磐井郡)一關町・(岩手郡)沼宮内町・雫石村・(二戸郡)荒澤村・小鳥谷村・福岡町・金田一村・田山村・(九戸郡)種市村・輕米町・久慈町・野田村・葛巻村・山根村・(下閉伊郡)普代村・田野畑村・小本村・岩泉町・田老村・茂市村・宮古町・山田町・門馬村・(上閉伊郡)大槌町・遠野町・上郷村・(氣仙郡)吉濱村・大船渡町・氣仙町・世田米村・(東磐井郡)摺澤村・黄海村・大津保村・(和賀郡)湯田村

官公衙と學校

官公衙と學校

水澤緯度觀測所
 縣測候所
 縣農事試驗場
 縣蠶業試驗場
 縣水産試驗場
 縣物産販賣斡旋所
 縣工業試驗場
 岩手種馬所
 種馬育成所
 縣種畜場
 縣種鶏場
 縣商品陳列所
 縣立圖書館
 縣立杜陵學園
 縣公會堂
 縣警察教習所

膽澤郡水澤町

岩手郡淺岸村・下閉伊郡宮古町

(本場)岩手郡本宮村(分場)江刺郡愛宕村・九戸郡輕米町

膽澤郡水澤町

上閉伊郡釜石町

東京市神田區橋本町

盛岡市内丸

岩手郡厨川村

岩手郡瀧澤村

岩手郡藪川村

岩手郡卷堀村

盛岡市内丸

同

盛岡市三ツ割

盛岡市内丸

同

警察署

縣立八幡病院
 縣診療所
 盛岡聯隊區司令部
 盛岡憲兵分隊
 騎兵第三旅團司令部
 騎兵第二十三聯隊
 騎兵第二十四聯隊
 工兵第八大隊
 衛戍病院
 帝室林野局盛岡出張所
 仙臺地方專賣局出張所
 盛岡地方裁判所及檢事局

盛岡市(岩手郡)沼宮内町(紫波郡)日詰町(裨貫郡)花卷町(和賀郡)黒澤尻町(膽澤郡)水澤町(江刺郡)岩谷堂町(西磐井郡)一關町(東磐井郡)千厩町(氣仙郡)盛岡(上閉伊郡)遠野町(釜石町)下閉伊郡(宮古町)岩泉町(九戸郡)久慈町(輕米町)(二戸郡)福岡町

盛岡市八幡町

氣仙郡世田米村・二戸郡一戸町・九戸郡種市村

盛岡市内丸

同 仁王

岩手郡厨川村

同

同

同

同

盛岡市日影門外小路

盛岡市上田・裨貫郡大迫町・東磐井郡千厩町

盛岡市内丸

官公衙と學校

官公衙と學校

區裁判所及檢事局
盛岡供託局

供託局支所

宮城刑務所一關支所

盛岡少年刑務所

農林省農事試驗場
東北小麥試驗地

管林署

稅務署

郵便局

盛岡市内丸・稗貫郡花卷町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町・
下閉伊郡宮古町・西磐井郡一關町・膽澤郡水澤町

盛岡市内丸
盛岡市內丸・稗貫郡花卷町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町・
下閉伊郡宮古町・西磐井郡一關町・膽澤郡水澤町

西磐井郡一關町

岩手郡厨川村

岩手郡中野村

盛岡市大澤川原・(九戸郡)久慈町・(下閉伊郡)宮古町・岩泉町
(岩手郡)沼宮内町・雫石村・(上閉伊郡)遠野町・(稗貫郡)花
卷町・(和賀郡)湯田村・(膽澤郡)水澤町・(西磐井郡)一關町・
(氣仙郡)盛岡町・高田町

盛岡市上田・稗貫郡花卷町・膽澤郡水澤町・西磐井郡一關町・
氣仙郡盛岡町・上閉伊郡遠野町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町・
二戸郡福岡町

(盛岡市)盛岡・盛岡本町・盛岡上田・盛岡驛前・盛岡材木町・
盛岡仙北町・盛岡新穀町・盛岡外加賀野・盛岡大通・(岩手郡)
松尾・藪川・好摩・平館・雫石・松尾・鑛山・厨川・葦民・外山・
小岩井・築川・沼宮内・玉山・大更・川口・(釜波郡)乙部・志

盛岡建設事務所
盛岡運輸事務所
盛岡保線事務所
官公衙と學校

和・岩手飯岡・日詰・矢幅・(稗貫郡)花卷・臺・花卷四日町・
石鳥谷・鉛・大澤温泉・花卷温泉・大迫・八幡・(和賀郡)土澤・
黒澤尻・二子・川尻・藤根・横川目・湯本・川舟・笹間・川内・
新町・杉名・畑・土畑・仙人山・(膽澤郡)羽田・岩谷堂・野崎・若
柳・金ヶ崎・姉・小畑・山・(江刺郡)一關・花泉・平泉・涌津・伊
手・黒石・米里・口・(西磐井郡)一關・花泉・平泉・涌津・伊
山目・藤澤・(一關)鍛冶・日形・藤美・(東磐井郡)大原・涌津・伊
千既・藤澤・興田・大原・薄衣・折壁・猿澤・長坂・薄衣・矢作
舞川・喜來・海松・細浦・今泉・大船渡・上有住・盛・高田・
綾里・赤崎・泊濱・只出・大槌・達會部・釜石鑛山・釜石・釜
世田・越喜來・矢作・細浦・今泉・大船渡・上有住・盛・高田・
岩手・赤崎・泊濱・只出・大槌・達會部・釜石鑛山・釜石・釜
石大渡・附馬守・小友・居・大槌・達會部・釜石鑛山・釜石・釜
宮古・津・輕石・船越・宮古・小國・大川・川井・田・老村・釜
上川・沼袋・安・泉・茂市・平井・賀・小本・門馬・重村・老村・釜
代・銚ヶ崎・安・泉・茂市・平井・賀・小本・門馬・重村・老村・釜
久慈・葛卷・江刈・侍濱・宇部・伊保内・輕米・晴山・重村・老村・釜
三日町・(二戸郡)浄法寺・荒屋・金田・一・奥中山・小鳥谷村・一
戸町・御返地・浄法寺・荒屋・金田・一・奥中山・小鳥谷村・一
盛岡市下厨川

官公衙と學校

鐵道局盛岡工場

盛岡高等農林學校

岩手醫學專門學校

縣立六原青年道場

縣立師範學校

縣立女子師範學校

縣立中學校

組合立花卷中學校

私立岩手中學校

縣立高等女學校

私立高等女學校

町立實科高等女學校

同

盛岡市上田

盛岡市内丸

膽澤郡相去村

盛岡市上田

盛岡市内丸

盛岡市上田・西磐井郡一關町・二戸郡福岡町・上閉伊郡遠野町

和賀郡黒澤尻町

稗貫郡花卷町

盛岡市大澤川原

盛岡市新庄・稗貫郡花卷町・西磐井郡一關町・上閉伊郡遠野町

二戸郡一戸町・膽澤郡水澤町・江刺郡岩谷堂町・和賀郡黒澤尻町

下閉伊郡宮古町・氣仙郡高田町

盛岡市仁王・公園下

上閉伊郡釜石町・大槌町・二戸郡福岡町・下閉伊郡山田町・膽澤郡前澤町

縣立農學校

縣立蠶業學校

縣立工業學校

縣立商業學校

町立商業學校

私立女子商業學校

縣立水産學校

縣立盲啞學校

岩手郡本宮村・稗貫郡花卷町・膽澤郡水澤町・氣仙郡盛町・九戸郡久慈町

東磐井郡千厩町

盛岡市内丸

盛岡市新庄・膽澤郡水澤町

上閉伊郡釜石町

盛岡市紙町

下閉伊郡宮古町

盛岡市平山小路

市町

村

盛岡市

岩手郡太田村

九戸郡種市村

同 小輕米村

市町村

盛岡驛より約十六町(自動車)

盛岡驛より一里二十九町(自動車)

種市驛より約五町

金田一驛より七里(自動車)

市町村

同 葛 卷 村

電氣及水道事業經營

沼宮内驛より八里十八町(自動車)

西 磐 井 郡 一 關 町

電氣及小額營業資金貸付

一關驛より約十町(自動車)

江 刺 郡 岩 谷 堂 町

水道事業經營

水澤驛より約二里(自動車)

膽 澤 郡 前 澤 町

水道事業經營

前澤驛より約五町

四〇

産業組合

(農は農業倉庫經營・保は保證責任
有は有限責任・無は無限責任)

産業組合中央會岩手支會

岩手縣廳内盛岡驛より
約十五町(自動車)

岩手縣信用組合聯合會

信用事業
購買販賣事業

盛岡市・盛岡驛より約五町(自動車)

岩手縣藥草販利
組合聯合會

藥草販賣
家庭賣藥

盛岡市・盛岡驛より約十町(自動車)

岩手縣繭絲販賣
組合聯合會

製 絲

岩手郡本宮村・仙北町驛前

盛岡信用組合

有・市街小額貸付

盛岡市・盛岡驛より約十五町(自動車)

宰 鄉 信 購 販 組 合

農・保・米販賣、信用事業

岩手郡太田村
盛岡驛より一里二十九町(自動車)

德 田 信 購 販 利 組 合

農・保・米販賣、肥料購買

紫波郡徳田村
矢幅驛より十八町(自動車)

大 迫 信 購 利 販 組 合

農・有・信用事業、購買事業
製絲事業

稗貫郡大迫町
石鳥谷驛より三里十六町(自動車)

湯 本 信 購 販 利 組 合

農・無・米販賣

稗貫郡湯本村
花卷驛より花卷温泉電車瀬川驛前

中 内 村 信 購 販 利 組 合

保・信用事業、購買事業

和賀郡中内村
土澤驛より約一里十八町

小 山 田 信 購 販 組 合

農・保・米販賣・日用品購買

和賀郡小山田村・土澤驛より約一里
膽澤郡小山田村・水澤驛より二里十町

小 山 信 購 組 合

有・信用事業

膽澤郡小山田村・水澤驛より二里十町

愛 宕 信 購 販 利 組 合

農・保・信用事業

江刺郡愛宕村
水澤驛より一里十四町(自動車)

小 島 信 購 組 合

農・有・信用事業

東磐井郡長嶋村
平泉驛より一里十町

奥 玉 信 購 販 組 合

農・保・信用事業

東磐井郡奥玉村
千厩驛より一里二十二町

産業組合

四一

産業組合

世田米信購利販組合	農・有・	信用事業	購買事業製絲
岩泉生糸信購利販組合	農・有・	製絲	
岩手縣蠶糸販利組合	同	製絲	
岩手縣蠶糸販利組合	同	製絲	
岩手縣蠶工品販賣組合	同	蠶工品	
一戸養豚信販購利組合	同	養豚	
併間新興信販利組合	同	養鶏	
購買利用組合盛岡病院	同	病院	
花巻水道利用組合	同	水道	
盛岡洋服業購買組合	同	洋服	
盛岡園藝販購利組合	同	蔬菜販賣	
盛岡消費購買組合	同	購買事業	
盛岡藥種購買組合	有	藥種購買	

四二

氣仙郡世田米村
 遠野驛より七里三十町(自動車)
 下閉伊郡岩泉町
 沼宮内驛より約二十二里(自動車)
 稗貫郡矢澤村
 花巻驛より約十八町(自動車)
 紫波郡煙山村・矢幅驛前
 二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)
 和賀郡笹間村
 花巻驛より二里(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約五町(自動車)
 稗貫郡花巻町・花巻驛より(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約七町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より五町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約七町(自動車)
 盛岡市・盛岡驛より約七町(自動車)

教育

岩手縣水産販利組合	保漁業	
釜石遠洋漁船利用組合	同漁船	
膽澤製網販購利組合	保製網	
吉里々々住宅	同住宅	
岩手縣女子師範學校附屬小學校	師範學校	
盛岡市仁王尋常高等小學校	代用附屬	
江刺郡玉里尋常高等小學校	郷土教育の實際的研究	
下閉伊郡宮古尋常高等小學校	同	
紫波郡片寄尋常高等小學校	同	

上閉伊郡釜石町
 遠野驛より約十二里(自動車)
 同
 膽澤郡水澤町・水澤驛より五町
 上閉伊郡大槌町
 遠野驛より約十一里(自動車)

四三

盛岡市内丸
 盛岡驛より十五町(自動車)
 盛岡市仁王
 盛岡驛より約十五町(自動車)
 江刺郡玉里村・水澤驛より(自動車)
 下閉伊郡宮古町
 川井驛より(自動車)
 紫波郡志和村日詰驛より(自動車)

教 育

和賀郡二子尋常高等小學校
 上閉伊郡達曾部尋常高等小學校
 氣仙郡廣田尋常高等小學校
 下閉伊郡船越尋常高等小學校
 上閉伊郡塚澤尋常高等小學校
 西磐井郡一關尋常高等小學校
 二戸郡岩館尋常小學校
 盛岡市盛岡高等小學校
 江刺郡玉里農業補習學校
 紫波郡德田農業補習學校
 和賀郡二子農業補習學校

郷土に立脚せる農村教育の研究
 同
 郷土に立脚せる農村教育の研究
 同
 託兒教育の研究
 學校衛生体育施設の研究
 複式教授の研究
 職業指導の研究
 採種圃設置、優良種苗の配付等系統的施設
 主要作物原種栽培養兔、養豚等蔬菜栽培・小家畜飼育の研究

和賀郡二子村黒澤尻驛より(自動車)
 上閉伊郡達曾部村・岩根橋驛より
 氣仙郡廣田村・小友驛より(自動車)
 下閉伊郡船越村・川井驛より(自動車)
 上閉伊郡宮守村・宮守驛より
 西磐井郡一關町(自動車)
 一關驛より約五町(自動車)
 二戸郡浪打村・一戸驛より
 盛岡市下ノ橋
 盛岡驛より約十五町(自動車)
 江刺郡玉里村
 水澤驛より約三里十八町(自動車)
 紫波郡德田村
 矢幅驛より約二十町(自動車)
 和賀郡二子村・黒澤尻驛下車(自動車)

教 育

江刺郡愛宕公民學校
 江刺郡藤里農業補習學校
 下閉伊郡岩泉公民學校
 膽澤郡古城農業補習學校
 氣仙郡廣田實業補習學校
 和賀郡笹間青年學校
 上閉伊郡上郷農業補習學校
 紫波郡日詰實業專修學校
 下閉伊郡宮古商業專修學校
 西磐井郡萩莊農業補習學校
 二戸郡淨法寺農林補習學校
 稗貫郡大迫農業補習學校

蔬菜栽培の研究
 肥料試験の研究
 陸稻栽培の研究
 米作増收の研究
 水産加工品の研究
 農家經濟の研究
 稲作の研究
 小麦栽培の研究
 水産物商取引の研究
 蔬菜栽培の研究
 果樹特に苹果栽培の研究
 其町消費蔬菜果實類の自給自足に關する研究

江刺郡愛宕村・水澤驛より(自動車)
 江刺郡藤里村・水澤驛より(自動車)
 下閉伊郡岩泉町・沼宮内驛より(自動車)
 膽澤郡古城村・陸中折居より
 氣仙郡廣田村・小友驛より(自動車)
 和賀郡笹間村・花巻驛より(自動車)
 上閉伊郡上郷村・上郷驛より(自動車)
 紫波郡日詰町・日詰驛より(自動車)
 下閉伊郡宮古町・川井驛より(自動車)
 西磐井郡萩莊村・一關驛より(自動車)
 二戸郡淨法寺村・田山驛より(自動車)
 稗貫郡大迫町・石鳥谷驛より(自動車)

社會教育

岩手郡篠木農業補習學校

馬鈴薯採種の研究

岩手郡瀧澤村・大釜驛より

四六

氣仙郡盛女子職業補習學校

農家衣服並に栄養調理に關する研究

氣仙郡盛町・細浦驛より(自動車)

社會教育

縣立六原青年道場

地方中堅人物の養成

膽澤郡相去村金ヶ崎驛より約二里(自動車)

盛岡市櫻城青年訓練所

訓練施設良好

盛岡市仁王・盛岡驛より約五町(自動車)

和賀郡谷内青年訓練所

同

和賀郡谷内村・晴山驛より約一里

東磐井郡奥玉青年訓練所

同

東磐井郡奥玉村千厩驛より約一里十八町(自動車)

膽澤郡衣川村衣川青年訓練所

訓練施設良好

膽澤郡衣川村・前澤驛より約一里二十九町

江刺郡廣瀬村廣瀬青年訓練所

同

江刺郡廣瀬村・黒澤尻驛より三里十八町

上閉伊郡私立釜石鑛業所

同

上閉伊郡釜石町・釜石驛より(自動車)

青年訓練所

和賀郡藤根村青年訓練所

同

和賀郡藤根村・藤根驛より五町

膽澤郡南都田村青年訓練所

同

膽澤郡南都田村水澤驛より一里十七町(自動車)

盛岡市厨川青年訓練所

同

盛岡市厨川・盛岡驛より五町

江刺郡梁川村青年團

自治的、共同的精神の作興、公共事業の補助、体力の向上

江刺郡梁川村水澤驛より約六里(自動車)

西磐井郡萩莊村青年團

風紀の改善、公共事業の補助、体力の向上

西磐井郡萩莊村一關驛より一里十五町(自動車)

東磐井郡奥玉村青年團

補習教育の振興、体力の向上、公共事業の補助

東磐井郡奥玉村千厩驛より約一里十八町(自動車)

岩手郡太田村青年團

智徳の修養、産業の改善、体力の向上

岩手郡太田村盛岡驛より一里二十九町(自動車)

和賀郡笹間村青年團

産業の改善、公共事業の補助、体力の向上、風紀の修養

和賀郡笹間村花卷驛より約三里(自動車)

社會事業

四七

社會事業

東磐井郡猿澤村青年團

産業の改善、公共事業補助、智徳の修養、体力の向上

東磐井郡猿澤村
猿澤驛より約二里(自動車)

岩手郡太田村女子青年團

智徳の修養、産業の改善、体力の向上、公共事業補助

岩手郡太田村
盛岡驛より一里二十九町(自動車)

盛岡市厨川女子青年團

神饌田並學校田の實習、智徳の向上、編物講習

盛岡市厨川
盛岡驛より約七町(自動車)

二戸郡荒澤村女子青年團

智徳の修養、公共事業補助

二戸郡荒澤村
荒屋新町驛より約三町(自動車)

岩手養育院

孤兒貧兒を收容養育する育兒事業

盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)

岩手養老院

扶養者なき老衰者を收容する養老事業

盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)

縣立杜陵學園

不良兒童の感化事業

盛岡市三ツ割・盛岡驛より(自動車)

岩手保護院

釋放者保護事業

盛岡市鷹匠小路・盛岡驛より(自動車)

農蠶業

縣診療所

醫療普及と貧困者の施設

氣仙郡世田米村・高田驛より(自動車)
二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)
九戸郡種市村・種市驛より(自動車)

盛岡無料宿泊所

窮迫行旅者無宿者の宿泊保護

盛岡市加賀野・盛岡驛より(自動車)

縣農會

盛岡市内丸
盛岡驛より約十六町(自動車)

小岩井農場

育馬、育牛、耕耘、樹林の四部を置く、附屬設備として郵便局、小學校、託兒舍、醫局、共濟會、俱樂部等の設備

岩手郡磐石村
小岩井驛より十八町

國分農場

岩手郡瀧澤村
厨川驛より約十五町

小通共同作業組合

稻作全部の共同作業、雜糧共同飼育、生産物の共同販賣、必需品の共同購入、採種及苗代の共同經營、共同作業場の設置

和賀郡中内村
土澤驛より一里(自動車)

農蠶業

農 蠶 業

増 澤 自 彙 會

稻作全般の共同作業、共同作業場の設置、農具の共同利用

江刺郡岩谷堂町
水澤驛より二里(自動車)

常盤農業経営改善組合

共同購入、稲作等の共同作業、蠶共同飼育、共同採種動力、農具の共同利用等

膽澤郡佐倉河村
水澤驛より約一里(自動車)

萩莊村第八區共同作業組合

稻作全般の共同作業及農産物の共同販賣、動力農具の共同利用

西磐井郡萩莊村
一關驛より約二里(自動車)

岩手縣蠶種業組合

蠶 種

盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)

岩手縣製絲業組合

製 絲

同

猿澤村中部養蠶實行組合

稚蠶共同飼育所

東磐井郡猿澤村
摺澤驛より二里(自動車)

興田村興田養蠶實行組合

桑園改良

東磐井郡興田村
摺澤驛より約三里(自動車)

湯口村養蠶實行組合

組合經營

稗貫郡湯口村・花巻驛より(電車)
紫波郡志和村
日詰驛より二里(自動車)

志和村養蠶實行組合

稚蠶共同飼育所

甲子村甲子養蠶實行組合

組合經營

上閉伊郡甲子村・大畑驛より

眞城養蠶實行組合

組合經營

膽澤郡眞城村
水澤驛より三十町(自動車)

岩手縣養蠶業組合聯合會

共同事業獎勵

盛岡市内丸
盛岡驛より十五町(自動車)

岩手縣桑苗組合聯合會

同

同 四町(自動車)

岩手桑苗生産組合

桑苗生産販賣

同 四町(自動車)

稗和桑苗生産組合

同

稗貫郡花巻町
花巻驛より約十町(自動車)

磐井桑苗組合

同

東磐井郡門崎村・陸中門崎驛より

國 分 謙 吉

農事試験場經營

岩手郡瀧澤村・厨川驛より約十五町

山 田 清 之 助

採 種

盛岡市仙北町・仙北町驛より三町(自動車)

菅 原 量 之 助

農事団体組織、農事經營改善指導

江刺郡岩谷堂町
水澤驛より二里十八町(自動車)

千 葉 林 正

水稻改良

西磐井郡金澤村・花泉驛より一里(自動車)

岩手農蠶株式會社

蠶種製造

盛岡市大澤川原小路
盛岡驛より十町(自動車)

農 蠶 業

農 蠶 業

橋本善太	同	製絲業
村山百治	同	
千田平次郎	同	
佐藤信一	同	
南洞頼薫	同	
加藤友治	同	
加藤伊與治	同	
昭榮製絲株式會社一關・山目製絲場	同	
岩手蠶絲販賣利用組合三益社	同	
岩手繭絲販賣組合聯合會	同	
縣是製絲株式會社盛岡工場	同	
縣是製絲株式會社高田工場	同	
縣是製絲株式會社千厩工場	同	

紫波郡日詰町・日詰驛より二十三町(自動車)
 岩手郡卷堀村・川口驛より十五町
 和賀郡二子村・黒澤尻驛より一里十九町(自動車)
 江刺郡羽田村・水澤驛より一里(自動車)
 西磐井郡平泉村・平泉驛より十町(自動車)
 東磐井郡摺澤村・摺澤驛より五町(自動車)
 東磐井郡大原町・摺澤驛より二里(自動車)
 西磐井郡山目村
 一關驛より九町(自動車)
 稗貫郡矢澤村
 花巻驛より三十一町(自動車)
 仙北町驛前
 盛岡市下厨川・盛岡驛より約五町(自動車)
 氣仙郡高田町・矢作驛より約二里(自動車)
 東磐井郡千厩町
 千厩驛より約十町(自動車)

縣是製絲株式會社福岡工場	同	
岩泉製絲信用利用購買販賣組合	同	
黃金社製絲場	同	
米	生産	
同	同	
同	同	
同	同	
同	同	
同	同	
大	麥	同
小	麥	同

二戸郡福岡町
 北福岡驛より約五町(自動車)
 下閉伊郡岩泉町
 沼宮内驛より二十二里(自動車)
 東磐井郡小梨村・小梨驛より十二町
 紫波郡徳田村
 矢幅驛より約十五町(自動車)
 岩手郡太田村
 盛岡市より一里二十九町(自動車)
 江刺郡岩谷堂町・稻瀬村・愛宕村
 水澤驛より二里未滿(自動車)
 膽澤郡南都田村・佐倉河村
 水澤驛より一里未滿(自動車)
 西磐井郡金澤村
 花泉驛より十九町(自動車)
 東磐井郡各町村
 西磐井郡中里村・一關驛又は
 山目驛より約十町(自動車)

林業

五六

五十町の用水貯溜の目的で大溜池設置計画中である。
千貫石縣管排水改良事業 膽澤郡金ヶ崎町・相去村・金ヶ崎驛より三里
金ヶ崎町及相去村に跨る約八百五十町の開墾豫定地の水源工事は、農林省に於て調査済に
して、昭和五年度より七年度迄の繼續事業として目下溜池築造工事中である。

林業

縣有模範林

明治四十一年九月 大正天皇、皇太子殿下に御在し本縣に行啓あらせられし記念事業で、
總面積五千百三十町餘、明治四十三年より昭和七年迄に左の事業區に三千九百九町を植栽
其の成績極めて良好である。

事業區

澤 二戸郡金田一村・金田一驛より約二里

總面積七百七十四町歩中昭和七年度迄に七百二十四町歩、主として杉、赤松、栗、樺、漆
等を植栽す。

織

詰 同爾薩体村・北福岡驛より約二里

總面積五百五十六町、昭和五年度を以て植栽を完了し、其の面積五百六町歩、主とし
て杉、赤松、落葉松、樺等を植栽す。

大

志田 岩手郡淺岸村・大志田驛より一町

總面積一千九百三十九町、明治四十四年度より昭和七年度迄に一千二百二十一町歩、
主として杉、赤松、落葉松、扁柏、花柏、栗、樺等を植栽す。

生

出 氣仙郡矢作村・摺澤驛より約九里

總面積一千五十一町、昭和七年度迄に八百十八町歩、主として杉、赤松、落葉松、扁
柏、花柏、樺等を植栽す。

大

久保 氣仙郡吉濱村・遠野驛より約十四里

總面積八百一十一町、大正四年度より昭和七年度迄に六百三十町歩、主として赤松、落
葉松、栗等を植栽す。

氣仙

町々有林 氣仙郡氣仙町・氣仙沼又は摺澤驛より(自動車)

大正元年以來造林、現在二百町歩、杉の生育良好で雜木林も三百三十町歩あり頗る美林で
ある。

黄海

村々有林 東磐井郡黄海村・花泉又は千厩驛より(自動車)

林業

五七

林業

五八

明治四十一年施業案編成、百町歩の造林を終了し、尙五百町歩の雑木林は縣下の代表的美林である。

宰郷家の造林

岩手郡太田村・盛岡驛より約一里二十町(自動車)

佐々木休次郎の經營にして其の管理、撫育等私有林經營の指針であつて、杉、赤松、扁柏等百數十町歩に達してゐる。

折壁官行造林

東磐井郡折壁村・折壁驛より約一里二十町

面積約三百二十三町、大正十一年より植栽し、昭和七年迄に約二百六十五町終了、赤松、杉の生育極めて良好である。

岩手縣木炭移出同業組合

盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)

昭和二年十二月の設立で、區域は縣下一圓にして、組合員七百五十八名、昭和八年度豫算は五萬七千九百圓である。

長興寺造林保護森林組合

九戸郡伊保内村・北福岡驛より約四里(自動車)

大正八年八月の設立で、翌年より同十三年末迄に三百六十三町歩の造林を完了し、圓滿着實に發達しつゝある。

刈屋土工森林組合

下閉伊郡刈屋村・平津戸驛より約十二里(自動車)

大正十五年十二月設立、昭和二年より同七年迄に車道一千四百十間、林道七千五百三十三

間竣功の結果、立木價値は從來の二、三倍に昇上す、將來尙延長すべく進捗中である。

淨法寺漆樹栽培組合

二戸郡淨法寺村・北福岡驛より四里(自動車)

昭和五年三月の設立で、現在二百八十四名の組合員を有し、年々一萬五千本以上の漆樹を植栽し、側ら苗圃を經營する外漆液、漆樹の賣買法の改善に努めてゐる。

荒澤漆樹栽培組合

二戸郡荒澤村・荒屋新町驛より約二町(自動車)

昭和六年五月の設立で、組合員現在四十名、年々五千本以上の漆樹を植栽し着々事業を進めてゐる。

松川山葵組合

岩手郡大更村・大更驛より約二十町

山葵の栽培及其の加工販賣等をして居る。

豊間根村山葵組合

下閉伊郡宮古町・川井驛より(自動車)

岩手縣山林會

盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)

畜産

岩手縣產馬畜産組合聯合會

盛岡市・内丸(縣廳内)盛岡驛より約十五町(自動車)

盛岡產馬畜産組合

盛岡驛より二十町(自動車)

林業、畜産

五九

畜産

- 沼宮内産馬畜産組合 沼宮内驛より十五町(自動車)
- 稗貫郡産馬畜産組合 石鳥谷驛より三三二町(自動車)
- 和賀郡産馬畜産組合 黒澤尻驛より六町(自動車)
- 膽澤郡産馬畜産組合 水澤驛より七町(自動車)
- 江刺郡産馬畜産組合 水澤驛より二里五町(自動車)
- 山ノ目産馬畜産組合 一關驛より九町(自動車)
- 東磐井郡産馬畜産組合 摺澤驛より二里九町(自動車)
- 氣仙郡産馬畜産組合 高田驛より約四里(自動車)
- 上閉伊郡産馬畜産組合 遠野驛より五町
- 下閉伊郡産馬畜産組合 川井驛より十里(自動車)
- 九戸郡産馬畜産組合 久慈驛より十五町(自動車)
- 二戸郡産馬畜産組合 福岡驛より十九町(自動車)
- 岩手縣養豚組合聯合會 盛岡市内丸(縣廳内)・盛岡驛より約十五町(自動車)
- 盛岡家畜保險組合 盛岡驛より二十町(自動車)
- 水澤養豚組合 膽澤郡水澤町・水澤驛より十三町(自動車)

- 沼宮内家畜保險組合 沼宮内驛より十五町(自動車)
- 上閉伊郡家畜保險組合 遠野驛より五町(自動車)
- 下閉伊郡家畜保險組合 沼宮内驛より二十三里(自動車)
- 九戸郡家畜保險組合 久慈驛より十五町(自動車)
- 種豚飼養管理種付、仔豚肉豚販賣飼料共同購入
- 一戸鶏養豚組合 二戸郡一戸町・一戸驛より(自動車)
- 種豚飼養管理種付、種豚の賣却、仔豚及屠肉の共同販賣、鶏卵肉生産販賣並飼料共同購入
- 笹間養鶏組合 和賀郡笹間村・黒澤尻驛より三里
- 種鶏、種卵の拂下、食鶏肉卵の共同販賣
- 佐比内養鶏組合 紫波郡佐比内村・日詰驛より二里(自動車)
- 鶏卵肉生産販賣並に飼料共同購入
- 小岩井農場 岩手郡雫石村・小岩井驛より十八町
- 育牛、育馬、耕耘、樹林を主とし他は綿羊・豚・鶏を飼育して居る、又、バター、チーズを製造す。
- 取駒市場 盛岡市・和賀郡澤内村・稗貫郡花巻町・大迫町・岩手郡沼宮
- 畜産

畜産

六二

内町・二戸郡福岡町・九戸郡輕米町・久慈町・下閉伊郡宮古町・上閉伊郡大槌町・遠野町
氣仙郡世田米村・東磐井郡大原町・西磐井郡山目村・膽澤郡水澤町・江刺郡岩谷堂町・和
賀郡黑澤尻町

明治煉乳株式会社

下閉伊郡岩泉町・沼宮内驛より二十二里(自動車)
煉乳、バター製造、一ヶ年牛乳消費量六千石

江巻製酪所

九戸郡葛巻村・バター製造

家畜保險組合

上閉伊郡遠野町・遠野驛より(自動車)
昭和五年七月事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數二百頭、保險價額五萬圓

同

盛岡市志家・盛岡驛より約二十町(自動車)

昭和五年十月一日事業開始、同年十一月末現在、保險引受頭數一一〇頭、保險價額二萬八
千圓

主なる

豚産地

岩手郡沼宮内町・御堂村・稗貫郡花巻町・矢澤村・氣仙郡矢

主なる

養鶏地

岩手郡・二戸郡・和賀郡・稗貫郡・紫波郡・膽澤郡・九戸郡

東磐井郡

主なる馬産地
主なる牛産地

岩手郡・上閉伊郡・下閉伊郡・九戸郡・二戸郡

田老村・田野畑村・安家村・九戸郡江刈村・葛巻村・山形村・山根村・二戸郡田山村・姉
帯村・氣仙郡世田米村・吉濱村

編

羊産地

上閉伊郡宮守村・和賀郡谷内村・東磐井黄海岸村・九戸郡輕米町

養

蜂

上閉伊郡遠野町
江刺郡稻瀬村・岩谷堂町・岩手郡溢民村・瀧澤村・大更村・
二戸郡淨法寺村・斗米村・爾薩休村・岩手郡厨川村・盛岡市

水産

岩手縣水産會

製品検査、漁船員並
船匠養成指導

盛岡市内丸
盛岡驛より約十五町(自動車)

廣田村漁業組合

海産物購買販賣幹旋

氣仙郡廣田村
摺澤・遠野・小友各驛より(自動車)

綾里村漁業組合

海産物購買販賣幹旋

氣仙郡綾里村
摺澤・遠野・細浦各驛より(自動車)

水産

六三

鑛業、商工業

六六

釜石漁市場株式會社
盛岡食品市場株式會社
同
魚其の他
食品市場

上閉伊郡釜石町・平倉驛・遠野驛・釜石驛より(自動車)
盛岡市菜園・盛岡驛より約五町(自動車)

鑛業

釜石鑛山 銑鐵、丸鋼、鑄鐵管、鐵鑽石
松尾鑛山 硫黃
大萱生金山 金鑽石

上閉伊郡釜石町・釜石驛より
岩手郡松尾村・松尾驛より約二里
紫波郡乙部村・矢幅驛より約二里

商工業

家具製造
鐵工
鐵瓶工場
鐵工品
清酒釀造業
清酒讓造

盛岡市・江刺郡岩谷堂町
盛岡市・上閉伊郡釜石町
盛岡市・江刺郡羽田村・和賀郡湯田村
盛岡市・稗貫郡石鳥谷町・膽澤郡水澤町・西磐井郡一關町・東磐井郡千厩町・二戸郡福岡町等

漆器
瓦管
陶磁器
和傘

盛岡市・二戸郡淨法寺村・膽澤郡衣川村
盛岡市・花卷町・紫波郡煙山村・膽澤郡前澤町
盛岡市・稗貫郡湯本村
花卷町・岩谷堂町・江刺郡福岡村
盛岡市内丸・盛岡驛より約十六町(自動車)

盛岡商工會議所
岩手殖産銀行

盛岡市・盛岡驛より約十七町(自動車)

(支店)稗貫郡花卷町・二戸郡福岡町・膽澤郡水澤町・前澤町・西磐井郡一關町・九戸郡久慈町・下閉伊郡宮古町・岩泉町・山田町・上閉伊郡釜石町・遠野町・氣仙郡盛岡町・高田町・東磐井郡千厩町・岩手郡沼宮内町・紫波郡日詰町・和賀郡黒澤尻町・十二鎗村・江刺郡岩谷堂町・青森縣八戸市

岩手銀行

盛岡市吳服町・盛岡驛より約十八町(自動車)

(支店)上閉伊郡釜石町・大槌町・遠野町・膽澤町水澤町・水澤横町・金ヶ崎町・前澤町・江刺郡岩谷堂町・米里村・和賀郡十二鎗村・黒澤尻町・岩手郡沼宮内町・平館村・雫石村・東磐井郡千厩町・薄衣村・藤澤町・大原町・稗貫郡石鳥谷町・花卷町・紫波郡日詰町・九戸郡伊保内村・西磐井郡一關町・山目村・二戸郡淨法寺村・荒澤村・盛岡市盛岡驛前・仙北町・新穀町・氣仙郡高田町・盛岡市・世田米村・下閉伊郡宮古町・銀ヶ崎町・山田町・岩泉町・小

商工業

六七

商工業

六八

本村・田老村・縣外二

第九 銀行 金融業

本店盛岡市吳服町・盛岡驛より約十八町(自動車)

(支店)下閉伊郡宮古町・小川村・岩泉町・九戸郡葛卷村・久慈町・輕米町・岩手郡沼宮内町・二戸郡福岡町・上閉伊郡大槌町・稗貫郡花卷町・江刺郡岩谷堂町・二戸郡一戸町・盛岡市本町・盛岡市材木町・盛岡市惣門・縣外七

第十八 銀行 金融業

(支店)氣仙郡盛町・東磐井郡千厩町・縣外一

西磐井郡一關町・一關驛より(自動車)

岩手無盡株式會社

無盡業

盛岡市内丸・盛岡驛より(自動車)

盛岡無盡株式會社

無盡業

盛岡市吳服町・盛岡驛より(自動車)

水澤無盡株式會社

無盡業

膽澤郡水澤町・水澤驛より(自動車)

水上無盡合資會社

無盡業

上閉伊郡遠野町・遠野驛より(自動車)

盛岡電燈株式會社

電燈電力の供給

盛岡市紺屋町・盛岡驛より(自動車)

三陸水産冷蔵株式會社

冷蔵魚水賣買

同市六日町・盛岡驛より(自動車)

盛岡信託株式會社

信託業

同市紺屋町・同

花卷溫泉電氣鐵道株式會社

鐵道及軌道を敷設し一般の運輸業

南部土地株式會社

土地賣買

盛岡市大通盛岡驛より(自動車)

株式會社三田商會

銃砲火藥類販賣

盛岡市内丸・盛岡驛より(自動車)

岩手縣是製絲株式會社

生絲製造販賣

盛岡市下厨川・盛岡驛より(自動車)

盛岡食品市場株式會社

魚類及蔬菜其他食品販賣

盛岡市菜園・盛岡驛より(自動車)

岩手輕便鐵道株式會社

鐵道に依る旅客貨物運輸業

稗貫郡花卷町・花卷驛より(自動車)

株式會社花卷溫泉

溫泉場を設け旅館浴場

稗貫郡湯本村・花卷驛より(電車)

東北電燈株式會社

特定者に電力供給

和賀郡黒澤尻町・黒澤尻驛より(自動車)

土 畑 鐵 山

製鐵業

和賀郡湯田村・川尻驛より

氣仙水力電氣株式會社

電燈電力供給

氣仙郡盛町・遠野驛より(自動車)

陸奥電力株式會社

一般電力供給

二戸郡福岡町・北福岡驛より(自動車)

岩手日報社

新聞發行

盛岡市内丸・盛岡驛より(自動車)

商工業

六九

主なる副業

一、甘 藍

主に縣北より生産され、其の品質の優良なる點に於いて全國に冠たるものであつて、多く東京、大阪、横濱方面へ移出し、南部甘藍として名聲を馳せて居る、之が取引は各生産地に町村單位の出荷組合が在つて、更らに縣農會内岩手縣果菜組合聯合會に於て之を統制し、主として東北本線奥中山、沼宮内、川口、瀧澤、盛岡、好摩等の各驛より積出されて居る。

二、百 合

移出は殆んど岩手郡に限られ、東京市場の需要を充して居る。

三、甜 瓜

盛岡市を中心として其の隣郡に生産され、此の地方の特産と云ふても過言ではない、多く盛岡、仙北町、矢幅驛より積出され、其の需要は主として縣内の外青森、北海道等の如く北向きの傾きがある。

四、苹 果

本縣の苹果は嘗つては南部林檎として、斯界に名聲を博したことはあるが、一時病虫害のため衰退し、最近に至つて再び岩手郡、二戸郡を中心に各地方に亘つて急速なる勃興を見つゝある

状況で、風味の佳良なるは既に定評有り、主として東京に移出されて居る。

五、梨

和梨は西磐井、盛岡、氣仙に、洋梨は紫波、盛岡、岩手等の諸郡に生産され、特に洋梨フレミツシュ、ピューターは好評を博して居る。

六、栗

栗實は各地方に生産されるが、東京、大阪、北海道方面に移出される、數量は莫大に上つて居るけれど、從來顆粒不整なると、虫害のため比較的安價に取引されて居たが、近來粒撰別、荷造並二硫化炭素に依る燻蒸等の勵行と、出荷統制に依り着々成績を擧げて居り、尙一面最近勝栗の製造は勃興し漸次増加の傾向にある。

七、胡 桃

從來二戸、九戸、岩手郡地方より鬼胡桃を移出し、東京市場に好評を博しつゝあつたが、之等地方は更らに菓子胡桃を移入栽培するに及び、一層好成绩を收め年次普及の狀態に在る。

八、漆 液

漆樹の植栽は栗と共に舊藩時代から奨励して來たので、其の品質も特に純良なので好評である。

九、漆 器

創始は極めて古く「お山五器」と稱して二戸郡淨法寺村、荒澤村等は産地で又縣南膽澤郡衣川

主なる副業

七二

村からは汁椀類が過半農家の副業品として製出されてゐる、有名な秀衡塗は平泉藤原時代の漆器を近年改稱したもので、金箔及色漆を以て蒔繪を施すのが特長である。

一〇、千ぜんまい

岩手縣薬果組合聯合會に於て本年始めて「岩手もの」として東京市場に出荷し、好評を博したもので主産地と目すべきは、現在和賀郡澤内村、全湯田村、岩手郡御所村、九戸郡中野村等であるが、縣内山間地方各地に優良なる原料薇豊産し、且つ製造技術極めて簡單で然かも生産品の販賣は容易であるから將來急速なる普及を見るであらう。

一一、木炭

大正十年以降移出木炭に對して、縣管検査を施行して其の品種を統一し、又技術の改良を圖つたので「岩手木炭」として縣外市場を歴し、木炭取引の基準として推稱されるに至つた。

一二、山葵

本縣地内には山葵栽培適地が多々あるので、近年種苗の購入斡旋から栽培の實地指導を行つてゐるので、特に岩手、下閉伊、氣仙の諸郡には農家の副業として、栽培熱が熾んになり頗る面積も増大し優良なものを出してゐる。

一三、椎茸

椎茸は到る處の山林で天然に發生してゐるけれど、人工培養に依つて佳良なものを生産するの

で、將來有望な副業として技術の改善を圖り其の栽培を奨励してゐる。

一四、竹細工

籠、箆等の製造の副業が盛んで、堅牢と廉價な爲めに一般からの需要が多い。

一五、薬工品

本縣薬工品の生産並に販賣は大部分岩手縣薬工品販賣組合の統制下に在る、同組合は各主要生産地に集積倉庫並荷造場、仕上場等各種生産並販賣に關する設備を有し、且つ製作器具機械は統一されて居るので、繩、筵、臥等に付如何なる需要に對しても迅速に應じ得る特色を有し、現在に於いては縣内各種工場、會社、漁場及北海道並東京方面に販賣して居るが、將來益々發展する傾向に在る。

一六、眞綿

藩政時代から養蠶が隆盛で「南部眞綿」の名が世に現はれてゐる、近來農村婦女子の副業として、玉繭、屑物の利用加工が一般に普及され益々有望の域に進んでゐる。

一七、鶏、鶏卵

數年前迄は年生産百萬圓以上に達せるも、近年價格の下落に依つて稍々金額減少したが、其の數に於いては年次増加しつゝあり、其の収入は縣下農家戸數の六割を潤ふし、岩手縣廳内岩手縣養鶏組合聯合會を経て各地方養鶏組合は東京、横濱、北海道方面に移出して居る。

主なる副業

七三

主なる副業

一八、豚

最近養豚は各地方至る處の農家に營まれて居るが、其の中二戸、九戸郡は最たるもので、兎角從來は市價の變動に依つて消長を左右されたが、今日に至つては之等影響の支配を受けることなく、堅實なる歩調を辿つて普及發達しつゝある、成豚は主として東京に肉豚として移出され、一面種豚、或ひは仔豚として二戸郡地方より移出されて居るものも少くない、尙近來二、三養豚組合に於ては豚價暴落の對策として燻肉製造販賣を開始するに至つた。

一九、兎毛皮

本縣の養兎は市價の變動に依り、其の生産頭數に増減はあるけれ共、從來の例に徴すれば大体八萬頭から二十萬頭内外であつて、之が殆んど全部は毛皮として移出され、所謂「奥州もの」の代表的産地となつて居る、殊に最近に至つては毛質秀れ極めて大型なる二戸改良種の普及に依つて、十ヶ月飼育にて一貫七、八百匁に達するもの續々生産される様になり、斯界の注目を惹くに至り、種兎として他縣に移出されるは漸く多きを加ふるに至つた。

二〇、鯉

極めて最近に創つた事業であるけれ共、需要の激増と從來本縣には食用鯉の生産殆んどなかつたことは本事業經營上頗る有利な條件であつて、爲めに水田地方農家の間に稻田利用に依る養鯉は急速に普及しつゝある現狀で、縣内需要を充足し、且他府縣へ移出するに至るも決して遠き將來ではない、併し乍ら本縣には現在有力な取扱商人はないので、當業者は生産品の賣捌き

に就いては獨力で之に當る覺悟を要する。

二一、蜂 蜜

上閉伊郡、二戸郡、九戸郡等主なる産地であつて、蜜源植物の關係上品質特別に優良なものは少いけれ共、蜜量極めて豊富であつて中央市場に於て、中等ものとして歡迎されて居る狀態で年次増産の傾向に在る。

二二、羊毛及羊毛加工品

現在緬羊飼育頭數約三千頭で、之より生産する羊毛は汚毛として販賣する以外、加工してホームパンとして販賣して居るが、特にホームパンは近來各種の共同施設に依つて大量生産を計畫して居るから、今後益々増産せらるべき傾向にある。

二三、絹織物

和賀郡小山田村、下閉伊郡岩泉町等主産地であつて平絹、縮緬、紬、絹等を産して居るが近來各地方に於いて、岩手縣繭糸販賣組合聯合會と連絡を探り、原料糸の配給を受け、共同作業に依る生産を計畫中である。

二四、紫根 染

古來「南部紫」と稱して紫草根を染料として精製したもので、其の絞りは唯致に富み、又皮膚の保健に効があるので有名である、近年技術益々向上した反物の外、卓子掛、帛紗、其の他加

主なる副業

主なる副業

工品に利用さる、様に至つた。

二五、椿油

氣仙郡の海岸地方は氣候温暖で早春二月野生の椿が開花結實するので椿油を生産してゐる。

二六、和傘

稗貫郡花巻町、江刺郡福岡村等主産地であつて、實用的經濟品として好評あり、年産額十萬圓乃至二十萬圓に達する。

二七、凍豆腐

近年縣内各地方に生産されるに至つた、が之等組合中、江刺郡愛宕村凍豆腐生産販賣組合と西磐井郡萩莊村凍豆腐組合は、共に一ヶ年の生産販賣高一萬圓以上に達して居るが、尙注文に應じ得ざる状況に在る、殊に近來之が製造技術大いに向上し、且つ從來の天然乾燥を共同火力乾燥に改めた結果面目を一新するに至り、益々有望なる事業と目されて居る。

二八、藻類

若布、昆布等は本縣沿岸各地方より生産し、多くは原料態の儘移出され、年額三十萬圓に達して居るが、之と同時に近來は各種加工によつて、精製品の生産次第に増加されて居る。

名物名産

○農産物

芋	盛岡市・岩手郡中野村・和賀郡立花村・二戸郡一戸町・氣仙郡末崎村
甜瓜	岩手郡沼宮内町・厨川村・二戸郡小島谷村
里芋	紫波郡乙部村
梨	紫波郡見前村・和賀郡二子村
黒平大豆	盛岡市・氣仙郡末崎村・米崎村・岩手郡中野村
葱	岩手郡澁民村
百合根	西磐井郡萩莊村・山目村
楳椗	東磐井郡長嶋村
柿	紫波郡德田村・乙部村
蠶絲	氣仙郡各町村・東磐井郡各町村・西磐井郡老松村
眞綿	盛岡市・西磐井郡山目村・下閉伊郡岩泉町
蠶種	盛岡市・稗貫郡花巻町・下閉伊郡千徳村・二戸郡福岡町
名物名産	盛岡市・紫波郡日詰町・江刺郡羽田村・和賀郡二子村・岩手郡卷堀村・西磐井郡平泉村・東磐井郡大原町・摺澤村

○林 名物名産

胡 桃
 手 打 胡 桃
 椎 茸
 山 葵
 漆 液
 桐材下駄甲良
 木 炭
 椿 油
 ○水 産 物
 鱈 節
 鰹 節
 鮭 節
 鮪 節
 船越村
 九戸郡山根村・紫波郡佐比内村
 九戸郡江刺家村
 氣仙郡吉濱村・上閉伊郡上郷村
 岩手郡大更村・西山村・下閉伊郡豊間根村・西磐井郡荻莊村・氣仙郡世田米村
 二戸郡荒澤村・御返地村・淨法寺村
 下閉伊郡刈屋村
 九戸郡種市村
 氣仙郡米崎村
 氣仙郡赤崎村・上閉伊郡釜石町・下閉伊郡宮古町
 氣仙郡大船渡町
 氣仙郡吉濱村・上閉伊郡大槌町・釜石町・下閉伊郡山田町・織笠村
 船越村

○工 産 物

乾 鮑
 鯨 鱈
 鱈 鱈
 魚 油
 鮫 水
 魚 粕
 若 布
 明 骨
 海 苔
 か き
 刻 若 布
 干 錫
 鮎 錫
 鐵 瓶 類
 盛岡市・江刺郡羽田村・和賀郡湯田村
 氣仙郡綾里村・上閉伊郡鷓住居村・下閉伊郡重茂村・船越村
 上閉伊郡釜石町
 上閉伊郡釜石町・下閉伊郡宮古町・山田町
 上閉伊郡釜石町・下閉伊郡宮古町・九戸郡宇部村
 下閉伊郡山田町・上閉伊郡釜石町
 氣仙郡氣仙町・下閉伊郡宮古町・九戸郡久慈町
 下閉伊郡田野畑村・宮古町・田老村
 上閉伊郡釜石町・下閉伊郡山田町
 氣仙郡大船渡町・赤崎村・上閉伊郡大槌町・下閉伊郡織笠村・山田町
 氣仙郡大船渡町・赤崎村
 下閉伊郡宮古町・田老村
 氣仙郡・上閉伊郡・下閉伊郡・九戸郡(各水産會)
 和賀郡谷内村・稗貫郡龜ヶ森村・氣仙郡氣仙町

名物名産

陶磁器

稗貫郡湯本村(臺燒)・盛岡市(岩手燒)

漆器

盛岡市(秀衡塗)・二戸郡浄法寺村(浄法寺塗)・東磐井郡摺澤村(摺澤塗)

紫根染

盛岡市

南部紬

下閉伊郡岩泉町

荷札

盛岡市

竹細工

西磐井郡一關町・二戸郡浪打村

和紙

東磐井郡田河津村・長坂村・松川村・和賀郡十二鎗村・西磐井郡眞瀧村

和傘

稗貫郡花巻町・江刺郡福岡村・岩谷堂町

玩具

盛岡市(南部桐人形)・(南部板馬)・花巻町(花巻人形)

椿油

氣仙郡廣田村・高田町・米崎村

埋木細工

西磐井郡一關町

紫雲石硯

東磐井郡田河津村・長坂村・膽澤郡水澤町

桐製盆

盛岡市・九戸郡久慈町

鯨骨細工

上閉伊郡釜石町

眞綿加工品

盛岡市

タオル

盛岡市

清酒

岩手川・榮冠あき開・菊の司・櫻顔・岩の花(盛岡市)・世嬉の一(西磐井郡一關町)・四季の友・氷上正宗・多賀多(氣仙郡高田町)・稻の友・南部關

七光正宗

・奥の花(稗貫郡石鳥谷町)・玉の春(東磐井郡千厩町)福來(九戸郡宇部村)・

濱千鳥

(上閉伊郡釜石町)・七福神(稗貫郡花巻町)・積善正宗・白藤正宗・司・寶津・

志ら梅

(江刺郡岩谷堂町)・開福(岩手郡大更村)・岩手譽(膽澤郡水澤町)・白菊(氣仙

郡盛町)

・山下水・堀の友(二戸郡福岡町)・金千鳥(上閉伊郡遠野町)・來恩(九戸郡久

慈町)

菓子類

豆銀糖・金山からめ餅・家福餅・葡萄飴・くるみ羊羹・松の實糖・

林檎羊羹

・黃精飴・麥煎餅(盛岡市)・大正餅(紫波郡日詰町)・花巻おこし・黃身可

世・榎梓羊羹

(稗貫郡花巻町)・黃金餅・金山おこし(和賀郡黒澤尻町)・煉羊羹・白

羊羹

(江刺郡岩谷堂町)・煉羊羹(膽澤郡水澤町)・時の太鼓・田村の梅・光豆・關の

花

・ちから餅・茄子の甘露漬(西磐井郡一關町)・凍餅(西磐井郡平泉村)・ほととぎ

名物名産

名物名産

才(東磐井郡千鹿町)・尻鼻羊羹(東磐井郡長坂村)・猿澤羊羹(東磐井郡猿澤村)・栗落雁(東磐井郡大原町)・明烏・胡桃羊羹(上閉伊郡遠野町)・米おこし(氣仙郡世田米村)・柚羊羹(氣仙郡高田町)・柿羊羹(氣仙郡盛町)・いかせんべい(上閉伊郡釜石町)・鯉煎餅(下閉伊郡宮古町)

其他飲品 凍豆腐(江刺郡愛宕村)・納豆(稗貫郡花卷町)・味噌(江刺郡岩谷堂町)・菓子種(稗貫郡花卷町)・素麵類(膽澤郡前澤町)・稗貫郡花卷町・江刺郡岩谷堂町・西磐井郡一關町)・鮎味噌(西磐井郡一關町)

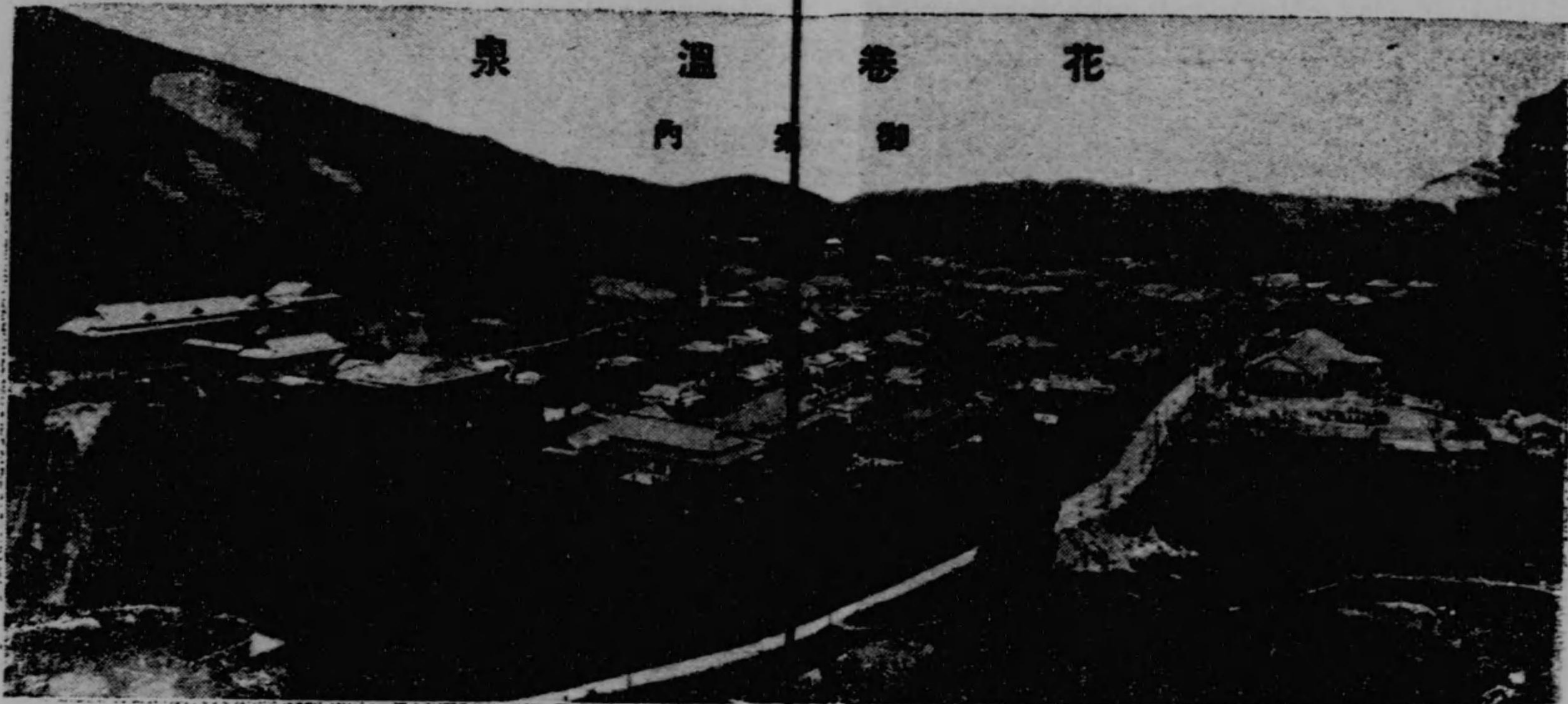
昭和八年十一月二十五日印刷
昭和八年十一月三十日發行

岩手縣知事官房編纂

印刷所 盛岡市掛屋町三十九番戸 杜陵印刷所

印刷人 盛岡市掛屋町三十九番戸 赤澤亦吉

有線花巻電車連絡二十分・賃金三十三錢



神経痛、リウマチス、胃腸病、婦人病に卓効あり

民衆的な御宿 菜館

- 一、御一泊料 竹 金一圓五十錢
- 一、御日歸食料 金一圓二十錢
- 一、御自炊御室料(器具、併電燈付) 金六十錢
- 五月より十月迄 一室御四人迄 金三十錢
- 十一月より四月迄 同 金二十五錢

御宿兼御自炊旅館 花盛館

- 一、御一泊料 御一人 金二圓五十錢
- 一、御日歸食料 同 金九圓十錢
- 一、御宿泊食料 御一人 金六圓十錢
- 一、御自炊御室料(器具、併電燈付) 御一人 金六圓十錢
- 五月より十月迄 一室御四人迄 金四十錢
- 十一月より四月迄 同 金三十錢

大衆的旅館 千秋閣

- 一、御一泊料 御一人 金三圓五十錢
- 一、御日歸食料 同 金一圓二十錢
- 一、御宿泊食料 同 金九圓十錢
- 同室御二人以上割引

静かな安壯な旅館 松雲閣

- 御一泊料 二圓迄(同室御二人以上割引)
- 御日歸食料 金一圓七十錢より金四圓迄(同室御二人以上割引)
- 御宿泊食料 御一人二圓三十錢迄(同室御二人以上割引)
- 洋室(御食事付) 甲八圓 乙金七圓(同室御二人以上割引)

御家庭向の御休泊別荘 貸別荘

- 御貸上料一日(浴場、電燈、電話自炊器具付) 甲、七、八、九日 金五圓五十錢、其他の月 金四圓
- 乙、同 金四圓、同 金三圓
- 但シ十一日以上一割引、二十一日以上二割引ノコト

大小御宴會席 紅葉館

- 御宿泊・出来ます(松雲閣へ御問合下さい)
- 例年十二月月中旬より
- 三月迄閉場夜間スレ
- 一の設備あり

講演場、大弓場、室内遊戯場、テニス、動物園、其他の運動娯樂機關設備あり、釜淵の瀧、碓ヶ森瀧、堂ヶ澤山の展望臺、羽山風車山の山居美等景勝絶佳、電信電話等通信機關完備

- 約三千坪十八ホ
- ゴル
- 植
- 園
- 場

高山植物園より成る

144
977



